

在学中保存

2021年度入学生 履修要覧

国際観光学部

Faculty of International Tourism Management

◇ 国際観光学科



東洋大学

目次

はじめに	1	語学単位認定制度	73
掲示板案内	2	語学学習の奨励について	74
ToyoNet-G / ToyoNet-ACE / ToyoNet メール	3	資格取得学生の顕彰制度について	75
<hr/>		大学院開講科目先行履修制度	76
建学の理念と教育方針	5	国際交流・国際教育プログラム	77
建学の理念	6	Toyo Global Leader (TGL) プログラム	78
<hr/>		海外留学・研修プログラム	80
学修にあたって	7	本学を休学して外国の大学等へ留学した場合の単位認定について	86
カリキュラムの概要	8	英語特別教育科目LEAPプログラム	87
卒業・学位	10	<hr/>	
授業について	12	各種手続	89
試験・レポート	21	各種相談や事務取扱窓口について	90
成績	25	学籍情報	91
その他	27	休学および復学	94
学則	29	退学	96
国際観光学部規程	31	除籍	98
<hr/>		再入学	99
教育課程表と履修方法について	33	その他の学籍異動	100
教育研究上の目的（国際観光学部）	34	各種証明書	101
教育研究上の目的（国際観光学科）	35	納付金	103
国際観光学科の教育方針	36		
カリキュラムの特徴	37		
卒業要件	40		
年次別履修登録単位数制限	41		
履修上の注意	42		
カリキュラムマップ	45		
教育課程表	46		
<hr/>			
諸資格について	63		
社会福祉主事	64		
<hr/>			
国際観光学部 学生支援プログラム	65		
海外研修／学部長期留学プログラム	66		
テンプレート大学ジャパンキャンパス学生交換プログラム	70		
東洋大学と東京外国語大学の単位互換制度について	71		
課外特別講座	72		

はじめに

本書の使用方法について説明します。

- ・この履修要覧は2021年度入学生に適用されるものです。
入学年度によって内容が異なりますので、自分の入学年度の履修要覧を使用してください。
- ・履修要覧には学生生活を送るうえで、とても重要な事項が記載されていますので、十分に確認してください。
- ・履修要覧は、卒業時まで使用します。万一紛失した場合でも、再配付はしませんので、大切に保管してください。
なお、履修要覧は本学Webサイトからダウンロードできます。
- ・履修要覧の記載事項に修正が生じた場合は、国際観光学科掲示板・ToyoNet-ACE等でお知らせします。

掲示板案内

◆◆ 掲示板 ◆◆

大学あるいは学部からの連絡および学生に対する伝達はすべて掲示板またはToyoNet-G、ToyoNet-ACE、ToyoNet メールを通して行われます。

大学への登下校時をはじめ、日頃から必ず確認する習慣をつけましょう。

●● 関連 URL ToyoNet 情報関連ページ <https://www.toyo.ac.jp/toyonet/top> ●●



掲示内容により掲示板の場所が異なりますので、注意してください。

掲示内容	掲示板設置場所	問い合わせ
大学公示	キャンパスプラザ	
授業・試験・補講 レポート	1号館 1階エレベーターホール	教務課
学部からのお知らせや 学生呼び出しなど	1号館 3階 1305 教室前	
キャリア形成支援 就職活動支援	1号館 3階・4階 6号館地下1階・1階 各門入口 8号館 2階・4階	就職・キャリア 支援課
ボランティア募集	雨水会館 1階	ボランティア支援室
遺失物	1号館 1・5・6・7階 3号館ナレッジスクエア入口脇 4号館 1階 6号館 1階 6号館地下1階	学生支援課
セミナーハウス イベント情報		
保健管理室		
学生サポート室		
ピアサポートルーム		
留学生奨学金等		
奨学金・学生呼び出し		
運動部活動		

※掲示板の設置場所を変更した場合は別途お知らせします。

◆◆◆ ToyoNet-G / ToyoNet-ACE / ToyoNet メール ◆◆◆

大学生活を過ごすにあたって、大学のさまざまな Web システムを使用する機会があります。授業や各種手続、お知らせを確認するための主な Web システムについて紹介します。

◆◆ ToyoNet-G ◆◆

大学での生活・学修上で必要となる手続き・登録を行うシステムです。大学生活に関する情報の発信も行っています。

< ToyoNet-G を使う一例 >

- ・各種登録（履修登録など）
- ・各種照会（成績、学期末試験時間割、シラバス、教員プロフィールなど）
- ・各種申請の手続（住所変更、成績調査など）
- ・各種書類の印刷（履修登録確認表、成績表など）
- ・アンケート回答
- ・大学からのお知らせ確認（個人宛／休講・補講情報など、トップページに表示されます）
- ・シラバス、教員プロフィールの閲覧

詳しい利用方法については、ToyoNet-G の「各種資料」にある「ToyoNet-G 利用ガイドブック」を参照してください。

◎ログイン方法

東洋大学 Web サイトの下段にある「ToyoNet-G 学務システム」のバナーをクリックしてください。

ログインに必要な ID とパスワードは、入学手続を完了した際に、大学から届くメールに記載された手順に従って確認・登録してください。

※パスワードを忘れてしまった場合は下記 URL から再登録することが可能です。

<https://gainfo.toyo.ac.jp/reminder/resetrequest>



●● 関連 URL（東洋大学トップページ） <https://g-sys.toyo.ac.jp/portal/> ●●

◆◆ ToyoNet-ACE ◆◆

授業において、出席の管理や課題の提出などに使用されます。

また、授業時間以外でも授業への理解を深めるため、講義内容を補完するツールとして使用されることがあります。

< ToyoNet-ACE を使う一例 >

- ・授業の出席カード提出
- ・講義資料のダウンロード、印刷
- ・授業担当教員からのお知らせ
- ・小テスト、レポートの提出
- ・アンケート回答
- ・大学からのお知らせ確認

詳しい利用方法については、ToyoNet-ACE の手引き・申請書等にある「情報システム利用ガイド」を参照してください。

●● 関連 URL <https://www.ace.toyo.jp/ct/login> ●●



◆◆ ToyoNet メール ◆◆

本学の学生一人ひとりに付与されるメールアドレスです。無料で使用できます。このメールアドレスを使って、授業担当教員へ連絡することができます。また、大学から ToyoNet メールアドレスへ連絡することがありますので、定期的に確認するように心がけてください。

< ToyoNet メールを使う一例 >

- ・ 授業担当教員との連絡
- ・ 就職活動での連絡先として
- ・ 教務課からの連絡

詳しい利用方法については、ToyoNet-ACE の手引き・申請書等にある「情報システム利用ガイド」を参照してください。

◎ログイン方法

東洋大学ホームページより、下部にある「ToyoNet 学内情報システムポータル」のバナーをクリックしてください。

左端のメニューより、「ToyoNet メール ログイン」をクリックし、ログインしてください。

ログインに必要な ID とパスワードは、入学手続きを完了した際に大学から届くメールに記載された手順に従って確認・登録してください。

●● 関連 URL <http://mail.toyo.jp/> ●●



Column

～学内（白山キャンパス）の PC 教室・自習用 PC 教室について～

大学内には自由に使うことができる PC 教室があります。

< 学内の常設 PC スペース >

- ・ 3号館 1階 ナレッジスクエア
- ・ 1号館地下 1階 ラーニング・commons（図書館内）

また、自習用として開放されている PC 教室もあります。ただし、授業などで使用できない時間帯もありますので、注意してください。

< 自習用 PC 教室 >

- ・ 3号館 2階

建学の理念と教育方針



建学の理念

◆◆ 建学の精神 ◆◆

「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」

◆◆ 東洋大学の教育理念 ◆◆

【自分の哲学を持つ】

多様な価値観を学習し理解するとともに、自己の哲学（人生観・世界観）を持つ人間を育成する。

【本質に迫って深く考える】

先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方で、論理的・体系的に深く考える人間を育成する。

【主体的に社会の課題に取り組む】

社会の課題に自主的・主体的に取り組む、よき人間関係を築いていける人間を育成する。

◆◆ 東洋大学の心 ◆◆

【他者のために自己を磨く】

自分を磨くのは、人々のためにはたらくことができるようになるためであり、そのことを自覚して学業に励むのが東洋大学の心である。

【活動の中で奮闘する】

現実社会における活動の中にどこまでも前進してやまないのが、東洋大学の心である。

◆◆ 創立者 井上円了と東洋大学 ◆◆

東洋大学は、1887（明治20）年、哲学者・井上円了が創立した「私立哲学館」によってその歴史が始まりました。円了は幕末の1858（安政5）年、越後国三島郡浦村（現在の新潟県長岡市浦）のお寺の長男として生まれ、1881（明治14）年、設立間もない東京大学文学部哲学科にただひとりの1年生として入学しました。勉学を通して、「洋の東西を問わず、真理は哲学にあり」と確信します。ここでいう哲学とは、「万物の原理を探り、その原理を定める学問」であり、それは概念的、演繹的な哲学ではなく、事実と実証に基づく哲学であるという点が強調されました。哲学することによって、日本人の心、ものの見方・考え方の近代化を目指したのです。

円了は創立前に「哲学はあらゆる事物の原理を定める学問であります。政治、法律はもとより科学や芸術まで、その根底には哲学がなくてはなりません」と述べています。この考えから1887（明治20）年「私立哲学館」という哲学専修の私立学校を創立しました。これが現在の東洋大学の前身にあたります。

円了が教育で目指した哲学は、いわゆる「哲学者」の養成ではなく、思想や精神を錬磨する術（すべ）であり、他に応用する能力も身につけなければならないものであると説いています。

教育の機会の開放を願い、円了は、哲学館の設立趣旨の一つに「余資なく、優暇なき者」でも誰でも学問が学べることを掲げています。そうしたことから、学校開設の翌年から『哲学館講義録』を発行して、通学できない者にも勉学の機会を与えました。

さらに、円了は30歳代から、生涯続けることになる全国巡回講演を始めています。特に、学校経営の現場を離れた1906（明治39）年からの13年間で、全国60市、2196町村において5291回の講演を行うなど、「社会教育」に力を入れました。日本に、新しい教育の扉を開こうとした円了の情熱が伺えます。この心を引き継いで現在の東洋大学では「開かれた大学」を目指し、講師派遣事業や公開講演会など、地域のみならず全国の人々に生涯学習の場を提供しています。

学修にあたって







カリキュラムの概要

◆◆カリキュラム（教育課程）◆◆

カリキュラムとは、大学の目的、学部学科の人材養成の目的を達成するために、開設する授業科目を配列し、どのような知識・能力を身につけることになるのかを体系的に示したものです。

◆◆東洋大学スタンダード 2021◆◆

東洋大学は、全学的な教育目標「東洋大学スタンダード 2021」をふまえ、哲学教育・グローバル教育・キャリア教育を軸として学力と人間力をともに養成し、グローバル人財の育成を実現するカリキュラムを編成しています。

東洋大学は、建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」に基づき、学生に以下の力を身につけさせることを宣言します。

1. 「諸学の基礎は哲学にあり」の精神に基づき、生涯にわたり本質に迫って深く考え抜く力
2. 「独立自活」の精神に基づき、社会的に自立した人間として、主体的に判断し、行動できる力
3. 「知徳兼全」の精神に基づき、人間としての価値の実現を目指し、地球環境と人類社会に貢献できる人間力
4. 変わりゆく社会のなかで、自ら問いを立て諸課題を解決できる想像力とイノベーション力
5. グローバル社会において、多様な伝統と文化を尊重し、対話や議論を通じて他者と協働していく力

基盤教育科目「東洋大学スタンダード」を学び幅広い知識・教養を身につけ、専門科目を深く体系的に学ぶことができるよう、本学の学士課程教育が構成されています。

※学士課程教育とは、学部教育に加え、国際的通用性のある大学教育の課程の修了に関わる知識・能力を習得した者に学位を与える教育課程（プログラム）です。

◆◆カリキュラムの概要表◆◆

基盤教育科目	
哲学・思想	「諸学の基礎は哲学にあり」の精神に基づき、生涯にわたり本質に迫って深く考え抜く力 理論哲学や実践哲学、倫理観を確立するとともに、自ら考え、判断し、行動する能力、 総合的視野に立ち、他分野の人々と協働できる能力を身につける。そのために古今東西 の賢人たちが残した哲学・思想に耳を傾け、それらについて深く考えることで思考を錬 磨し、自らのものの見方・考え方の基盤を築くとともに、多角的なもの見方・考え方 を受容する力の獲得を目指す。
学問の基礎	「知徳兼全」の精神に基づき、人間としての価値の実現を目指し、地球環境と人類社会に 貢献できる人間力 変化の激しい現代社会を生きるための教養とは、幅広い知識の修得のみならず、グロー バルな視野を持ち、歴史的かつ多角的な視点で物事を深く考え、自然やものの成り立ち、 科学と社会との関係を正しく理解したうえで適切な判断ができる能力を意味する。人文・ 社会・自然科学の諸分野における先人の知恵に学び、それらを横断する学際的な探求活 動を通じて、教養を身につける。
国際人の形成	グローバル社会において、多様な伝統と文化を尊重し、対話や議論を通じて他者と協働 していく力 地球でともに生きる市民のひとりであることを自覚し、多様な伝統や文化を越えて、個 を尊重しながら共生、協働していくための素養を身につける。そのために複数の言語を 使う力を伸ばすとともに、柔軟で論理的な思考力、異なる価値観を認めあうための受容 力と発信力を高め、自らの考えを的確に伝えられる、そして相手の考えを多角的、多元 的に理解できるコミュニケーション能力の伸長を目指す。
キャリア・市民形成	「独立自活」の精神に基づき、社会的に自立した人間として、主体的に判断し、行動でき る力 人生 100 年時代を迎え、さまざまに多様化が進む現代社会で「よく生きる」ためには、社 会的・職業的な課題の理解力、判断力、行動力が必要である。これらの養成のために、法律、 会計、IT、情報、環境など、社会や組織を理解するための基本を学ぶとともに、他者と 協働し、自ら行動するためのコミュニケーション力、調整力、キャリア開発力を身につけ る。
総合・学際	変わりゆく社会のなかで、自ら問いを立て諸課題を解決できる想像力とイノベーション力 グローバル化と技術革新の進展がもたらす現代社会の課題について、複数の学問視点や 複合・学際領域など多様な視点から、さまざまなひとや組織と協働して、柔軟で斬新な 解を見いだす力を身につける。そのために、分野を超えて最新の技術動向や研究成果を 学ぶ授業を展開し、対話をとおして、その知識や技能を応用して発展的・創造的に思考・ 発想する力を養成する。
健康・スポーツ科学	多様化するグローバル社会に対して、知徳体のバランスの取れた健康的な人材を育成す ることを目指し、スポーツの価値の中核である「楽しさ」「喜び」を享受し、スポーツの持 つ価値を最大化させる「人」「社会」「世界」を様々に結びつける人間力となるコミュニケー ション能力、リーダーシップ、協調性、課題発見・解決能力等を身につける。
専攻領域	
学科専門科目	カリキュラムの中心となる最も多く履修・修得する必要がある学科専門科目群です。 必修・選択必修・選択科目等に分かれています。

東洋大学スタンダード2021

学修にあたって

卒業・学位

◆◆卒業要件、修業年限／在学年限◆◆

卒業するには、修業年限の4年（8セメスタ）以上在学し、学科が定めている卒業要件をすべて充足する必要があります。

在学できる年数は最長で8年（休学期間を除く）と定められています。

卒業要件

- 1) 修業年限を満たしていること。
- 2) 所属学科の卒業要件を満たしていること。
- 3) 卒業要件に含まれる科目の修得単位数が124単位以上であること。

Column

～卒業見込みとは？～

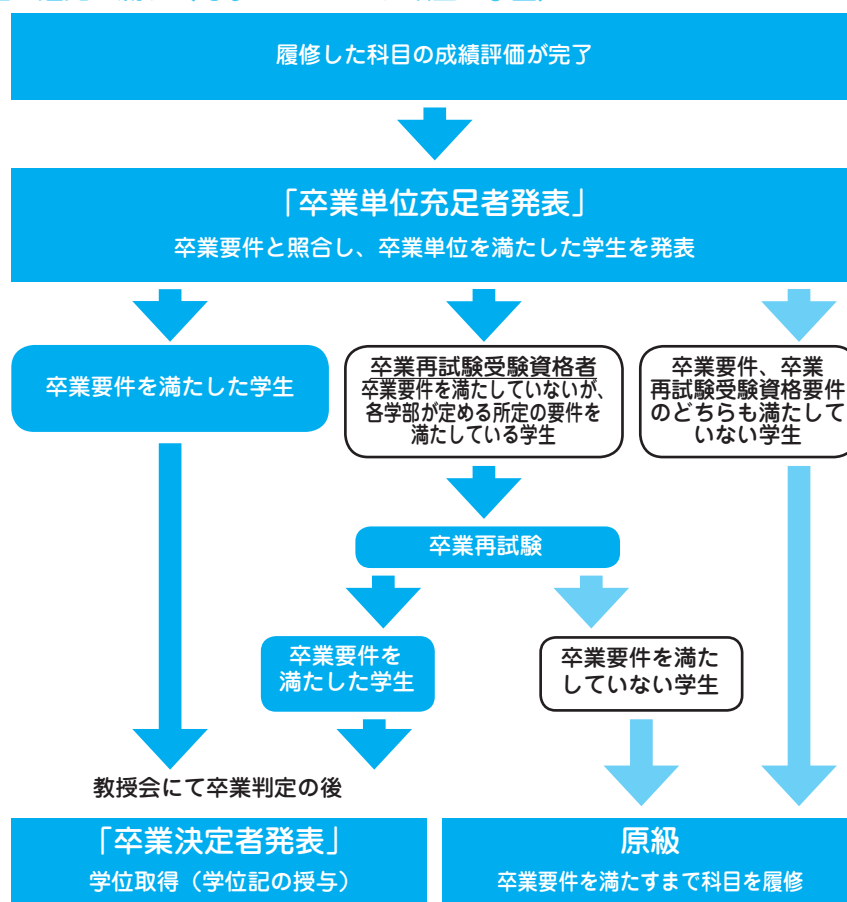
卒業見込みとは、休学期間を除いて6セメスタ以上在学後（100単位以上修得）、1年間（2セメスタ）在学し、所定の単位を修得することで、卒業要件を満たして卒業が可能になる状態を指します。卒業見込みの状態でも、すべての卒業要件を満たすように単位修得しなければ卒業できません。

◆◆卒業決定の通知◆◆

教授会にて学部・学科の卒業要件と照合し、卒業可能かどうかを判定した後、卒業決定者を発表します。

卒業単位充足者、卒業決定者の発表は、ToyoNet-G等にて行います。

卒業決定の通知の流れ（対象：8 セメスタ以上の学生）



学位の授与

修業年限（P.10）を満たし、定められている卒業要件をすべて充足することで、学位が授与されます。

国際観光学科……学士（国際観光学）



学科の卒業要件を必ず確認してください。（P.40 参照）

授業について

◆◆授業の期間◆◆

本学で行われる授業には、1年間を春学期・秋学期の2学期に分割し、15週間単位で授業を行うセメスタ授業と、各セメスタを2分割し、8週間単位で授業を行うクォーター授業があります。また、夏季・春季休暇期間に、集中講義や実習等の授業が行なわれる場合があります。これをセッション授業といいます。

春学期（4月1日～9月30日）						秋学期（10月1日～3月31日）					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
春セメスタ授業期間			夏セッション			秋セメスタ授業期間			春セッション		
第1クォーター		第2クォーター				第3クォーター		第4クォーター			
				夏季休暇						春季休暇	

※学則上の学期日程と実際の学年暦（授業カレンダー）は異なることがあります。

学籍異動等の取り扱いは、学則上の学期日程（春：4月1日～9月30日、秋：10月1日～3月31日）で取り扱います。

※学年暦（授業カレンダー）の詳細は、年度ごとに発行される『学生生活ハンドブック』の「年度行事予定」で確認してください。

※開講形態は、科目によって異なります。各年度の授業時間割・開講形態・履修登録期間等は『履修登録のしおり』および『授業時間割表』にて、確認してください。また、追加の周知事項がある場合、ToyoNet-G や学内掲示板等で随時お知らせします。

◆◆授業時間◆◆

白山キャンパス・総合スポーツセンター（板橋区清水町）の授業時間帯は以下のとおりです。授業時間は90分です。

なお、授業時間帯は変更することがあります。

	時限	時間帯
第1部	1時限	9:00～10:30
	2時限	10:40～12:10
	3時限	13:00～14:30
	4時限	14:45～16:15
	5時限	16:30～18:00
第2部・イブニングコース	6時限	18:15～19:45
	7時限	19:55～21:25

※科目によっては、第1部の科目でも6時限に開講される場合もあります。

◆◆白山キャンパス・総合スポーツセンター（板橋区清水町）間をまたがり履修する場合◆◆

移動に 30 分以上を要するため、連続している時限では、白山キャンパスと総合スポーツセンター間をまたぐ履修はできません。

下表を参照のうえ、履修可能な時間割を作成し履修登録を行ってください。

1 時限	2 時限	昼休み	3 時限	4 時限	5 時限
●	履修不可				
履修不可	●				
			●	履修不可	
			履修不可	●	履修不可
				履修不可	●

●・・・総合スポーツセンター(板橋区清水町)で履修をする場合

◆◆休講・補講／授業の欠席◆◆

休講の決定・お知らせ

担当教員のやむを得ない理由により、授業が休講（当日の授業が行われないこと）になる場合があります。

あらかじめ休講とする場合には、ToyoNet-G の「休講・補講情報」にて通知されます。

緊急の場合には、教職員が直接教室にて連絡することがあります。

※授業開始時刻から 30 分経っても教員が教室に来ない場合は、教務課まで連絡のうえ、職員の指示に従ってください。

休講の確認方法

・ ToyoNet-G

ToyoNet-G ログイン後、トップページにて確認することができます。

休講情報はここで確認できます。

補講情報はここで確認できます。

※履修登録が完了するまでは、休講・補講の確認はできません。

緊急時の授業の取扱い

下記①～③の場合、授業の取扱いについて、大学 Web サイト・ToyoNet-G にてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。

①台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合

②台風・地震の災害等により交通機関が運行停止となった場合（人身事故等一般的な運行停止を除く）

③大規模地震の警戒宣言が発令された場合

※授業中に上記①、③の状況となった場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

※学内で実施される講演会・講座等についても、上記措置に準ずるものとします。

補講実施のお知らせ

休講になった場合、補講が行われます。補講実施情報は、学内掲示板、ToyoNet-Gの「休講・補講情報」にてお知らせします。

なお、授業によっては補講に代わって、レポート課題等が課される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

※補講は各学期の補講調整期間内に行う場合と、期間外に行う場合があります。

授業の欠席について

やむを得ない理由により、授業を欠席する場合は、事前に担当教員に直接連絡してください。教員の連絡先は、ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」にて確認してください。

教務課窓口・電話等での取り次ぎは一切行いません。

ただし、病気・ケガ等により長期欠席することが予想される場合には、教務課に相談してください。

欠席の理由	提出書類	連絡方法	備考
体調不良ほか自己都合	教員の指示に従う	教員に直接連絡	忌引きの場合でも原則出席扱いにはなりません。
指定感染症による出席停止 (インフルエンザ、はしか等)	感染症治癒証明書 ※ 治癒後、診断を受けた医師から証明を受け、医務室に提出してください。 ※ 書式は、ToyoNet-Gの「各種資料」からダウンロードしてください。	保健管理室に電話連絡の後、教員に直接連絡	出席停止の場合でも原則出席扱いにはなりません。
3ヶ月以上の欠席を要する病気・怪我	休学許可願（休学する場合）	教務課に連絡	病気・怪我等やむを得ない事情等の理由により、3ヶ月以上本学に修学できない場合は、大学の許可を得て、休学することができます。

※メールのみの連絡は一方的かつ行き違いの原因となります。必ず次回出席時に担当教員に申し出てください。

※交通機関の影響等による遅刻の場合は、交通機関発行の遅延証明書を担当教員に提出してください。

なお、国際観光学部では「観光」という分野の特性上、交通機関の遅延も含めて遅刻扱いとする授業もありますので、担当教員の指示に従ってください。

◆単位のしくみ◆

授業科目には学修時間に応じた単位数が定められており、卒業要件等の基準は修得すべき単位数として規定されています。1単位は、授業や自習（予習・復習）を含めた45時間の学修に対応しており、45時間の学修のうち授業の占める時間は、講義・演習科目は15時間、外国語科目は30時間、実験・実技・実習科目は45時間と設定されています。授業時間はどの科目も90分間です。

学修時間の考え方

$$\boxed{\text{単位}} = \boxed{\text{授業}} + \boxed{\text{自習（予習・復習）}}$$

授業科目の区分と1単位における学修時間

授業科目等	単位数	授業実施	学修時間		
			授業時間	予習・復習時間	合計
講義・演習	1単位	15週	15時間	30時間	45時間
外国語科目	1単位	15週	30時間	15時間	45時間
実験・実技・実習	1単位	15週	45時間	0時間	45時間

◆履修計画・履修登録◆

各学科の教育課程表に沿って、計画的な履修をするようにしてください。また、カリキュラムマップを参考にし、不明点は教職員の履修指導を受けるなど、段階的な履修計画を立てるようにしましょう。

なお、授業を受け、単位を修得するためには、事前に履修を希望する授業科目の登録（「履修登録」）が必要です。

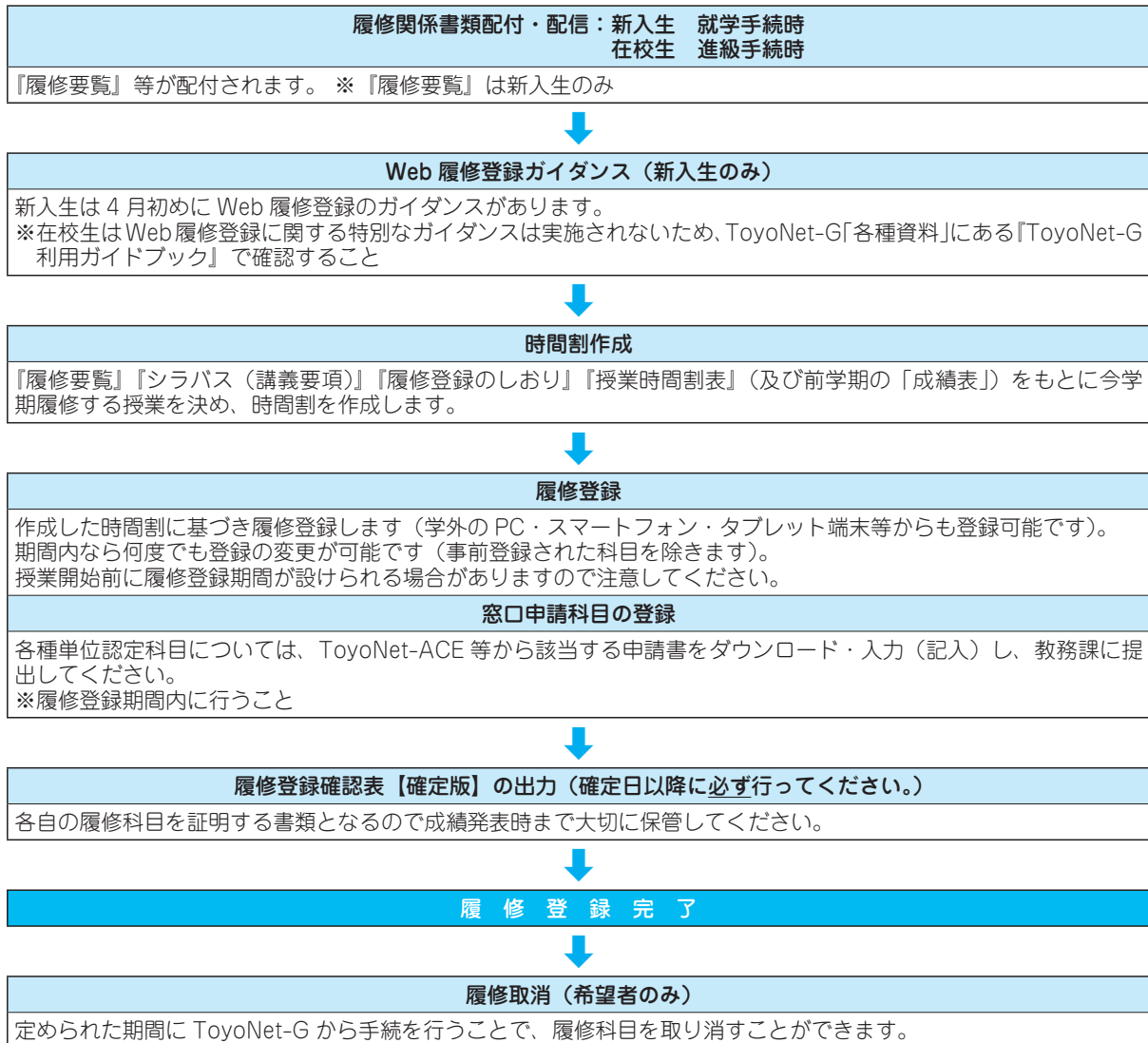
履修計画のポイント

- ①所属学科の卒業要件をよく理解すること。
- ②所属学部の『履修登録のしおり』および『授業時間割表』をよく読み、当該年度の履修上のルールなどについて、きちんと把握すること。
- ③必修科目や選択必修科目など、卒業要件のうち優先度の高い科目については、配当学年（履修可能年次）において早めに履修すること。
- ④『履修登録のしおり』および『授業時間割表』をよく読み、履修を希望する科目同士の時間割の重複（曜日・時限・開講学期）がないか確認すること。重複があった際には、上記③の優先度を考慮して履修すること。
- ⑤進級する際や成績発表後は、これまで履修し、単位修得した科目を振り返り、残りの必要単位数や修得が必要な科目を確認すること。
また、所属学科の『カリキュラムマップ』を参考に、これまで履修した科目やこれから履修する科目の関係性を理解するとともに、卒業までに必要な知識・能力などを踏まえ、選択科目などの必要な履修の参考にすること。
- ⑥必要に応じて、教員に相談するほか、履修ガイダンスに参加し、必要な科目をチェックすること。



定められた期間に「履修登録」をしないと、履修希望する科目の受講、試験の受験が認められず、単位の修得ができません。

◆履修登録の流れ◆



- ①科目によっては抽選を行う場合があります。
- ②履修登録期間を過ぎてからの訂正は認められません。
- ③GPA制度に沿わない履修科目の取り消しはできません。『履修登録のしおり』をよく確認してください。

◆履修上限単位数（CAP 制）と履修科目の制限◆

各学期（セメスタ）に履修登録することのできる単位数に制限があります。
詳細は P.41 を確認してください。

履修科目の制限・注意

- (1) 既に修得した科目は原則履修できませんが、一部の科目において、再登録可能な科目があります。
- (2) 上級学年に配当されている科目は履修できません。
- (3) キャンパス間をまたぐ履修においては、履修できない時限があります。
- (4) 隔年開講の科目があります。
- (5) 同一名称科目を同一学期に2科目以上履修することはできません。ただし、履修した科目を修得できなかった場合は、次学期以降に再度履修することができます。
- (6) 学部・学科・学年・クラス等が指定されている科目がありますので、「履修登録のしおり」および「授業時間割表」を確認の上、登録してください。
- (7) 自分の所属する学科の教育課程表になく、他学部他学科開放科目一覧にも記載されていない科目を自由科目として履修する場合は、担当教員の許可を得て履修してください。
- (8) 科目によっては、定員を設けている場合があります。第1回目の授業に出席し、担当教員の許可を得ることが履修の条件となる科目もありますので、「履修登録のしおり」および「授業時間割表」やシラバスを確認してください。
- (9) 履修希望者が集中し、教室の収容定員を超えた場合は、抽選等により履修者を決定します。詳細は、「履修登録のしおり」および「授業時間割表」を確認してください。
- (10) 履修登録期間終了後、授業教室が変更される場合があります。

◆シラバス◆

シラバス（講義要項）には、授業の内容（概要）や到達目標など、科目の履修を通じて身につけることのできる知識、能力、また各回の授業の進め方や内容、成績評価方法・基準、使用テキストや予習・復習の指示などが記載され、あらかじめ学生に示されています。

履修する科目を決める際に、シラバスを熟読することはもちろん、次回の授業の準備学習や復習の際の振り返りに用いるなど、シラバスを活用することによって学修効果を高めるよう努めてください。シラバスは「ToyoNet-G」にて公開しています。

シラバスの記載項目

主な記載項目	記載内容
科目名	履修要覧・授業時間割表に記載されている科目名が示されています。
担当者	担当教員名が示されています。
時間割	科目の開講学期・曜日・時限が示されています。
教室	科目が開講される教室名が示されています。
サブタイトル	科目のサブタイトル、サブテーマが示されています。
講義の目的・内容	科目の目的として、どのような内容を学ぶのが、またどのように教授していくかについて示されています。
学修到達目標	履修を通じて身につけることのできる知識・能力などが具体的に示されています。
講義スケジュール	各回の授業内容・テーマをもとにしたスケジュールが示されています。
指導方法	担当教員がどのように授業内容を進めていくのかについて示されています。
事前・事後学習	授業を受講するにあたって、必要な予習・復習について示されています。
成績評価の方法・基準	どのような方法で成績評価をするのが、また評価方法ごとにどのような割合で成績に反映するのかについて示されています。
受講要件	履修にあたってあらかじめ必要な条件について示されています。
テキスト	授業で使用する教科書やテキストについて示されています。
参考書	授業に関連する参考書が紹介されています。

シラバスの検索方法

シラバスは ToyoNet-G で検索することができます。

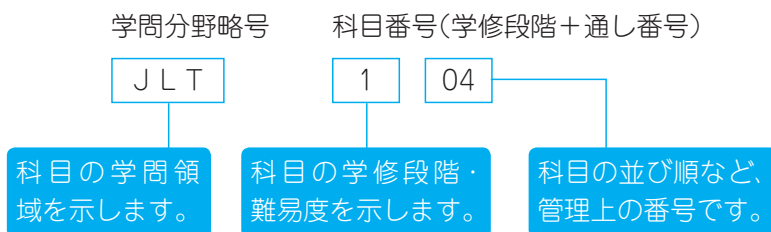
The image displays three screenshots from the ToyoNet-G system. The top-left screenshot shows the user's profile page with a blue arrow pointing to the 'My Profile' section. The top-right screenshot shows the 'Menu' page with a blue arrow pointing to the 'Syllabus Search' link. The bottom-left screenshot shows the 'Syllabus Search' form with a blue arrow pointing to the 'Subject Name' and 'Instructor Name' fields. The bottom-right screenshot shows the search results page with a blue arrow pointing to the search criteria.

調べたい科目名や教員名を入力

◆◆科目の記号と番号（科目ナンバリング）◆◆

科目ナンバリングとは、授業科目の学問分野と学修段階（難易度）がわかるように各授業科目に番号を付して分類したものです。授業の難易度や専門性に応じて順次的に授業を選ぶことができます。

科目ナンバリングの体系



各授業科目には、記号と番号が付されています（P.50～の教育課程表を参照）。

学問分野略号

ABE	建築学
ACC	会計学
AHS	応用健康科学
ARC	考古学
ARL	芸術一般
ARS	地域研究
ASA	美学・芸術諸学
AST	天文学
BAB	基礎生物学
BSC	基礎化学
CAS	文化財科学・博物館学
CEE	土木環境システム
CEP	土木計画学・交通工学
CHI	語学(中国語)
CHL	中国文学
CIB	中国哲学・印度哲学・仏教学
CIL	民事法学
CIV	キャリア/インターンシップ/ボランティア系科目
CLI	臨床心理学
CME	商学
COT	計算基盤
CRL	刑事法学
CUA	文化人類学・民俗学
DEV	持続可能システム
EAP	地球惑星科学
ECD	キャリア・市民形成
ECH	経済史
ECO	経済学
ECP	経済政策
ECS	経済統計
ECT	理論経済学
EDE	経済学説・経済思想
EDP	教育心理学
EDU	教育学
ENE	エネルギー学
ENG	語学(英語)
ENL	英語学

ENV	環境保全学
EPS	環境政策・環境社会システム
ESS	教科教育学
EUL	ヨーロッパ文学
EXP	実験心理学
FAH	美術史
FLE	外国語教育
FRA	語学(フランス語)
FUL	基礎法学
GBC	GBC セミナー
GDE	ジェンダー
GER	語学(ドイツ語)
GGR	地理学
GLE	グローバル・アントレプレナーシップ
HAA	アジア史・アフリカ史
HEA	ヨーロッパ史・アメリカ史
HIS	史学
HIT	思想史
HPH	衛生学・公衆衛生学
HSG	史学一般
HSS	健康・スポーツ科学
HUG	人文地理学
HYE	水工学
IDN	語学(インドネシア語)
IHR	国際人の形成
ILA	国際法学
INN	情報ネットワーク
INR	国際関係論
ITS	総合・学際
JLE	日本語教育
JLN	日本語学
JLT	日本文学
JPH	日本史
JPN	語学(日本語)
KOR	語学(韓国語)
LAW	法学
LIE	英米・英語圏文学
LIG	文学一般

LIH	図書館情報学・人文社会情報学
LIN	言語学
LIP	公認心理師
MAN	経営学
MAT	数学
MOF	金融・ファイナンス
MUD	マルチメディア・データベース
NDD	自然災害科学・防災学
NFL	新領域法学
PFP	財政・公共経済
PHE	哲学・倫理学
PHY	物理学
POL	政治学
PSY	心理学
PUL	公法学
RES	宗教学
SCE	科学教育
SEM	ゼミナール/基礎演習
SHS	科学社会学・科学技術史
SNE	特別支援教育
SOC	社会学
SOE	教育社会学
SOF	ソフトウェア
SOL	社会法学
SOP	社会心理学
SPA	語学(スペイン語)
SPS	スポーツ科学
SSS	社会・安全システム科学
STS	統計科学
SUS	留学支援
SWS	社会福祉学
THA	語学(タイ語)
THE	卒業論文/卒業制作
THI	情報学基礎理論
TOS	観光学
TPA	都市計画・建築計画
TYS	自校教育科目
WIS	ウェブ情報学・サービス情報学

科目番号（学修段階+通し番号）

100 番台	主に大学1年生を対象とした授業(1年次レベル)
200 番台	主に大学2年生を対象とした授業(2年次レベル)
300 番台	主に大学3年生を対象とした授業(3年次レベル)
400 番台	主に大学4年生を対象とした授業(4年次レベル)
500 番台	大学院レベル

※上記の科目番号(○年次レベル)は授業の難易度を示すものとして付されています。

教育課程表に記載されている配当学年(履修可能年次)と異なる場合があります。

※通し番号は以下のルールで付番されています。

01～99→a1～a9→b1～b9→c1～c9→・・・(以降、アルファベット順に従います。)

◆教員との連絡◆

教員と連絡を取りたい場合は、次のような方法があります。

研究室を訪ねる

専任教員(教授、准教授、講師、助教)にはそれぞれ研究室があり、学生からの相談や質問を受けるために「オフィスアワー」を設けています。

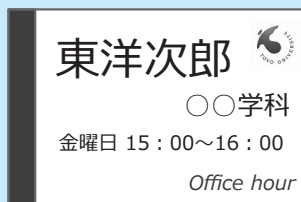
オフィスアワーとは、授業とは別に学修について相談できる時間帯のことです。授業内容に関する質問や、学修の進め方、履修登録のプランなどの相談のほか、レポート指導なども行っています。その他、卒業後の進路や休学、転部・転科、留学、大学院進学などの進路に関する相談、学生生活全般の相談など、幅広い相談に対応しています。

非常勤講師の教員は、研究室を持たないため、オフィスアワーがない場合があります。連絡を取りたい場合は、ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」に記載されている連絡先を参照してください。

Column

～オフィスアワーの確認方法について～

- ① ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」に記載されている「オフィスアワー」の時間帯、研究室の場所を確認し、訪問してください。予約が必要な場合もありますので、あらかじめ確認することをお勧めします。
- ② 研究室のドアに貼られている「オフィスアワー」を確認し訪問してください。研究室には、以下のような掲示がされています。



(オフィスアワーの掲示例)

メールを送る

ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」に記載されているメールアドレスを確認し、メールを送ってください。



メールで連絡する際には、必ず大学名・学部名・学籍番号・氏名を明記し、授業科目名を書き、相談内容を具体的かつ短くまとめること。

試験・レポート

◆試験について◆

- 履修登録した科目の単位を修得するためには、授業回数の3分の2以上出席し、所定の試験に合格しなければなりません。
- 試験には平常試験と学期末試験があります。科目によっては、レポートまたは平常点によって評価します。

試験には次の種類があります。

平常試験	通常の授業期間内で実施される試験
学期末試験	各学期の試験・補講調整期間に実施される試験 ※試験実施の2週間前に学期末試験時間割表をToyoNet-Gで発表します。
レポート	試験のうち、担当教員の判断により筆記試験に替えて課す課題
卒業再試験	卒業単位充足者発表後、各学部所定の要件を満たした卒業を希望する4年生(8セメスタ以上)を対象として行われる試験

※授業ごとの成績評価方法については、シラバスの「成績評価の方法・基準」を確認してください。また授業中に担当教員から指示される場合があります。

〈受験上の注意事項〉

- 履修登録確認表に記載されていない科目を受験しても無効です。
- 学期末試験、平常試験ともに通常授業実施時間帯で試験が行われます。
- 試験会場は平常授業時と異なる場合があるので、ToyoNet-Gの情報を確認してください。
- 1科目で試験会場が2カ所以上になる場合、学籍番号で試験会場を指定するので、必ず指定された試験会場を受験してください。
- 試験に際しては、すべて監督者の指示に従ってください。
- 学期末試験では、学生証がないと受験できないので必ず携帯し、試験会場では机上の指示された場所に提示してください。(平常試験でも求められる場合がありますので、学生は必ず携帯すること。)
- 試験会場に持ち込みできるものは、筆記用具・時計機能だけの時計・持ち込みが許可されたもののみです。携帯電話、スマートフォン等の通信機能が付いた機器は机上に置けません。試験の妨げにならないよう電源を必ず切って、かばんにしまってください。なお、上記の機器、音楽プレーヤーを時計代わりに使用することはできません。
- 筆記用具(ボールペン、鉛筆、消しゴム)を必ず持参してください。貸出は一切行いません。
- 試験中の飲食は禁止します。
- 答案用紙の、学部・学科・学年・学籍番号・氏名欄には必ず黒のペンまたはボールペンで記入してください(ただし、インクが消しゴム等で消せないものに限る)。
- 学籍番号欄は学生証に記載されている学籍番号の10ケタすべてを記入してください。学籍番号、氏名のない答案用紙は無効です。
- 学期末試験は試験開始後20分までに入室しないと受験資格を失います。また退室は開始後30分を経過し、監督者の指示があった後のみ許可します。途中退室した場合、再入場は認めません。
- 天災、病気、その他やむを得ない理由によって、試験を受験できなかった場合は速やかに証明書または診断書(コピー可)等を添えて担当教員に届け出て、具体的な指示を受けてください。
- 不正行為を行った場合は、学則(第57条)に基づき処分されます。不正行為についての規程と処分内容はP.22を参照してください。平常試験でも不正行為があった場合には、処分されます。担当教員の指示・説明をよく確認してください。
- 交通機関の運行や天候の乱れ等に留意し、試験会場へは時間に余裕をもって入場してください。

平常・学期末試験における不正行為

不正行為（本学の規則に反する行為、または学生の本分に反する行為）を平常・学期末試験において行った場合は、学則第 57 条に則り処分されます。

1. 処分の種類
処分は、譴責、停学又は無期停学とする。
2. 処分とその対象となる不正行為
 - (1) 譴責の対象となる行為
 - ア 持ち込みが認められているものの貸借。
 - イ 他人の答案の覗き見、答案を故意に他人に見せ又はそれを見る行為。
 - ウ 試験監督者又は監督補助者からの注意を無視した行為。
 - エ その他アからウに準ずる行為。
 - (2) 停学 1 ヶ月の対象となる行為
 - ア 解答用紙を交換する行為。
 - イ 許可されていないものの持ち込み。
 - ウ 書込みを許可されていない持込許可教材、机上、手掌等へ書込みをしておいた受験、又は、これに類似する行為。
 - エ 試験監督者又は監督補助者からの注意に対する暴言。
 - オ その他アからエに準ずる行為。
 - (3) 無期停学の対象となる行為
 - ア 替え玉受験。
 - イ 在学中における再度の不正行為。
 - ウ 試験監督者又は監督補助者からの注意に対する暴力行為。
 - エ その他、極めて悪質な行為。
3. 処分に伴う措置
 - (1) 処分の種別にかかわらず、不正行為のあった試験科目の単位は、当該年度（学期）において認定しない。また、上記「2. (2)」及び「2. (3)」の停学の対象となる行為については、当該年度（学期）の試験期間において実施される全ての試験科目の単位を認定しない。
 - (2) 停学期間は当該学部教授会で処分に関する意見を決定した日から起算することを原則とする。
 - (3) 決定した処分内容については、不正行為者が所属する学部の学部長が、本人及び保証人と面接のうえ、通達する。
 - (4) 停学期間中は、不正行為者に対してその所属学部が教育的指導を行う。
 - (5) 「譴責の対象となる行為ア及びイ」、「停学 1 ヶ月の対象となる行為ア」、「無期停学の対象となる行為ア」の不正行為は、その当事者全てが上記（1）～（4）の措置の対象となる。
4. 不服申立て
不正行為の指摘を受けた学生は、不服申立てをすることができる。

卒業再試験

4 年次生で卒業当該学期に卒業要件を満たしていない者について、以下の要領で「卒業再試験」を実施します。

(受験資格)

卒業再試験は 4 年次生で卒業を希望する者であり、卒業当該学期に卒業に必要な単位数で不足している科目数が 3 科目以内でかつ 6 単位以内の者に対して所定の手続きを経て行われます。

(対象科目)

卒業再試験の対象となる科目は以下のすべてに該当する科目とします。

- (1) 卒業当該学期に履修登録を行っている科目
- (2) 卒業単位充足者発表時の評価で「D」の評価を得た科目

(対象除外科目)

以下の科目は卒業再試験対象科目から除外されます。

- (1) 演習、実習、実験、実技、語学、ゼミナール関係科目
- (2) 卒業論文、卒業課題
- (3) 不正行為等により無効となった科目
- (4) 通常の評価において「E」「*（評価対象外）」と判定された科目
- (5) 科目の性質上、担当教員と開講責任学部の学部長が協議して卒業再試験にふさわしくないと判断した科目。ただし、その科目にあっては学生の履修登録以前に卒業再試験を実施しないことを学生に対して明示するものとします。

(再試験手続)

再試験は、卒業当該学期で発表される卒業単位充足者発表時に、定められた期間内に面接を受けた上で所定の手続を行うものとします。

- (1) 再試験手続を行わなかった場合は、自動的に受験する権利は消滅します。
- (2) 受験しようとする者は、卒業再試験対象科目であり、かつ卒業再試験を行う科目の中から、卒業に不足する単位数分の科目数のみ受験することができます。
- (3) 代理人による手続は認められません。

(再試験受験料)

再試験受験料は以下の通りです。

1 科目 5,000 円

(再試験の評価)

卒業再試験の成績評価は以下のとおりです。

- (1) 成績評価基準は、それぞれの科目において学期末試験または平常試験で実施した基準と同等とします。
- (2) 再試験の結果、合格した者の受験科目成績評価は「C」評価とします。

◆レポートについて◆

レポート提出方法、日時、提出先を授業時及び掲示板で確認してください。



教務課窓口では、レポート郵送先・教員の連絡先の照会に応じることはできません。

レポートボックス設置場所

担当教員の指定するボックス番号、提出物の回収締め切り日時等を確認してください。

設置場所 2号館3階 3号館連絡通路脇 (No.1～50)
6号館2階 6210 教室横 (No.51～80)

Column

～ラーニングサポートセンターを活用しよう～

白山キャンパスラーニングサポートセンターでは、次のような学修相談・各種講座等の支援を行っています。大学での学修をより良くするためにも、ラーニングサポートセンターを利用しましょう。

- (1) 学習上の諸問題に係る相談
- (2) レポート・論文の書き方相談、文献・資料の調べ方相談
- (3) 高校までの基礎学力向上に係る支援
- (4) 資格等の学習に係る支援
- (5) 情報リテラシーに係る支援
- (6) 留学生を対象とした日本語ライティング支援、論文の書き方相談

～開室時間～

月～金 10:00～18:00 3号館1階 ナレッジスクエア内

※開室日時は変更になることがあります。利用の際は、ホームページにて確認してください。



成績

◆ 単位の認定 ◆

単位の認定は、履修登録した科目に対して、出席状況、試験（レポート含む）等によって評価されます。



授業科目ごとの成績評価方法は、シラバスに記載された「成績評価の方法・基準」を確認してください。

◆ 成績評価基準 ◆

本学の成績評価基準は以下のとおりです。

合否	成績表示	評価点の範囲	基準
合格	S	100 ~ 90	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
	A	89 ~ 80	到達目標を十分に達成している。
	B	79 ~ 70	到達目標を達成している。
	C	69 ~ 60	到達目標を最低限達成している。
不合格	D	59 ~ 40	到達目標を達成していない項目があるが、学修行動を改めることにより達成する可能性がある。
	E	39 以下	到達目標の項目の全てまたはほとんどを達成していない。
	*	評価対象外	出席・試験・レポート提出等の評価要件を欠格。

- ※ 上記の到達目標とは授業科目のシラバスに明記された到達目標を指します。
- ※ 「評価対象外」とは、授業期間を通じ出席不良(3分の2以上出席していない)、またはレポート未提出、試験の不受験のために成績評価の判断ができないものを指します。
- ※ 上表のほかに、留学や他大学での学修成果などを単位認定する場合、「T (Transfer の略)」を合格の評価として使用します。



履修登録した科目の単位を修得するためには、授業回数の3分の2以上出席し、所定の試験（レポート、平常試験等含む）に合格しなければなりません。

◆ GPA 制度 ◆

GPA (Grade Point Average) とは、授業科目ごとの成績に対して、0.0 ~ 4.3 のグレード・ポイントを付与し、この1単位あたりの平均を算出したもので、学生の学習到達度をはかる指標として、国内外の大学で広く使われています。

【GPA の算出方法】

$$\text{GPA} = \frac{(S \text{ の修得単位数} \times 4.3) + (A \text{ の修得単位数} \times 4.0) + (B \text{ の修得単位数} \times 3.0) + (C \text{ の修得単位数} \times 2.0) + (D \text{ の修得単位数} \times 1.0) + (E \text{ の修得単位数} \times 0.0) + (* \text{ の修得単位数} \times 0.0)}{\text{総履修登録単位数}}$$

- ※ 対象とする科目は、卒業要件の科目とし、卒業要件以外の資格科目・自由科目は対象となりません。
- ※ 対象とする評価は、「S, A, B, C, D, E, *」とし、認定の評価「T」は対象となりません。
- ※ 再履修で評価を受けた成績については、上位の成績が反映されます(GPA 算出の分母にあたる「総履修登録単位数」にはカウントされません)。
- ※ GPA は計算結果の小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までを表示します。

◆◆成績の通知◆◆

- (1) 成績は学期ごとにToyoNet-Gで通知します。成績発表日については掲示等でお知らせします。
- (2) 成績表は毎学期、保証人へ送付します（留学生を除く）。



保証人への送付を希望しない学生は、定められた期間に教務課窓口にて手続きを行ってください。

◆◆成績調査◆◆

成績発表後、成績評価に誤りがあると思われる十分な理由がある場合、担当教員に成績評価に誤りがないか、確認の申請をすることができます。

成績調査の申請および申請結果の確認はToyoNet-Gで行ってください。



成績調査は成績の再考や、個別の得点の開示を求めるものではありません。十分な理由が示されていない、成績調査の趣旨に沿わない調査申請については申請を取り消されるので、本学の成績評価基準、及び各科目のシラバスに記載された「成績評価の方法・基準」を必ず確認したうえで申請してください。

◆◆単位僅少者に対する学修指導について◆◆

各セメスタもしくは学年の終了後、修得単位が僅少の学生に対して、学修計画の見直しなどの学修指導（面談）を行う場合があります。学部・学科からの連絡・指示に従って、学修指導を受けてください。



その他

◆◆学生アンケートについて◆◆

本学は、教育の改革・改善を目的として、各授業の改善を図るために各学期ごとに行う授業評価アンケートや、各学年のカリキュラムや教育方法、学修支援の検証を行うための学生アンケートを実施しています。

アンケートの実施は別途周知されますので、ご協力をお願いいたします。

◆◆学外での活動について◆◆

学外実習・インターンシップ・フィールドワーク等は、必ず担当教員の指示のもと実施・参加してください。実習先等への配慮はもちろんのこと、本学学生として自覚をもった行動をするよう心がけてください。

またすべての学生は、「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」に加入しています。傷害を被った場合は、所定の手続きにより保険の請求をすることができます。

詳しくは、『学生生活ハンドブック』を確認してください。不明点は、学生支援課窓口まで問合せてください。

◆ 4年間の主な流れ・スケジュール ◆

	1年次	2年次	3年次	4年次
4月	入学式 新入生オリエンテーション	進級手続		
	春学期履修登録／春セメスタ・第1クォーター授業開始			
5月～6月	第1クォーター授業終了／第2クォーター授業開始			
	第1クォーター成績発表・成績調査			
	春セメスタ・第2クォーター授業終了、試験・補講調整期間			
	夏季休暇／夏セッション			
7月～9月	春セメスタ・第2クォーター成績発表・成績調査			
				※第8セメスタ以降学生対象 卒業単位充足者発表 卒業再試験 卒業決定者発表式 卒業式
	秋学期履修登録／秋セメスタ・第3クォーター授業開始			
	大学祭			
10月～12月	第3クォーター授業終了／第4クォーター授業開始			
	第3クォーター成績発表・成績調査			
	冬季休暇			
1月	秋セメスタ・第4クォーター授業終了、試験・補講調整期間			
	春季休暇／春セッション			
2月	秋セメスタ・第4クォーター成績発表・成績調査			
3月				※第8セメスタ以降学生対象 卒業単位充足者発表 卒業再試験 卒業決定者発表式 卒業式

※年度によって変更となる場合があるので、『学生生活ハンドブック』の「年度行事予定表」を参照すること。

学則

学則（学籍および単位認定に関する事項の抜粋）

2021年4月1日現在

最新の学則および別表はホームページをご確認ください。

第3章 修学等

第1節 修業年限

（在学年限）

第20条 卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数（以下「在学年数」という。）は、通算して8年を限度とする。この場合において、休学年数は在学年数に算入しない。

2 再入学又は編入学をした者の在学年数は、前項の在学年数から再入学又は編入学までの通常の在学の年数を控除した年数とする。

第4章 入学、退学、休学、除籍等

第1節 入学、留学等

（入学の時期）

第24条 入学期は、学期の初日から30日以内とする。

（入学資格）

第25条 学部第1年次に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣が指定した者
- (6) 大学入学資格検定（平成17年1月31日規程廃止）に合格した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (8) その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者

（入学の志願及び選考）

第26条 入学志願者は、所定の書式による入学願書を提出し、別表第1に定める入学検定料を納入し、かつ、選考試験を受けなければならない。

（入学の手続）

第27条 入学を許可された者は、入学金を納入し、所定の書式により誓約書を提出しなければならない。

（保証人）

第28条 保証人は、父、母又はその他の成人者で独立の生計を営む者でなければならない。

2 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

3 学生は、保証人を変更し、又はその氏名若しくは居住地に変更があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

（学生証）

第29条 入学手続を終えた者には、学生証を交付する。

（編入学）

第30条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者が本学に編入学を希望するときは、選考のうち、編入学を許可することができる。

- (1) 短期大学を卒業した者
- (2) 大学を卒業した者
- (3) 高等専門学校を卒業した者
- (4) 専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

2 編入学に関する規程は、別に定める。

（転入学）

第31条 学長は、他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出たときは、選考のうち、転入学を認めることができる。

2 転入学に関する規程は、別に定める。

（転部・転科）

第32条 学長は、学生が学部の他の部へ、又は他の学部及び学科又は専攻へ転部及び転科を願い出たときは、選考のうち、これを許可することができる。

2 転部・転科に関する規程は、別に定める。

(留学)

第33条 学長は、学生が外国の大学で学修することを願い出たときは、教授会の意見を聴いて留学を許可することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、在学年数に算入する。

(二重学籍の禁止)

第34条 学生は、他の学部学科又は他の大学と併せて在学することはできない。ただし、本学と本学の協定大学の間で実施されるダブル・ディグリー・プログラム及びジョイント・ディグリー・プログラムへの参加者には適用しない。

第2節 休学、退学、転学及び除籍

(休学)

第35条 引続き3カ月以上修学できない学生が休学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

2 休学は、連続する2学期限りとする。ただし、特別の事情がある場合は、学長は教授会の意見を聴いて、2学期を超える期間の休学を許可することができる。

3 休学の期間は、通算して8学期を超えることはできない。

4 願いにより休学した者が、休学の期間が満了した場合又は休学期間中に休学の理由が消滅した場合において、復学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(退学)

第36条 学生が理由を明確にして退学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

2 願いにより退学した者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(転学)

第37条 学生が転学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(除籍)

第38条 次に掲げる各号のいずれかに該当する者は、所定の手続を経て、除籍する。

- (1) 授業料その他の学費を所定の期日までに納入しない者
- (2) 第20条に規定する在学年数を超えた者
- (3) 第35条第2項に規定する休学期間を超えた者
- (4) 新入生で指定された期限までに履修登録を行わないこと、その他本学において修学の

意思がないと認められる者

(5) 外国人留学生で出入国管理及び難民認定法に定める「留学」の在留資格の入国査証の発給が拒否された者

2 学生は、除籍されることにより、学生の身分を失う。

3 第1項の規定(第2号及び第3号に掲げる者を除く。)により除籍された者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

第5章 教育課程及び履修方法

(他の大学の授業科目の履修)

第43条 教育上有益と認めるときは、他の大学との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目の単位については、学長は教授会の意見を聴いて、60単位を限度に卒業所要単位として認めることができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第43条の2 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。

2 前項により認めることができる単位数は、前条により本学において修得したものと認める単位数と合わせて、60単位を超えないものとする。

(留学の場合の準用)

第44条 第43条第2項の規定は、学生が外国の大学に留学する場合について準用する。

第8章 賞罰及び奨学

(懲戒)

第57条 学長は、本学の学則その他の規程に反し、又は学生の本分に反する行為があった学生に対し、教授会の意見を聴いて、行為の軽重と教育上の必要とを考慮して、譴責、停学又は退学の処分をすることができる。

2 退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者以外には、これを行うことはできない。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由なくして出席常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者



国際観光学部規程

2021年4月1日現在

最新の学部規程および別表はホームページを確認してください。

(趣旨)

第1条 この規程は、東洋大学学則（昭和24年4月1日施行。以下「学則」という。）に基づき、国際観光学部の教育研究に関し必要な事項を定める。

(教育研究上の目的)

第2条 国際観光学部は、学則第4条の2に基づき、学部及び各学科又は専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を、別表第1のとおり定める。

(卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施及び入学者受入れの方針)

第3条 国際観光学部は、学則第4条の3に基づき、学部及び各学科又は専攻の卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針を、別表第2のとおり定める。

(教育課程)

第4条 国際観光学部は、学則第39条第1項第1号から第5号に基づき、各学科又は専攻の教育課程における科目区分、授業科目の名称、単位数、配当及び履修方法を、別表第3のとおり定める。

(卒業に必要な単位等)

第5条 国際観光学部は、学則第52条に基づき、各学科又は専攻の卒業に必要な単位等を、別表第4のとおり定める。

(履修上限単位数)

第6条 国際観光学部は、学則第42条第3項に基づき、各学科又は専攻の卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を、1年次は22単位、2年次から4年次は24単位とする。

(諸資格)

第7条 学則第45条に基づき、国際観光学部で取得できる資格は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 社会福祉主事となる資格

(資格取得のための授業科目及び単位数)

第8条 学則第45条第2項に基づき、国際観光学部で資格を取得しようとする者は、次の各号に定める所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

(1) 社会福祉主事資格 別表第5に掲げる授業科目の単位を修得

(改正)

第9条 この規程の改正は、学長が国際観光学部教授会の意見を聴き、学部長会議での連絡調整を経て行う。

附則

(略)

教育課程表と履修方法について

本項目には以下の内容を含む、卒業まで必要となる要件や履修方法など記載されています。

①カリキュラムマップ

1年次から4年次までの各学科専門教育科目体系をモデル化した図です。
履修計画を立てる際、学びたい科目体系の指標としてください。

②教育課程表

各学科の教育課程（カリキュラム）に配置されている科目の一覧表です。図表化されたものと、リスト化されたものとの、2種類あります。表記の形態は異なりますが、単位数、配当学年などは同じ内容です。

③卒業要件

各学科に定められている卒業要件を記載しています。

教育研究上の目的（国際観光学部）

1 人材の養成に関する目的

国際観光学部は、国際的な視野から観光を論理的思考により捉え、円滑な観光交流を促進するために当事者意識を持って主体的かつ積極的に対応することができ、地域活性化に貢献したり、観光関連企業や組織をマネジメントしたりすることができる人材を養成します。

2 学生に修得させるべき能力等の教育目標

建学の理念である哲学をはじめとして、文化、宗教観等の幅広い知識・教養を基盤に、観光学に関する基本から応用までの理論を修得させると同時に、英語をはじめとした外国語の学修により国際的なコミュニケーション能力を身につけたうえで、内外の最前線においての実習・体験などを通して実務を学ぶことにより、観光の社会的責任を正しく認識し、世界を舞台に活躍できる優れた人材を育成することを教育目標としています。

最近の観光業界では、「タビマエ・タビナカ・タビアト」といった旅行へ行く前、行った所で、行った後という3つの場面で語られることが多くあります。どの場面においても、最大限のサービスをお客様に提供するためのマネジメントができる人材が必要とされています。国際観光学部では、そのような人材を育成するために、旅行産業・経営・マーケティング・ホスピタリティマネジメントをはじめ多彩な科目を取り揃えています。そして、観光を通じて地域活性化に貢献できる人材を育てるための観光政策・まちづくり・環境分野の科目も豊富に用意しています。加えて、国際社会の場で活躍できるように、語学や文化について学べる科目も充実させています。観光学はとても多彩な学問です。学生の皆さんにはさまざまな学修を通して、観光のプロフェッショナルになってほしいと願っています。

観光は、形は変われども、古代から人間と切っても切り離せない存在です。世界中の多くの神話にも旅人が必ず登場します。神話の中でしばしば語られるのは、天空にいる神々が旅人の姿になって地上に降り立ち、その地の住民がどのように旅人をもてなすのかを試すというものです。旅人は貧しい身なりをして寝る所や食べ物を住民に求めます。神々が住民の心の温かさを探り、素晴らしい民かどうか見るという具合です。観光に携わる皆さんは一人一人が、別の場所から来た人々にどのようなサービスを提供し、そしてそれらがいかに素晴らしいものであるのか試されているといってもいいでしょう。折しも人類はウィズコロナ・ポストコロナの時代に生きることになりましたが、どんな時代であっても観光は進化をしながらいつも身近な存在であり、皆さんにはあらゆる観光の場でマネジメントのトップランナーになってほしいと思います。

そして今、持続可能な観光、サステイナブル・ツーリズムの重要性が叫ばれています。訪れた地域の環境や文化を尊重しながら、観光客も責任を持って行動することが必要です。サステイナブルな観光のために、マネジメントする私たちがどのようなことができるのか、どのようにしなければならないのかについて、学部での教育を通じて皆さんと議論できるのを楽しみにしております。

国際観光学部長

教育研究上の目的（国際観光学科）

東洋大学の観光学科は第一回目の東京オリンピックが開催（1964年）された前年（1963年）に日本で初めて高等教育機関（当時は短期大学部）として文部科学省に観光系の学科として認可された日本で最も長い歴史を持ち、多くの研究の蓄積のある学科です。そして2001年に4年制の「国際観光学科」として発展し、さらに2017年に「国際観光学部」として更に大きく飛躍しました。

東洋大学が1963年に観光学科を設立した時と日本の状況は大きく変わりました。東洋大学が観光学科を設立した1963年には観光基本法が制定され、基本的な観光産業の基盤が整えられたわけですが、その後、日本が人口減少社会に入ることを見込み国は観光基本法を全面的に改正し2007年に観光立国推進基本法を施行しました。これによりインバウンド振興をはじめとして、観光産業を国の基幹産業として育成してゆくことに国が舵を切ったわけです。つまり、皆さんが本学部で学ぶということは国の基幹産業を様々な面から支えるといった極めて重要な役割を担う可能性を持っているということになるわけです。その点は忘れないでください。

国の基幹産業である観光産業を振興するためには実際に現場で何が起きているかを知ることがもちろん重要ではありますが、それだけでは国際化が進み、政治環境が変化し、技術革新が急速に進むなか、観光産業を持続的に育成することはできません。多面的な側面から観光産業を理論的に学ぶことが必要となってきます。東洋大学国際観光学部のカリキュラムには観光業界の実際を学ぶことができる科目も当然、多数設けられています。一方、その実際の観光を支える背景を構成する様々な分野の理論科目も設けられています。これにより理論と実践のバランスのとれた人材の育成が図られるわけです。この理論と実践のバランスのとれた人材は応用がきき、観光産業はもちろんのこと他産業においても極めて高く評価される人材です。また、東洋大学国際観光学部は様々な専門分野の「ゼミ」が多く設けられています。このゼミをとることにより社会的課題やビジネス課題を創造力を発揮し他者と協力し解決することができるという生涯有効な能力も身につけることができます。

このように東洋大学国際観光学部では基幹産業である観光産業を担う人材を育成するための「仕組み」は十分すぎるほど用意されています。私たち教職員は皆さんが東洋大学国際観光学部で学ぶことを全力でお手伝いをさせていただきます。

国際観光学科長

国際観光学科の教育方針

◆◆カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）◆◆

国際観光学部は、国内外で活躍できる優れた人材の育成を図るため、持続可能な観光の実現と観光の社会的責務の遂行に関する知識の付与及び能力の醸成を目指し、次に掲げた方針でカリキュラムを編成しています。

1. 授業科目及び授業内容を幅広いものとし、多層的な学問である観光学を総合的かつ体系的に学修できるようにする。
2. 学修ステップの明確化を図る。専門領域については、「総合学である観光学の全体像を知る基幹的科目の学修をする段階（1年次）」、「学生の意思に基づき、大ぐくりの領域別の専門的学修をする段階（2年次）」、「特定の専門分野に関する発展的な学修や専門分野の幅を広げるための副専攻的な学修をする段階（3年次以降）」の3段階に大別する。語学及び基盤教育科目については、1年次からの集中的な学修を基本とする。
3. グローバル化に対応できる能力を醸成するため、外国語及び多元的価値観に関する学習科目・年次・単位数の拡充を図る。また、英語での実施により学修効果の増進が期待できるものを中心に、専門科目の英語等での実施を行う。
4. 理論と実践を併立した学習を通じて科学的な分析能力と問題解決能力の醸成を図るため、ゼミ（講義形式を含む）を必修科目とするとともに、卒業論文の執筆や課題研究レポートの作成等を行う卒業課題を必修科目とする。
5. 高等教育機関である大学ならではの観光学教育を、国内外において先導できる科目構成・内容とする。また、履修計画の立てやすさや教育上の費用対効果の向上を図る。

◆◆ディプロマ・ポリシー（卒業の認定及び学位授与に関する方針）◆◆

国際観光学部は、持続可能な観光を実現するとともに、観光の社会的責務を果たし、世界を舞台に活躍できる優れた人材を育成するという教育目標に基づき、学士教育課程を通じて次の基準を満たす学生に学位を授与します。

1. 観光学に関する基礎知識、専門知識や技能・技術を体系的に習得している。
2. 我が国と世界の文化、歴史、宗教、政治、経済、地球環境に関する幅広い教養を身につけている。
3. 国内外の多様な価値観を理解し、多文化共生社会の実現に貢献できるコミュニケーション能力を備えている。
4. 観光の状況を科学的に分析して将来像を構想し、その実現に向けた社会的課題やビジネス課題を発見することができる。
5. 社会的課題やビジネス課題の解決方法を企画立案する創造力を持ち、他者との協力のもとで計画的に実施する力を備えている。

◆◆アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）◆◆

国際観光学部は、持続可能な観光の実現と観光の社会的責務を果たすことに意欲があり、下記のような能力・知識・関心を備えている人材を求めています。

1. 入学後の学習活動に必要な基礎学力としての知識や、秀でた能力を有する。特に国語、地理歴史、公民、数学、英語などについて、中等教育で身につけるべき標準的な知識を有する。
2. 我が国と世界の文化、歴史、宗教、政治、経済、地球環境をはじめとする社会に深い関心を持っている。
3. 国内外の多様な価値観を理解し、多文化共生社会の実現に深い関心を持っている。
4. 物事を科学的に分析するとともに、多面的かつ論理的に考察できる。
5. 目標に対して、他者との協力のもとで計画的に実施する力を備えている。

カリキュラムの特徴

国際観光学科では、1年次に、観光学に関する基礎的な理論を身につけたうえで、2年次からそれぞれの進路（キャリアデザイン）に沿った形で2つの学問領域と1つの専修に分かれます。

「観光政策・ツーリズム系」領域

観光業界は、近年、急速に変化をしています。ホテルや航空会社、旅行会社といったいわゆる観光ビジネスだけではなく、観光立国を目指す国や自治体などの行政や、昨今、需要が高まっているイベント・コンベンション業界、インバウンド消費に代表される流通業界やメーカー、予約や情報提供に必要なICT業界、地域活性化に関連する金融や不動産業界など、幅広い産業で観光の知識とスキルが求められています。

そして、そのすべてに共通して求められるのが企画や立案、変革ができる力です。「観光政策・ツーリズム領域」では、国内・国際の両方の視点に立って、観光に関連する産業や行政の学びにアプローチしていきます。社会を見る力、またそれを分析し、解決する力を養いますので、論理的・科学的な思考と共に文化や自然などの教養も身につく領域です。

具体的な就職先としては、旅行会社（企画、コンサルティングセールス）、鉄道・航空会社（企画、セールス）、イベント運営会社、空港やイベント施設、公務員、地方銀行、DMO（Destination Management/Marketing Organization）などがあります。

調査や分析考察など自らの考える力で観光の仕事に携わりたい方に適した領域です。

「ホスピタリティ系」領域

この領域は、ホスピタリティ産業を中心としたさまざまな観光事業の現実を把握し、そこから理論を身につけていくことを目指しています。具体的には、ホテル、料飲サービス（飲食業）、プライダル、エアラインのキャビンアテンダントやグラウンドスタッフ、エンターテインメント、その他小売業全般など、お客様との接点が生じるビジネスを学ぶための領域です。各産業の科目を設置し、同時に経営戦略論や組織論、マーケティング論、会計論、ファイナンス論など、産業を横断するマネジメント関連の理論科目も学びます。さらに、いくつかの事象を実際に体験して深く理解するために、現地での研修・演習・インターンシップなどの実習も幅広く揃えています。

このコースで求めるコミュニケーション力とは、ただマニュアル通りの接客ができることや、英語や外国語を話すことができるということではありません。相手の文化や社会を理解し、異なる世代の人、国籍・宗教・文化・ライフスタイルが違う人ともコミュニケーションがとれることです。特にこれからは世界の人々と繋がることが求められます。このコースでは英語は無論のこと、中国語圏からのインバウンド需要に対応できる人材を育成するために、中国語にも力を入れています。語学の習得と異文化を理解する力を積極的に養える領域であり、これからのグローバル化社会を生き抜くための「生きる力」となることでしょう。

なお、当領域には「観光プロフェッショナル」専修が設置されています。1年生から配属された場合には最長3年間、2年生からの配属でも最長2年間、企業における実習を経験して、実務を通じて理論の理解を目指すとともに、キャリアの先取りをすることで、早くからホスピタリティ産業のリーダーとなる人材の育成を目指しています。1年生から配属を希望する場合には、入学後のガイダンスで詳細が説明されますので参加してください。

◆ゼミ・演習・実習◆

国際観光学部は、参加型・双方向のアクティブラーニングを実現する取り組みとして、各種ゼミ活動、演習・実習を充実させています。1年次では観光基礎演習として、大学での学びとはいかなるものか、調査・研究とはどのように進めていけばいいのかという基礎的な知識を習得します。そして、2年次秋学期から国際観光研究、いわゆるゼミ活動が始まります。これは4年次まで基本的には同一ゼミに所属し、卒業課題もそのゼミ担当の教員の指導を受けることになります。ゼミは自分の専門分野の知識を深化させるだけでなく、かけがえのない一生の友人を得るチャンスでもあります。早い段階からそれを意識して、悔いのない大学4年間を送ってください。

※社会情勢等の急変によって、学外で行う活動の計画が変更になる場合もあります。初回の講義や学期の初めのガイダンス等で確認してください。

◆基盤教育科目◆

基盤教育科目という教養科目も用意されています。東洋大学は哲学を諸学の基礎にしていますので、哲学・思想分野から2単位が必修ですが、その他の科目は任意となっています。しかし、大学で学ぶことの意義の一つに、幅広い教養を身に着ける（リベラルアーツ）という側面があります。今まで興味関心がなかった分野に対しても積極的に受講してみてください。それが視野を広げることに役立ちます。

◆外国語系科目◆

必修の英語科目では第1学年に語学力のしっかりとした基礎を養成します。スピーキング科目は入学時に実施するテストによりクラス分けを行い、日本における重要な問題について英語で話し合う能力を向上させます。リーディングの科目はTOEICスコアによりクラス分けを行い、読解力を身につけます。また、学習にあたっては外部ソフトを利用して、読む力を身につけるだけでなく、英語で読む楽しさも味わってもらいます。学習を楽しんで行き、言語学習に対して自律の精神を持ち、英語を通じて世界とつながる方法を見つけることを目標とし、ECZ（English Communication Zone）で外国人学生と交流したり、ネット上で英語のビデオを見たりするなど、授業外でも積極的かつ継続的に行動することを推奨します。

第2学年においては、学生は第1学年で学んだスキルを活かして、観光学に関するプロジェクトに1年を通じて取り組みます。そのようなプロジェクトは英語の語学力を向上させるだけでなく、観光学の分野に対する理解をさらに深める機会を与えます。国際観光学部において英語を集中的に学習することを通じて、視野を広げ海外留学を行うのと同等の効果をあげることを期待しています。

レベル別に分かれた英作文のクラスは、留学や学内の英語による授業を身近なものにします。また、第1学年、第2学年の学生に対して lunch time sessions を行っています。英語教員やゲストスピーカーによって英語で講演が行われ、言語を学習するだけでなく、外国の文化を直に知る機会となっています。本学部の外国語教育の特徴として英語だけではなく他言語学習も挙げられます。これは、今まで学習したことのない外国語を学ぶことで、新しい考え方や文化に親しみ、国際的なコミュニケーション能力を身に着けることを目的としたものです。

第3学年からは英文ライティングや、ホスピタリティ、ビジネス、時事問題などを扱う選択クラスを履修することができます。TOEICのスコアを向上させ就職前に観光に関する知識を英語で得ることができます。

また TOEIC テストや観光英語検定のような資格試験への挑戦をサポートする科目もあり、将来の就職への準備だけでなく、その先のキャリアを目指し自己を高めるような学習を提供しています。

国際観光学部におけるグローバル教育の育成の一環として、英語の語学授業だけでなく、英語で教授される専門科目を履修する機会も設けています。このような専門科目は、留学から帰国した学生や英語学習を継続したい学生、また留学はせず日本で自分なりの英語学習のゴールを達成したい学生にふさわしい科目です。自らの英語のレベルに真剣に向き合い、高いレベルで英語力の習得を目指す方は積極的に履修をしましょう。

◆◆卒業課題◆◆

国際観光学部では卒業課題を4年次の必修科目に位置付けており、所属するゼミ担当教員の指導のもと、各自がテーマを決め、卒業課題に取り組みます。

提出に関わる詳細はToyoNet-ACE、掲示板でお知らせいたします。

卒業要件

科目区分		必要単位数		
基盤教育	哲学・思想	2	合計で20単位以上	
	学問の基礎			
	国際人の形成			
	語学科目	必修科目		8
		選択必修科目A		4
		選択必修科目B		4
		選択科目		
	キャリア・市民形成			
健康・スポーツ科学				
総合・学際				
専攻領域	必修科目	30	合計で70単位以上	
	選択必修科目A※1	「観光政策・ツーリズム系」領域		16
		「ホスピタリティ系」領域※2		
	選択必修科目B	24		
選択科目C				

合計124単位以上

※1 選択必修科目Aについては、自らが所属する領域の科目について、16単位以上修得することが求められます。

※2 「ホスピタリティ系」領域観光プロフェッショナル専修に所属している場合は、観光プロフェッショナル専修科目より、12単位以上修得することが求められます。

年次別履修登録単位数制限

◆履修できる上限単位数（CAP制）◆

下記の通り年次・開講学期別に履修できる単位数の上限が設定されています。

年次	年間	卒業単位として認められる科目		卒業単位として認められない科目
		春学期	秋学期	
1	44 単位	22 単位	22 単位	制限なし
2	48 単位	24 単位	24 単位	
3	48 単位	24 単位	24 単位	
4	48 単位	24 単位	24 単位	

<卒業に必要な単位として認められる科目>

基盤教育、専攻領域、他学部他学科開放科目

<卒業に必要な単位として認められない科目>

自由科目…自分の所属する学科教育課程表になく、なおかつ他学部他学科開放科目として履修できない科目で担当教員の許可を得て履修する科目

履修上の注意

◆◆ 基盤教育 ◆◆

「哲学・思想」分野より最低2単位修得し、かつ語学科目を含め最低20単位修得しなければなりません。また、以下のことに留意してください。

- ①「スポーツ健康科学実技ⅠA～ⅣB」「スポーツ健康科学講義Ⅰ～ⅡB」「スポーツ健康科学演習Ⅰ」の授業は、総合スポーツセンター（板橋区清水町）で開講されます。総合スポーツセンターでの授業は、白山7学部すべての1～4年生が履修できます。
- ②「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学講義・演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があります。詳細については履修関係資料、学内掲示を参照してください。
- ③一度単位修得した科目は再登録できません。なお、修得できなかった科目の再履修は可能です。

語学科目

- 以下①②③の基準を満たし、最低16単位修得しなければなりません。
- ①必修科目に配当されている8単位を修得すること。
 - ②選択必修科目A群に配当されている初習外国語（中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、韓国語）、日本語（留学生対象）の中から1つの言語を選択し、Ⅰa・Ⅰb/Ⅱa・Ⅱbの順に4単位以上を単位修得すること。
 - ③選択必修科目B群に配当されている科目の中から4単位以上を修得すること。

◆◆ 専攻領域 ◆◆

必修科目、選択必修科目A（領域別）、選択必修科目B（学部共通）、選択科目Cから構成されています。以下の基準を満たし、最低70単位修得しなければなりません。

- ①必修科目に配当されている30単位を修得すること。
 - ②選択必修科目A（領域別）に配当されている科目のうち、所属する領域（「観光政策・ツーリズム系領域」または「ホスピタリティ系領域」）から16単位以上を修得すること。
- ※観光プロフェッショナル専修に所属する場合は、選択必修科目A（領域別）のうち「観光実学基礎演習Ⅰ～Ⅱ・観光実学演習Ⅰ～Ⅳ」から最低12単位を修得すること。
- ※配属領域により、修得すべき科目が異なります。
- ③選択必修科目B（学部共通）に配当されている科目の中から24単位以上修得すること。

所属する領域外の単位を取得した際の単位数計上について

選択必修科目Aの単位数について、自らが所属する領域と異なる領域の科目を修得した場合、当該区分の単位数には含めず、専攻領域内の単位数として計上します。

所属	修得した科目区分	計上される区分
観光政策・ツーリズム系領域	観光政策・ツーリズム系領域	選択必修科目A
	ホスピタリティ系領域	専攻領域（70単位内）
	ホスピタリティ系領域 観光プロフェッショナル専修	専攻領域（70単位内）※
ホスピタリティ系領域	観光政策・ツーリズム系領域	専攻領域（70単位内）
	ホスピタリティ系領域	選択必修科目A
	ホスピタリティ系領域 観光プロフェッショナル専修	選択必修科目A ※
ホスピタリティ系領域 観光プロフェッショナル専修	観光政策・ツーリズム系領域	専攻領域（70単位内）
	ホスピタリティ系領域	選択必修科目A
	ホスピタリティ系領域 観光プロフェッショナル専修	選択必修科目A

※観光実学基礎演習Ⅰ・Ⅱのみ履修可

◆◆実習（インターンシップ関連）、フィールドワーク、実学演習◆◆

企業における実習（1dayや3daysといった短期インターンシップは除きます）や、各地での研修を伴うフィールドワーク（語学研修は除きます）については、各学期の初頭、または各講義の初回にガイダンスを実施しますので、掲示などに注意してください。

インターンシップ（ホスピタリティ基礎実習、ホスピタリティ応用実習など）

国内外のホテルや旅館、リゾートなど、多様な実習先でインターンシップを行います。これまでは、あくまでお客様の立場で企業が提供するサービスなどを利用していましたが、インターンシップに参加することにより、サービス提供側の視点を身に付けます。同時に、仕事を経験することによって、就職後に「こなはずではなかった」といったミスマッチを防ぐことも目的としています。

本プログラムでは、長期休暇期間（夏季、春季の2回）に実施する2週間程度～1ヶ月程度のインターンシップに参加ができます。3ヶ月程度～半年間程度のインターンシップに参加を希望する方は、後述する「観光実学基礎演習、観光実学演習」の項目を確認してください。

ここでのインターンシップに参加を希望する方は、事前に「実習基礎論」の履修が必須となります。インターンシップ後には、「ホスピタリティ基礎実習」や「ホスピタリティ応用実習」を履修登録し、所定の手続きや試験等を経ることで、事後の単位付与がなされます。

観光フィールドワーク

本科目では、さまざまな地域における観光関連の諸活動を、事前に座学で調べたうえで、現地に赴いて実際に自身の目で見て経験をし、事前学習との相違について検討することで、観光の本質に迫っていきます。同時に、多様な観光の実際を経験することで、観光学を理論面から理解する一助となることも目指しています。

実際のフィールドワークには、エンターテインメントや文化芸術などを活用したイベントの企画制作、地域の観光資源の活用、地域の特性を活かしたホスピタリティの提供、移動を司るエアラインなどの交通機関の役割、セレモニーの挙行など、さまざまな活動が含まれています。

担当教員により授業内容が異なります。初回の講義の際にガイダンスを実施しますので、履修希望者は必ず出席してください。

エアラインホスピタリティ演習

エアラインの機内サービスの訓練内容をモチーフに、ホスピタリティマインドの表現方法の体得を目指します。講義と演習により、対人サービスの根底にある理論を理解し、それを状況にふさわしく表現する力を深め、状況に柔軟に対応する力への応用を図ります。

観光実学基礎演習、観光実学演習

実際に仕事をしながら学ぶことで、理論のみならず実践的な知識を得るとともに、キャリアを先取りして経験者として就職することを目指すためのプログラムです。最短で3ヶ月から半年、最長2～3年間、継続して仕事の経験を積み上げることで、ビジネスの場における問題や課題を発見し、その解決策も探求します。努力次第では、マネジメント層として期待され、企業に迎えられることとなります。

観光プロフェッショナル専修所属以外の学生は、最大2回（最長1年間）の履修が可能（観光実学基礎演習）となり、観光プロフェッショナル専修の学生は、最大6回（最長3年間）の履修が可能（観光実学演習）となります。

その他のプログラム

ここで挙げたプログラム以外にも、科目によっては多様な研修が用意されています。いずれも、初回の講義の際や学期の初めにガイダンスが実施されますので、必ず出席するようにしてください。

◆◆卒業要件を上回って修得した単位について◆◆

教育課程表上の基盤教育および専攻領域において、卒業要件に定められた単位数を上回って修得した単位は、卒業必要単位数124単位の中の単位として換算されます。

◆◆未修得の必修科目および外国語系教育科目について◆◆

配当学年で修得できなかった必修科目や外国語系教育科目がある場合は、次の開講学期に優先的に履修するようにしてください。

◆◆既修得科目の再登録について◆◆

既修得科目の再登録は、下記に掲げる科目以外は、履修登録の上限単位数内であれば担当教員の許可を得て履修を認めます。ただし、取得した単位は重複して卒業単位に組み入れられません。なお成績については、成績上位の評価を卒業単位とみなします。

再登録ができない科目は次の通りです。

(基盤教育)

- ・全ての科目

(専攻領域)

- ・観光基礎演習
- ・国際観光研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
- ・卒業課題
- ・観光実学基礎演習Ⅰ～Ⅱ、観光実学演習Ⅰ～Ⅳ

(他学部他学科科目)

- ・全ての科目

(自由科目)

- ・全ての科目

◆◆他学部他学科開放科目について◆◆

他学部他学科が開講する科目で、所属する学科の教育課程表に記載のある科目を「他学部他学科開放科目」と呼びます。P.58～P.62に記載の他学部他学科科目は、卒業に必要な単位数124単位の一部として、履修・修得することが可能です。履修にあたっては、開講学部・学科の履修要件、配当学年、セメスタに従い、ToyoNet-Gから履修登録をしてください。

◆◆自由科目について◆◆

自分の学科教育課程表になく他学部他学科開放科目一覧にも記載されていない科目で、担当教員の許可を得て履修する科目を指します。なお、この科目は卒業単位として認められません。履修希望者は、「履修登録のしおり」を確認してください。

国際観光学部 国際観光学科 カリキュラムマップ

凡例

観光政策・ツーリズム系領域
ホスピタリティ系領域

基礎科目の学修

領域別学修

専門学修

セミナー	観光基礎演習	国際観光研究Ⅰ	国際観光研究Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 卒業課題	
必修	必必修科目 観光学概論 旅行産業論 観光政策・余暇論 観光計画概論 ホスピタリティ概論 ホスピタリティ産業論	観光政策・ツーリズム系領域 必必修科目 観光開発計画論 観光調査・予測理論 マーケティング概論 旅行産業論 運輸産業論 旅行契約と保護 サスティナブル・ツーリズムとSDGs 観光まちづくり概論	観光政策・ツーリズム系領域 必必修科目 ホスピタリティ系領域 セレモニー概論 ホテル経営概論 ホスピタリティ管理会計論 ホスピタリティ的資源論 ホスピタリティ・マーケティング ラグジュアリー・ビジネス論 ホスピタリティ起業論 エアラインサービス論 観光交流論 フードビジネス産業論 サービス・マネジメント	
選択必修	1年次から履修できる選択必修科目 情報演習 観光統計学 歴史と観光 宿泊産業概論	2年次から履修できる選択必修科目 ペットツーリズム論 観光企業概論 景観緑地デザイン論 観光企業会計概論	選択必修科目 観光交通計画 地域価値創造論 自然公園・保護論 デスティネーションマーケティング論 DMO戦略論 旅行事業経営論 旅行企画・マーケティング論 鉄道経営論 観光インバウンドテクノロジー ミュージアム概論 観光法制度論 観光ファイナンス論 エコバールツーリズム論 エコバールまちづくり計画 地域経営論 エコツーリズム	
選択必修	1年次から履修できる選択必修科目 情報演習 観光統計学 歴史と観光 宿泊産業概論	2年次から履修できる選択必修科目 ペットツーリズム論 観光企業概論 景観緑地デザイン論 観光企業会計概論	選択必修科目 エアライン・コミュニケーション論 特定複合観光施設の制度と税 ホテル開業論 旅館経営実務 ホスピタリティ関連法規 観光不動産学 エアラインホスピタリティ演習 プライダル事業論 観光・環境経済学 エンターテインメント・ビジネス論 観光とコミュニケーション ホスピタリティ・デザイン論 デジタルマーケティング論 NPO/NGO論 女将・総支配人論 通訳総論 観光不動産法 観光ファイナンス論 食品衛生論 ビバレッジ総論 フードビジネスマネジメント演習 葬祭事業論 イベント企画論 観光とソーシャルメディア ブランドマネジメント サービス・イノベーション論 観光経営戦略論	
観光プロフェッショナル専修 Extended Global Tourism Studies	観光実学基礎演習 国際地域観光論(E)	観光実学演習 世界文化遺産地域振興論(E)	ヨーロッパの歴史と言語(E) グローバル・ホテル会計論(E)	
選択	地域財政と観光 観光と地方自治 東京の社会と観光 国内観光資源	観光と経済学 観光ビジネス法 実習基礎論 国内運賃・料金	観光学特殊講義 観光からみる日本史探究 観光の歴史と文化	
旅行業務取扱管理者科目	観光と経済学 観光ビジネス法 実習基礎論 国内運賃・料金 海外観光資源	マクロ経済学 情報社会学システム論 ホスピタリティ基礎実習 国際航空運賃	観光学特殊講義 観光からみる日本史探究 ホスピタリティ応用実習 海外旅行実務	
語学	English Communication Reading and Vocabulary 中国語Ⅰ・Ⅱ ドイツ語Ⅰ・Ⅱ フランス語Ⅰ・Ⅱ ス페인語Ⅰ・Ⅱ 韓国語Ⅰ・Ⅱ	English Tourism Projects English for Tourism Industry Applied Reading 中国語Ⅲ・Ⅳ 観光のドイツ語 観光のフランス語 観光のスペイン語 観光の韓国語	Hospitality English Test Leader Academic WritingⅠ・Ⅱ Cultural Studies Business English World Affairs 中国語通訳翻訳技法Ⅰ・Ⅱ	3・4年

教育課程表

2021 年度入学生用 国際観光学科 教育課程表 (基盤教育科目)

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
学 問 の 基 礎	哲学・思想 (2)	哲学A (2)	哲学B (2)	哲学史A (2)	哲学史B (2)
		倫理学基礎論A (2)	倫理学基礎論B (2)	応用倫理学A (2)	応用倫理学B (2)
		科学思想史A (2)	科学思想史B (2)	宗教学ⅠA (2)	宗教学ⅠB (2)
		宗教学ⅡA (2)	宗教学ⅡB (2)	地球倫理A (2)	地球倫理B (2)
		論理学A (2)	論理学B (2)	東洋思想 (2)	
	人文科学	美術史A (2)	美術史B (2)	音楽学A (2)	音楽学B (2)
		歴史の諸問題A (2)	歴史の諸問題B (2)	西欧文学A (2)	西欧文学B (2)
		現代日本文学A (2)	現代日本文学B (2)	アジアの文学 (2)	アジアの古典 (2)
	社会科学	経済学A (2)	経済学B (2)	統計学A (2)	統計学B (2)
		経営学A (2)	経営学B (2)		
		法学A (2)	法学B (2)	政治学A (2)	政治学B (2)
		社会学A (2)	社会学B (2)	人類学A (2)	人類学B (2)
自然科学	地理学A (2)	地理学B (2)	心理学A (2)	心理学B (2)	
	自然の数理A (2)	自然の数理B (2)	生活と物理A (2)	生活と物理B (2)	
	エネルギーの科学A (2)	エネルギーの科学B (2)	物質の科学A (2)	物質の科学B (2)	
	環境の科学A (2)	環境の科学B (2)	地球の科学A (2)	地球の科学B (2)	
	生物学A (2)	生物学B (2)	天文学A (2)	天文学B (2)	
	自然科学概論A (2)	自然科学概論B (2)	自然誌A (2)	自然誌B (2)	
	物理学実験講義A (2)	物理学実験講義B (2)	生物学実験講義A (2)	生物学実験講義B (2)	
	化学実験講義A (2)	化学実験講義B (2)	地球科学実験講義A (2)	地球科学実験講義B (2)	
数理・情報実習講義A (2)	数理・情報実習講義B (2)	天文学実習講義A (2)	天文学実習講義B (2)		
世 界 の 伝 統 と 文 化	地域文化研究ⅠA (2)	地域文化研究ⅠB (2)	地域文化研究ⅡA (2)	地域文化研究ⅡB (2)	
	地域文化研究ⅢA (2)	地域文化研究ⅢB (2)	国際教育論A (2)	国際教育論B (2)	
	多文化共生論A (2)	多文化共生論B (2)	百人一首の文化史A (2)	百人一首の文化史B (2)	
	日本の昔話A (2)	日本の昔話B (2)	日本文学文化と風土A (2)	日本文学文化と風土B (2)	
	日本の詩歌A (2)	日本の詩歌B (2)	地域史(日本)A (2)	地域史(日本)B (2)	
	地域史(東洋)A (2)	地域史(東洋)B (2)	地域史(西洋)A (2)	地域史(西洋)B (2)	
	国際比較論A (2)	国際比較論B (2)	国際関係入門 (2)	地域と生活 (2)	
	異文化理解概論 (2)	留学のすすめ (2)			
	グローバル社会の実際 (2)				
	海外研修Ⅰ (2)	海外研修Ⅱ (2)	海外実習Ⅰ (2)	海外実習Ⅱ (2)	
短期海外研修Ⅰ (1)	短期海外研修Ⅱ (1)	短期海外研修Ⅲ (1)	短期海外研修Ⅳ (1)		
短期海外実習Ⅰ (1)	短期海外実習Ⅱ (1)	短期海外実習Ⅲ (1)	短期海外実習Ⅳ (1)		
基 盤 教 育 (20)	必修科目 (8)	English Communication A (1)	English Tourism Projects A (1)		
		English Communication B (1)	English Tourism Projects B (1)		
Reading and Vocabulary A (1)		English for Tourism Industry (1)			
Reading and Vocabulary B (1)		Applied Reading (1)			
国 際 人 の 形 成 語 学	選択必修 科目A群 (4)	中国語Ⅰa (1)			
		中国語Ⅰb (1)			
		中国語Ⅱa (1)			
		中国語Ⅱb (1)			
		ドイツ語Ⅰa (1)			
		ドイツ語Ⅰb (1)			
		ドイツ語Ⅱa (1)			
		ドイツ語Ⅱb (1)			
		フランス語Ⅰa (1)			
		フランス語Ⅰb (1)			
		フランス語Ⅱa (1)			
		フランス語Ⅱb (1)			
		スペイン語Ⅰa (1)			
		スペイン語Ⅰb (1)			
		スペイン語Ⅱa (1)			
		スペイン語Ⅱb (1)			
		韓国語Ⅰa (1)			
		韓国語Ⅰb (1)			
韓国語Ⅱa (1)					
韓国語Ⅱb (1)					
日本語Ⅰa (1)					
日本語Ⅰb (1)					
日本語Ⅱa (1)					
日本語Ⅱb (1)					

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
基盤教育 (20)	国際人の形成	選択必修科目B群 (4)	中国語Ⅲ a (1)	Hospitality English (1)	
			中国語Ⅲ b (1)	Test Leader (1)	
		中国語Ⅳ a (1)	Academic Writing I (1)		
		中国語Ⅳ b (1)	Academic Writing II (1)		
		観光のドイツ語 (1)	Cultural Studies (1)		
		観光のフランス語 (1)	Business English (1)		
		観光のスペイン語 (1)	World Affairs (1)		
		観光の韓国語 (1)	中国語通訳翻訳技法 I (1)		
		ドイツ語圏の言語と文化 (2)	中国語通訳翻訳技法 II (1)		
		フランス語圏の言語と文化 (2)			
	スペイン語圏の言語と文化 (2)				
	東アジアの言語と文化 (2)				
	日本語Ⅲ (1)				
	日本語Ⅳ (1)				
	日本語総合演習 A (1)	日本語総合演習 B (1)	観光の日本語 A (1)	観光の日本語 B (1)	
	選択科目	(共通外国語科目) Business English Communication (2) テクニカルライティング (2) アカデミックライティング (2) (留学支援科目(LEAP)) IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking (2) IELTS for Study Abroad I Reading/Writing (2) IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking (2) IELTS for Study Abroad II Reading/Writing (2) Pre-Study Abroad: Listening/Speaking (2) Pre-Study Abroad: Writing (1) (留学生対象科目) ビジネス日本語と日本文化Ⅰ (2) ビジネス日本語と日本文化Ⅱ (2) ビジネス日本語と日本文化Ⅲ (2) 日本事情Ⅰ A (2) 日本事情Ⅰ B (2) 日本事情Ⅱ A (2) 日本事情Ⅱ B (2) 日本事情Ⅲ A (2) 日本事情Ⅲ B (2) 日本の文化と社会 (2) 日本語アカデミックライティングⅠ (1) 日本語アカデミックライティングⅡ (1) 日本語アカデミックライティングⅢ (1) 日本語アカデミックライティングⅣ (1) 日本語と日本社会 A (2) 日本語と日本社会 B (2) 応用日本語 (1)			
	キャリア・市民形成	日本国憲法 (2) 企業会計 (2) インターンシップ入門 (2) ソシカルシンキング入門 (2) キャリアデザイン入門 (2) コミュニケーション&マナー入門 (2)	ベーシック・マーケティング (2) 情報化社会と人間 (2) 社会貢献活動入門 (2) クリティカルシンキング入門 (2) キャリアデザイン実践 (2) コミュニケーション&マナー実践 (2) ファシリテーション概論 (2)	流通入門 (2) 情報倫理 (2) 公務員論 (2) キャリアデベロップメント (2)	基礎会計学 (2) コンピュータ・リテラシー (2) 地球環境論 (2)
	健康・スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅰ A (1) スポーツ健康科学実技Ⅱ A (1) スポーツ健康科学実技Ⅲ A (1) スポーツ健康科学実技Ⅳ A (1) スポーツ健康科学講義Ⅰ (2) スポーツ健康科学講義Ⅱ A (2) スポーツ健康科学講義Ⅱ B (2) スポーツ健康科学演習Ⅰ (2)	スポーツ健康科学実技Ⅰ B (1) スポーツ健康科学実技Ⅱ B (1) スポーツ健康科学実技Ⅲ B (1) スポーツ健康科学実技Ⅳ B (1)	スポーツ健康科学実技Ⅱ A (1) スポーツ健康科学実技Ⅲ A (1)	スポーツ健康科学実技Ⅱ B (1) スポーツ健康科学実技Ⅳ B (1)
	総合・学際	《特設テーマ：東洋大学フィロソフィ～自校について学ぶ～》 全学総合 A (2) 総合 A (2) 全学総合 B (2) 総合 B (2) 全学総合 C (2) 《特設テーマ：数理・データサイエンス・AⅠ》 全学総合 D (2) 総合 C (2) 全学総合 E (2) 総合 D (2) 全学総合 F (2) 総合 E (2) 全学総合 G (2) 総合 F (2) 全学総合 H (2) 総合 G (2) 全学総合 I (2) 総合 H (2) 全学総合 J (2) 総合 I (2) 全学総合 K (2) 総合 J (2) 全学総合 L (2) 総合 K (2) 全学総合 M (2) 総合 L (2) 全学総合 N (2) 総合 M (2)			

◆ 2021 年度入学生用 国際観光学科 教育課程表（専攻領域） ◆

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専攻領域	必修科目 (30)	観光基礎演習 (2) 観光学概論 (2) ホスピタリティ概論 (2) ホスピタリティ産業論 (2) 旅行産業論 (2) 交通経営概論 (2) 観光政策・余暇論 (2) 観光計画概論 (2)	国際観光研究Ⅰ (2)	国際観光研究Ⅱ (2) 国際観光研究Ⅲ (2)	国際観光研究Ⅳ (2) 国際観光研究Ⅴ (2) 卒業課題 (4)
	「観光政策・ツーリズム系」領域		観光開発計画論 (2) 観光調査・予測理論 (2) マーケティング概論 (2) 旅行業法論 (2) 運輸産業論 (2) 旅行契約と保護 (2) サステナブル・ツーリズムとSDGs (2) 観光まちづくり概論 (2) 航空経営論 (2) インバウンド政策概論 (2) 地域観光論 (2)		
	「ホスピタリティ系」領域		ホスピタリティ管理会計論 (2) ホスピタリティ人的資源論 (2) ホスピタリティ・マーケティング (2) ホスピタリティ起業論 (2) 観光交流論 (2) フードビジネス産業論 (2) サービス・マネジメント (2) セレモニー概論 (2) ホテル経営概論 (2) 旅館・リゾート経営論 (2) ラグジュアリー・ビジネス論 (2)		
	「観光プロフェッショナル専修」(12)	観光実学基礎演習Ⅰ (3) 観光実学基礎演習Ⅱ (3)	観光実学演習Ⅰ (3) 観光実学演習Ⅱ (3)	観光実学演習Ⅲ (3) 観光実学演習Ⅳ (3)	
	「Extended Global Tourism Studies」	国際地域観光論 (2) 国際観光社会学 (2)	国際観光文化論 (2) ヨーロッパの歴史と言語 (2)	世界文化遺産地域振興論 (2) グローバル・ホテル会計論 (2)	国際環境政策論 (2)
専攻領域 (70)	選択必修科目A(領域別) (16)				
	選択必修科目B(学部共通) (24)	情報演習 (2) 観光統計学 (2) 歴史と観光 (2) 宿泊産業概論 (2)	ベトナム観光論 (2) 観光企業概論 (2) 景観緑地デザイン論 (2) 観光企業会計概論 (2) エアラインサービス論 (2)	観光交通計画 (2) 地域価値創造論 (2) 自然公園・保護論 (2) デスティネーションマーケティング論 (2) DMO戦略論 (2) 旅行事業経営論 (2) 旅行企画・マーケティング論 (2) 鉄道経営論 (2) ミュージアム概論 (2) ユニバーサルツーリズム論 (2) 観光法制度論 (2) 観光ファイナンス論 (2) 観光・環境経済学 (2) 特定複合観光施設の制度と税Ⅰ (2) 特定複合観光施設の制度と税Ⅱ (2) 観光経営戦略論 (2) ホテル開発論 (2) 旅館経営実務 (2) ホスピタリティ関連法規 (2) 観光不動産学 (2) メニュー開発論 (2) エアライン・コミュニケーション論 (2) エアラインホスピタリティ演習 (2) プライダトル事業論 (2) エンターテインメント・ビジネス論 (2) 観光とコミュニケーション (2) ホスピタリティ・デザイン論 (2) デジタルマーケティング論 (2)	観光まちづくり計画 (2) 地域経営論 (2) エコツーリズム (2) インバウンド事業論 (2) 観光PR論 (2) 観光マーケティング実務 (2) 海外ツーリズム論 (2) 航空マーケティング論 (2) アートマネジメント (2) 観光リスクマネジメント (2) 観光イノベーションテクノロジー (2) 観光・環境経済学 (2) 特定複合観光施設の制度と税Ⅰ (2) 特定複合観光施設の制度と税Ⅱ (2) NPO/NGO論 (2) 女将・総支配人論 (2) 温泉総論 (2) 観光不動産法 (2) 食品衛生論 (2) ピバレッジ総論 (2) フードビジネスマネジメント演習 (2) 葬祭事業論 (2) イベント企画論 (2) 観光とソーシャルメディア (2) ブランドマネジメント (2) サービス・イノベーション論 (2)

教育課程表と履修方法について

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専攻領域 (70)	選択科目C	地域財政と観光 (2)	観光と経済学 (2)	ミクロ経済学 (2)	マクロ経済学 (2)
		観光と地方自治 (2)	観光基礎法学 (2)	観光ビジネス法 (2)	情報社会システム論 (2)
		観光プロトコール (2)	現代企業特殊講義 (2)	観光学特殊講義 I (2)	観光学特殊講義 II (2)
		観光からみる日本史探究 (2)	観光の歴史と文化 (2)	東京の社会と観光 (2)	宗教と観光 (2)
		観光と芸術 I (2)	観光と芸術 II (2)		
		観光フィールドワーク I (2)	観光フィールドワーク II (2)	国際観光学研修 I (2)	国際観光学研修 II (2)
		実習基礎論 (2)	ホスピタリティ基礎実習 (1)	ホスピタリティ応用実習 (1)	
		観光キャリアデザイン (2)			
		国内観光資源 (2)	海外観光資源 (2)	国内運賃・料金 (2)	国際航空運賃 (2)
		海外旅行実務 (2)			

◆◆ 2021 年度入学生用 国際観光学科教育課程表（リスト形式） ◆◆

次ページからの表は、P.46～49の教育課程表（カリキュラム）をより分かりやすく体系化し、科目のナンバリングや履修上の注意点などを明示した一覧表になっています。

表の見方（サンプル：専攻領域）

卒業要件	区分		科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考
専攻領域 合計 70単位 以上	選択 必修 科目A (領域別) 16単位 以上	「観光政策・ ツーリズム系」 領域	SEM340	国際観光研究Ⅱ	3	2	
			SEM427	国際観光研究Ⅳ	4	2	
			SEM428	国際観光研究Ⅴ	4	2	
			THE457	卒業課題	4	4	
			TOS211	観光開発計画論	2	2	
			TOS220	観光調査・予測理論	2	2	
			TOS221	マーケティング概論	2	2	
			TOS201	旅行業法論	2	2	
			TOS202	運輸産業論	2	2	
			TOS222	旅行契約と保護	2	2	
			TOS219	サステナブル・ツーリズムとSDGs	2	2	
			TOS319	観光まちづくり概論	2	2	
			TOS203	航空経営論	2	2	

基盤教育科目・専攻領域科目に共通で記載している項目

- ・ 卒業要件：卒業に必要な要件を表しています。
- ・ 区分：科目区分と卒業するために必要な条件を表しています。
- ・ 科目ナンバリング：科目ナンバリング番号を表しています（P.19参照）。
- ・ 科目名：科目の名称です。
- ・ 配当学年：その科目を履修することができる学年を表しています（ただし、原則として、自分の学年より下の配当学年の科目は履修可能です）。
- ・ 単位数：その科目を修得した場合の単位数を表しています。
- ・ 履修上の注意／備考：その科目を履修するうえでの注意事項や補足説明を表しています。

＜基盤教育科目＞

卒業要件	区分	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考	
基盤教育 合計 20 単位 以上	哲学・思想 2 単位以上	PHE101	哲学A	1～4	2		
		PHE102	哲学B	1～4	2		
		PHE103	哲学史A	1～4	2		
		PHE104	哲学史B	1～4	2		
		PHE105	倫理学基礎論A	1～4	2		
		PHE106	倫理学基礎論B	1～4	2		
		PHE107	応用倫理学A	1～4	2		
		PHE108	応用倫理学B	1～4	2		
		HIT101	科学思想史A	1～4	2		
		HIT102	科学思想史B	1～4	2		
		RES101	宗教学ⅠA	1～4	2		
		RES102	宗教学ⅠB	1～4	2		
		RES103	宗教学ⅡA	1～4	2		
		RES104	宗教学ⅡB	1～4	2		
		INR101	地球倫理A	1～4	2		
		INR102	地球倫理B	1～4	2		
		PHE109	論理学A	1～4	2		
		PHE110	論理学B	1～4	2		
		CIB101	東洋思想	1～4	2		
		人文科学	FAH101	美術史A	1～4	2	
	FAH102		美術史B	1～4	2		
	ASA101		音楽学A	1～4	2		
	ASA102		音楽学B	1～4	2		
	HSG101		歴史の諸問題A	1～4	2		
	HSG102		歴史の諸問題B	1～4	2		
	EUL101		西欧文学A	1～4	2		
	EUL102		西欧文学B	1～4	2		
	JLT109		現代日本文学A	1～4	2		
	JLT110		現代日本文学B	1～4	2		
	LIG101		アジアの文学	1～4	2		
	LIG102		アジアの古典	1～4	2		
	社会科学		ECT101	経済学A	1～4	2	
			ECT102	経済学B	1～4	2	
			ECS101	統計学A	1～4	2	
			ECS102	統計学B	1～4	2	
			MAN101	経営学A	1～4	2	
			MAN102	経営学B	1～4	2	
			LAW101	法学A	1～4	2	
			LAW102	法学B	1～4	2	
		POL101	政治学A	1～4	2		
		POL102	政治学B	1～4	2		
		SOC103	社会学A	1～4	2		
		SOC104	社会学B	1～4	2		
		CUA101	人類学A	1～4	2		
		CUA102	人類学B	1～4	2		
		GGR101	地理学A	1～4	2		
		GGR102	地理学B	1～4	2		
		PSY101	心理学A	1～4	2		
		PSY102	心理学B	1～4	2		
	自然科学	MAT101	自然の数理A	1～4	2		
		MAT102	自然の数理B	1～4	2		
		PHY101	生活と物理A	1～4	2		
PHY102		生活と物理B	1～4	2			
ENE101		エネルギーの科学A	1～4	2			
ENE102		エネルギーの科学B	1～4	2			
BSC101		物質の科学A	1～4	2			
BSC102		物質の科学B	1～4	2			
ENV101		環境の科学A	1～4	2			
ENV102		環境の科学B	1～4	2			
EAP101		地球の科学A	1～4	2			
EAP102		地球の科学B	1～4	2			
BAB101		生物学A	1～4	2			
BAB102		生物学B	1～4	2			
学問の 基礎	AST101	天文学A	1～4	2			
	AST102	天文学B	1～4	2			
	SCE101	自然科学概論A	1～4	2			
	SCE102	自然科学概論B	1～4	2			

卒業要件	区分		科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考
基盤教育 合計 20単位 以上	学問の基礎	自然科学	CAS101	自然誌A	1～4	2	
			CAS102	自然誌B	1～4	2	
			PHY103	物理学実験講義A	1～4	2	
			PHY104	物理学実験講義B	1～4	2	
			BAB103	生物学実験講義A	1～4	2	
			BAB104	生物学実験講義B	1～4	2	
			BSC103	化学実験講義A	1～4	2	
			BSC104	化学実験講義B	1～4	2	
			EAP103	地球科学実験講義A	1～4	2	
			EAP104	地球科学実験講義B	1～4	2	
			SOF101	数理・情報実習講義A	1～4	2	
			SOF102	数理・情報実習講義B	1～4	2	
			AST103	天文学実習講義A	1～4	2	
			AST104	天文学実習講義B	1～4	2	
			ARS101	地域文化研究ⅠA	1～4	2	
			ARS102	地域文化研究ⅠB	1～4	2	
			ARS103	地域文化研究ⅡA	1～4	2	
			ARS104	地域文化研究ⅡB	1～4	2	
			ARS105	地域文化研究ⅢA	1～4	2	
			ARS106	地域文化研究ⅢB	1～4	2	
			INR103	国際教育論A	1～4	2	
			INR104	国際教育論B	1～4	2	
			INR105	多文化共生論A	1～4	2	
			INR106	多文化共生論B	1～4	2	
			JLT101	百人一首の文化史A	1～4	2	
	JLT102	百人一首の文化史B	1～4	2			
	JLT103	日本の昔話A	1～4	2			
	JLT104	日本の昔話B	1～4	2			
	JLT105	日本文学文化と風土A	1～4	2			
	JLT106	日本文学文化と風土B	1～4	2			
	JLT107	日本の詩歌A	1～4	2			
	JLT108	日本の詩歌B	1～4	2			
	JPH101	地域史(日本)A	1～4	2			
	JPH102	地域史(日本)B	1～4	2			
	HAA101	地域史(東洋)A	1～4	2			
	HAA102	地域史(東洋)B	1～4	2			
	HEA101	地域史(西洋)A	1～4	2			
	HEA102	地域史(西洋)B	1～4	2			
	GGR301	国際比較論A	1～4	2			
	GGR302	国際比較論B	1～4	2			
	IHR117	国際関係入門	1～4	2			
	TOS101	地域と生活	1～4	2			
	IHR116	異文化理解概論	1～4	2			
	IHR103	留学のすすめ	1～4	2			
	IHR104	海外研修Ⅰ	1～4	2			
	IHR105	海外研修Ⅱ	1～4	2			
	IHR106	海外実習Ⅰ	1～4	2			
	IHR107	海外実習Ⅱ	1～4	2			
	IHR108	短期海外研修Ⅰ	1～4	1			
	IHR109	短期海外研修Ⅱ	1～4	1			
	IHR110	短期海外研修Ⅲ	1～4	1			
	IHR111	短期海外研修Ⅳ	1～4	1			
	IHR112	短期海外実習Ⅰ	1～4	1			
	IHR113	短期海外実習Ⅱ	1～4	1			
	IHR114	短期海外実習Ⅲ	1～4	1			
	IHR115	短期海外実習Ⅳ	1～4	1			
国際人の形成	グローバル社会 の実際	語学 必修 8単位	ENG135	English Communication A	1	1	
			ENG136	English Communication B	1	1	
			ENG137	Reading and Vocabulary A	1	1	
			ENG138	Reading and Vocabulary B	1	1	
			ENG237	English Tourism Projects A	2	1	
			ENG238	English Tourism Projects B	2	1	
			ENG236	English for Tourism Industry	2	1	
			ENG235	Applied Reading	2	1	

卒業要件	区分		科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考	
基盤教育 合計 20 単位 以上	国際人 の形成	語学	選択 必修 A群 4 単位 以上	CHI123	中国語Ⅰ a	1	1	履修条件： ・ 母語は履修不可。 ・ 同一言語でⅠ a・Ⅰ b→Ⅱ a・Ⅱ bの順番で履修すること。
				CHI124	中国語Ⅰ b	1	1	
				CHI125	中国語Ⅱ a	1	1	
				CHI126	中国語Ⅱ b	1	1	
				GER119	ドイツ語Ⅰ a	1	1	
				GER120	ドイツ語Ⅰ b	1	1	
				GER121	ドイツ語Ⅱ a	1	1	
				GER122	ドイツ語Ⅱ b	1	1	
				FRA121	フランス語Ⅰ a	1	1	
				FRA122	フランス語Ⅰ b	1	1	
				FRA123	フランス語Ⅱ a	1	1	
				FRA124	フランス語Ⅱ b	1	1	
				SPA101	スペイン語Ⅰ a	1	1	
				SPA102	スペイン語Ⅰ b	1	1	
		SPA103	スペイン語Ⅱ a	1	1			
		SPA104	スペイン語Ⅱ b	1	1			
		KOR109	韓国語Ⅰ a	1	1			
		KOR110	韓国語Ⅰ b	1	1			
		KOR111	韓国語Ⅱ a	1	1			
		KOR112	韓国語Ⅱ b	1	1			
		JPN101	日本語Ⅰ a	1	1	外国人留学生対象科目		
		JPN102	日本語Ⅰ b	1	1	外国人留学生対象科目		
		JPN103	日本語Ⅱ a	1	1	外国人留学生対象科目		
		JPN104	日本語Ⅱ b	1	1	外国人留学生対象科目		
		CHI227	中国語Ⅲ a	2	1	同言語のA群選択必修科目を認定された場合は、1年次から履修可		
		CHI228	中国語Ⅲ b	2	1	同言語のA群選択必修科目を認定された場合は、1年次から履修可		
		CHI229	中国語Ⅳ a	2	1	同言語のA群選択必修科目を認定された場合は、1年次から履修可		
		CHI230	中国語Ⅳ b	2	1	同言語のA群選択必修科目を認定された場合は、1年次から履修可		
		GER220	観光のドイツ語	2	1	同言語のA群選択必修科目を認定された場合は、1年次から履修可		
		FRA218	観光のフランス語	2	1	同言語のA群選択必修科目を認定された場合は、1年次から履修可		
		SPA202	観光のスペイン語	2	1	同言語のA群選択必修科目を認定された場合は、1年次から履修可		
		KOR203	観光の韓国語	2	1	同言語のA群選択必修科目を認定された場合は、1年次から履修可		
		GER219	ドイツ語圏の言語と文化	2	2			
		FRA217	フランス語圏の言語と文化	2	2			
		SPA201	スペイン語圏の言語と文化	2	2			
		FLE201	東アジアの言語と文化	2	2			
		ENG323	Hospitality English	3～4	1			
		ENG324	Test Leader	3～4	1			
		ENG321	Academic Writing I	3～4	1			
		ENG322	Academic Writing II	3～4	1			
		ENG325	Cultural Studies	3～4	1			
		ENG326	Business English	3～4	1			
		ENG327	World Affairs	3～4	1			
		CHI313	中国語通訳翻訳技法Ⅰ	3～4	1			
		CHI314	中国語通訳翻訳技法Ⅱ	3～4	1			
		JPN201	日本語Ⅲ	2	1	外国人留学生対象科目		
		JPN202	日本語Ⅳ	2	1	外国人留学生対象科目		
		JPN203	日本語総合演習 A	1～4	1	外国人留学生対象科目		
		JPN204	日本語総合演習 B	1～4	1	外国人留学生対象科目		
		JPN205	観光の日本語 A	1～4	1	外国人留学生対象科目		
		JPN206	観光の日本語 B	1～4	1	外国人留学生対象科目		
		ENG147	Business English Communication	1～4	2			
ENG145	テクニカルライティング	1～4	2					
ENG146	アカデミックライティング	1～4	2					
ENG139	IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	1～4	2					
ENG140	IELTS for Study Abroad I Reading/Writing	1～4	2					
ENG141	IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking	1～4	2					
ENG142	IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1～4	2					
ENG143	Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1～4	2					
ENG144	Pre-Study Abroad: Writing	1～4	1					
JPN129	ビジネス日本語と日本文化Ⅰ	1～4	2	外国人留学生対象科目				
JPN130	ビジネス日本語と日本文化Ⅱ	1～4	2	外国人留学生対象科目				
JPN131	ビジネス日本語と日本文化Ⅲ	1～4	2	外国人留学生対象科目				
HUG101	日本事情Ⅰ A	1～4	2	外国人留学生対象科目				
HUG102	日本事情Ⅰ B	1～4	2	外国人留学生対象科目				
JLN101	日本事情Ⅱ A	1～4	2	外国人留学生対象科目				
JLN102	日本事情Ⅱ B	1～4	2	外国人留学生対象科目				
SOC101	日本事情Ⅲ A	1～4	2	外国人留学生対象科目				
SOC102	日本事情Ⅲ B	1～4	2	外国人留学生対象科目				

卒業要件	区分			科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考	
	国際人の形成	語学	選択						
基盤教育 合計 20単位 以上	国際人の形成	語学	選択	IHR118	日本の文化と社会	1～4	2	外国人留学生対象科目	
				JPN132	日本語アカデミックライティングⅠ	1～4	1	外国人留学生対象科目	
				JPN133	日本語アカデミックライティングⅡ	1～4	1	外国人留学生対象科目	
				JPN134	日本語アカデミックライティングⅢ	1～4	1	外国人留学生対象科目	
				JPN135	日本語アカデミックライティングⅣ	1～4	1	外国人留学生対象科目	
				JPN212	応用日本語	2～4	1	外国人留学生対象科目	
				JPN207	日本語と日本社会A	2～4	2	外国人留学生対象科目	
				JPN208	日本語と日本社会B	2～4	2	外国人留学生対象科目	
				PUL101	日本国憲法	1～4	2		
	キャリア・市民形成				CME101	ベーシック・マーケティング	1～4	2	
					CME102	流通入門	1～4	2	
					ACC101	基礎会計学	1～4	2	
					ACC102	企業会計	1～4	2	
					THI101	情報化社会と人間	1～4	2	
					THI102	情報倫理	1～4	2	
					THI103	コンピュータ・リテラシー	1～4	2	
					CIV102	インターンシップ入門	1～4	2	
					CIV103	社会貢献活動入門	1～4	2	
					CIV201	公務員論	1～4	2	
					EPS101	地球環境論	1～4	2	
					PHE111	ロジカルシンキング入門	1～4	2	
					PHE112	クリティカルシンキング入門	1～4	2	
					CIV101	キャリアデザイン入門	1	2	
					CIV202	キャリアデザイン実践	2	2	
					CIV304	キャリアデベロップメント	3～4	2	
					CIV104	コミュニケーション&マナー入門	1	2	
					CIV203	コミュニケーション&マナー実践	2	2	
					CIV238	ファシリテーション概論	2～4	2	
	健康・スポーツ科学				HSS101	スポーツ健康科学実技ⅠA	1～4	1	
					HSS102	スポーツ健康科学実技ⅠB	1～4	1	
					HSS103	スポーツ健康科学実技ⅡA	1～4	1	
					HSS104	スポーツ健康科学実技ⅡB	1～4	1	
					HSS105	スポーツ健康科学実技ⅢA	1～4	1	
					HSS106	スポーツ健康科学実技ⅢB	1～4	1	
					HSS111	スポーツ健康科学実技ⅣA	1～4	1	
					HSS112	スポーツ健康科学実技ⅣB	1～4	1	
					HSS107	スポーツ健康科学講義Ⅰ	1～4	2	
					HSS108	スポーツ健康科学講義ⅡA	1～4	2	
					HSS109	スポーツ健康科学講義ⅡB	1～4	2	
	HSS110	スポーツ健康科学演習Ⅰ	1～4	2					
	総合・学際				TYS107	全学総合A	1～4	2	
					TYS108	全学総合B	1～4	2	
					TYS109	全学総合C	1～4	2	
					TYS105	総合A	1～4	2	
					TYS106	総合B	1～4	2	
					STS105	全学総合D	1～4	2	
					INI101	全学総合E	1～4	2	
					ITS112	全学総合F	1～4	2	
					ITS113	全学総合G	1～4	2	
					ITS114	全学総合H	1～4	2	
					ITS115	全学総合I	1～4	2	
ITS116					全学総合J	1～4	2		
ITS117					全学総合K	1～4	2		
ITS118					全学総合L	1～4	2		
ITS119					全学総合M	1～4	2		
ITS101					総合C	1～4	2		
ITS102					総合D	1～4	2		
ITS103					総合E	1～4	2		
ITS104					総合F	1～4	2		
ITS105					総合G	1～4	2		
ITS106					総合H	1～4	2		
ITS107					総合I	1～4	2		
ITS108	総合J	1～4	2						
ITS109	総合K	1～4	2						
ITS110	総合L	1～4	2						
ITS111	総合M	1～4	2						

＜専攻領域科目＞

卒業要件	区分	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考	
専攻領域 合計 70単位 以上	必修 30単位	SEM132	観光基礎演習	1	2		
		TOS102	観光学概論	1	2		
		TOS104	ホスピタリティ概論	1	2		
		TOS108	ホスピタリティ産業論	1	2		
		TOS103	旅行産業論	1	2		
		TOS114	交通経営概論	1	2		
		TOS115	観光政策・余暇論	1	2		
		TOS105	観光計画概論	1	2		
		SEM239	国際観光研究Ⅰ	2	2		
		SEM339	国際観光研究Ⅱ	3	2		
		SEM340	国際観光研究Ⅲ	3	2		
		SEM427	国際観光研究Ⅳ	4	2		
		SEM428	国際観光研究Ⅴ	4	2		
		THE457	卒業課題	4	4		
	選択 必修 科目A (領域別) 16単位 以上	「観光政策・ ツーリズム系」 領域	TOS211	観光開発計画論	2	2	
			TOS220	観光調査・予測理論	2	2	
			TOS221	マーケティング概論	2	2	
			TOS201	旅行業法論	2	2	
			TOS202	運輸産業論	2	2	
			TOS222	旅行契約と保護	2	2	
			TOS219	サステナブル・ツーリズムとSDGs	2	2	
			TOS209	観光まちづくり概論	2	2	
			TOS203	航空経営論	2	2	
			TOS214	インバウンド政策概論	2	2	
			TOS210	地域観光論	2	2	
			ACC221	ホスピタリティ管理会計論	2	2	
			TOS206	ホスピタリティ人的資源論	2	2	
			TOS224	ホスピタリティ・マーケティング	2	2	
		TOS226	ホスピタリティ起業論	2	2		
		「ホスピタリティ系」 領域	TOS213	観光交流論	2	2	
			TOS223	フードビジネス産業論	2	2	
			TOS204	サービス・マネジメント	2	2	
			TOS225	セレモニー概論	2	2	
			TOS205	ホテル経営概論	2	2	
			TOS207	旅館・リゾート経営論	2	2	
			TOS208	ラグジュアリー・ビジネス論	2	2	
			TOS116	観光実学基礎演習Ⅰ	1	3	
			TOS117	観光実学基礎演習Ⅱ	1	3	
			TOS217	観光実学演習Ⅰ	2～4	3	
			TOS218	観光実学演習Ⅱ	2～4	3	
			TOS317	観光実学演習Ⅲ	2～4	3	
			TOS318	観光実学演習Ⅳ	2～4	3	
	選択 必修 科目B (学部共通) 24単位 以上		「観光プロ フェッショ ナル」 専修 12単位	MUD101	情報演習	1	2
		STS104		観光統計学	1	2	
		TOS110		歴史と観光	1	2	
		TOS109		宿泊産業概論	1	2	
		TOS212		ベッツアーリズム論	2	2	
TOS227		観光企業概論		2	2		
TOS228		景観緑地デザイン論		2	2		
ACC222		観光企業会計概論		2	2		
TOS229		エアラインサービス論		2	2		
TOS340		観光交通計画		3～4	2		
TOS319		観光まちづくり計画		3～4	2		
TOS316		地域価値創造論		3～4	2		
TOS324		地域経営論		3～4	2		
EPS301		自然公園・保護論		3～4	2		
TOS315		エコツーリズム	3～4	2			
TOS325		destinationマーケティング論	3～4	2			
TOS341		インバウンド事業論	3～4	2			
TOS322		DMO戦略論	3～4	2			
TOS304		観光PR論	3～4	2			
TOS301		旅行事業経営論	3～4	2			
TOS327		観光マーケティング実務	3～4	2			
TOS323		旅行企画・マーケティング論	3～4	2			
TOS302		海外ツーリズム論	3～4	2			
TOS303		鉄道経営論	3～4	2			

卒業要件	区分	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考	
専攻領域	選択 必修 科目B (学部共通) 24単位 以上	TOS320	航空マーケティング論	3～4	2		
		TOS348	ミュージアム概論	3～4	2		
		TOS349	アートマネジメント	3～4	2		
		TOS346	ユニバーサルツーリズム論	3～4	2		
		TOS328	観光リスクマネジメント	3～4	2		
		TOS314	観光法制度論	3～4	2		
		TOS339	観光イノベーションテクノロジー	3～4	2		
		ACC313	観光ファイナンス論	3～4	2		
		PFP324	観光・環境経済学	3～4	2		
		TOS326	特定複合観光施設の制度と税Ⅰ	3～4	2		
		TOS336	特定複合観光施設の制度と税Ⅱ	3～4	2		
		TOS335	観光経営戦略論	3～4	2		
		MAN334	NPO/NGO論	3～4	2		
		TOS308	ホテル開発論	3～4	2		
		TOS309	女将・総支配人論	3～4	2		
		TOS343	旅館経営実務	3～4	2		
		TOS310	温泉総論	3～4	2		
		TOS311	ホスピタリティ関連法規	3～4	2		
		TOS337	観光不動産法	3～4	2		
		TOS338	観光不動産学	3～4	2		
		TOS305	食品衛生論	3～4	2		
		TOS306	メニュー開発論	3～4	2		
		TOS329	ビバレッジ総論	3～4	2		
		TOS321	エアライン・コミュニケーション論	3～4	2		
		TOS331	フードビジネスマネジメント演習	3～4	2		
		TOS344	エアラインホスピタリティ演習	3～4	2		
		TOS345	葬祭事業論	3～4	2		
		TOS312	プライダル事業論	3～4	2		
		TOS313	イベント企画論	3～4	2		
		TOS347	エンターテインメント・ビジネス論	3～4	2		
		TOS334	観光とソーシャルメディア	3～4	2		
		TOS342	観光とコミュニケーション	3～4	2		
		TOS307	ブランドマネジメント	3～4	2		
		TOS332	ホスピタリティ・デザイン論	3～4	2		
		TOS330	サービス・イノベーション論	3～4	2		
		TOS333	デジタルマーケティング論	3～4	2		
		「Extended Global Tourism Studies」	TOS231	国際地域観光論	1～4	2	
			TOS230	国際観光文化論	1～4	2	
			TOS232	世界文化遺産地域振興論	1～4	2	
			TOS233	国際環境政策論	1～4	2	
			TOS234	国際観光社会学	1～4	2	
			EUL201	ヨーロッパの歴史と言語	1～4	2	
			ACC223	グローバル・ホテル会計論	1～4	2	
			PFP101	地域財政と観光	1～4	2	
			TOS126	観光と経済学	1～4	2	
			ECT140	ミクロ経済学	1～4	2	
		選択 科目C	ECT139	マクロ経済学	1～4	2	
			TOS121	観光と地方自治	1～4	2	
			FUL123	観光基礎法学	1～4	2	
			TOS122	観光ビジネス法	1～4	2	
THI109	情報社会システム論		1～4	2			
TOS127	観光プロトコル		1～4	2			
TOS118	現代企業特殊講義		1～4	2			
TOS113	観光学特殊講義Ⅰ		1～4	2			
TOS216	観光学特殊講義Ⅱ		1～4	2			
JPH133	観光からみる日本史探究		1～4	2			
TOS111	観光の歴史と文化		1～4	2			
TOS129	東京の社会と観光		1～4	2			
TOS119	宗教と観光		1～4	2			
FAH105	観光と芸術Ⅰ		1～4	2			
FAH201	観光と芸術Ⅱ		1～4	2			
TOS112	観光フィールドワークⅠ		1～4	2			
TOS215	観光フィールドワークⅡ		1～4	2			
IHR101	国際観光学研修Ⅰ		1～4	2			
IHR102	国際観光学研修Ⅱ		1～4	2			
TOS120	実習基礎論		1～4	2			
TOS128	ホスピタリティ基礎実習		1～4	1			
TOS235	ホスピタリティ応用実習		1～4	1			
合計						70単位 以上	

卒業要件	区分	科目ナン バリング	科目名	配当 学年	単位数	履修上の注意／備考
専攻領域 合計 70単位 以上	選択 科目C	ECD101	観光キャリアデザイン	1～4	2	
		TOS106	国内観光資源	1～4	2	
		TOS125	海外観光資源	1～4	2	
		TOS124	国内運賃・料金	1～4	2	
		TOS107	国際航空運賃	1～4	2	
		TOS123	海外旅行実務	1～4	2	

◆他学部他学科開放科目◆

開講学部・学科	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考
文学部	-	GER301	ドイツ語講読と文化A	3～4	1
文学部	-	GER302	ドイツ語講読と文化B	3～4	1
文学部	-	GER303	ドイツ語コミュニケーションと文化A	3～4	1
文学部	-	GER304	ドイツ語コミュニケーションと文化B	3～4	1
文学部	-	FRA301	フランス語講読と文化A	3～4	1
文学部	-	FRA302	フランス語講読と文化B	3～4	1
文学部	-	FRA303	フランス語コミュニケーションと文化A	3～4	1
文学部	-	FRA304	フランス語コミュニケーションと文化B	3～4	1
文学部	-	CHI301	中国語講読と文化A	3～4	1
文学部	-	CHI302	中国語講読と文化B	3～4	1
文学部	-	CHI303	中国語コミュニケーションと文化A	3～4	1
文学部	-	CHI304	中国語コミュニケーションと文化B	3～4	1
文学部	東洋思想文化学科	CIB106	インド思想史A	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB107	インド思想史B	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB110	仏教思想概論A	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB111	仏教思想概論B	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	LIN101	サンスクリット語ⅠA	1～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN102	サンスクリット語ⅠB	1～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN103	ヒンディー語A	1～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN104	ヒンディー語B	1～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN205	サンスクリット語ⅡA	2～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN206	サンスクリット語ⅡB	2～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN207	パーリ語A	2～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN208	パーリ語B	2～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN209	チベット語A	2～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN210	チベット語B	2～4	1
文学部	東洋思想文化学科	RES105	宗教学概論A	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	RES106	宗教学概論B	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB114	イスラーム概論	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB115	インド現代思想	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB116	現代のインド	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	SOC106	現代社会に生きる仏教A	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	SOC107	現代社会に生きる仏教B	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	RES107	キリスト教概論	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB117	中国学概論A	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB118	中国学概論B	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB303	中国哲学史A	3～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB304	中国哲学史B	3～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CHL301	中国文学史A	3～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CHL302	中国文学史B	3～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CHL303	中国現代文学史A	3～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CHL304	中国現代文学史B	3～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT115	日本文学の歴史(上代)	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT116	日本文学の歴史(中古)	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT117	日本文学の歴史(中世)	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT118	日本文学の歴史(近世)	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT119	日本文学の歴史(近代)	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT120	日本文学の歴史(現代)	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	LIG103	比較文学Ⅰ	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	LIG104	比較文学Ⅱ	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	LIE201	世界の文学文化と日本Ⅰ	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	LIE202	世界の文学文化と日本Ⅱ	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	CHL201	世界の文学文化と日本Ⅲ	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	CHL202	世界の文学文化と日本Ⅳ	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	CUA104	伝統行事を学ぶ	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	FAH103	日本美術の世界	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT212	万葉文化の世界	2～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT213	平安朝文化の世界	2～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT214	室町・戦国文化の世界	2～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT215	江戸文化の世界	2～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT216	近現代文化の諸問題	2～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT217	古典籍に親しむ	2～4	2
文学部	日本文学文化学科	CUA201	日本民俗学の諸問題	2～4	2
文学部	史学科	HSG301	歴史学概論	3～4	2
文学部	史学科	JPH203	日本史学特講A	2～4	2
文学部	史学科	JPH204	日本史学特講B	2～4	2

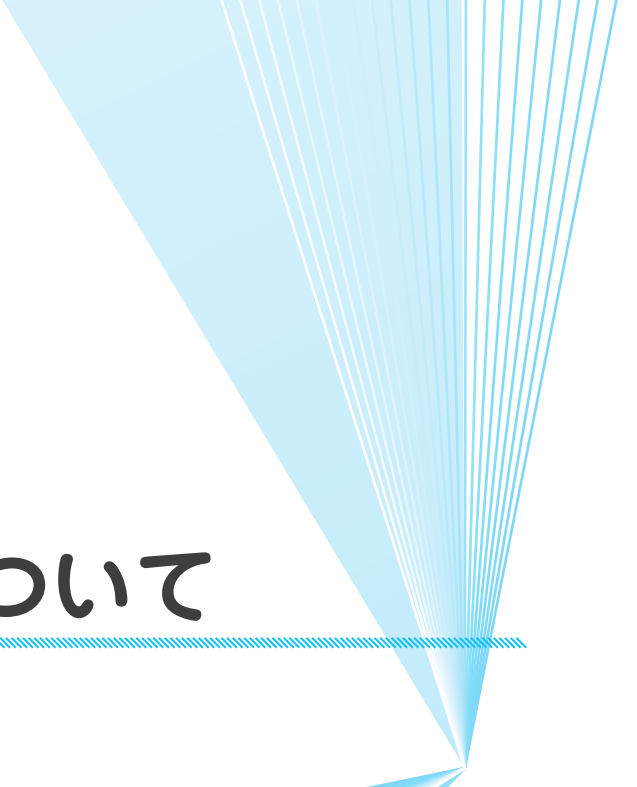
開講学部・学科		科目ナン バリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考
文学部	史学科	HAA203	東洋史学特講 A	2～4	2	
文学部	史学科	HAA204	東洋史学特講 B	2～4	2	
文学部	史学科	HEA203	西洋史学特講 A	2～4	2	
文学部	史学科	HEA204	西洋史学特講 B	2～4	2	
文学部	史学科	ARC201	考古学研究 A	2～4	2	
文学部	史学科	ARC202	考古学研究 B	2～4	2	
文学部	史学科	JPH105	古文書学 I A	1～4	2	
文学部	史学科	JPH106	古文書学 I B	1～4	2	
文学部	史学科	JPH107	古文書学 II A	1～4	2	
文学部	史学科	JPH108	古文書学 II B	1～4	2	
文学部	教育学	JPH115	社会文化史(日本)	1～4	2	
文学部	教育学	HEA105	社会文化史(西洋)	1～4	2	
文学部	教育学	EDU111	女性問題と学習	1～4	2	
文学部	教育学	EDU114	グローバル化と学習	1～4	2	
文学部	教育学	EDU106	生涯学習概論 I	1～4	2	
文学部	教育学	SNE102	特別支援教育概論 I	1～4	2	
文学部	教育学	EDU109	比較政策論	1～4	2	
文学部	教育学	SOE103	比較社会論	1～4	2	
文学部	教育学	HIT107	アメリカ思想史	1～4	2	
文学部	教育学	EDU110	生涯学習概論 II	1～4	2	
文学部	教育学	EDU115	家庭教育論	1～4	2	
文学部	教育学	SNE104	特別支援教育概論 II	1～4	2	
文学部	国際文化コミュニケーション学科	EUL105	ドイツ文化・文学研究 A	1～4	2	
文学部	国際文化コミュニケーション学科	EUL106	ドイツ文化・文学研究 B	1～4	2	
文学部	国際文化コミュニケーション学科	EUL107	フランス文化・文学研究 A	1～4	2	
文学部	国際文化コミュニケーション学科	EUL108	フランス文化・文学研究 B	1～4	2	
文学部	国際文化コミュニケーション学科	JLT145	日本文化表象 I A	1～4	2	
文学部	国際文化コミュニケーション学科	JLT146	日本文化表象 I B	1～4	2	
経済学部	-	FRA109	検定フランス語 A	1～4	1	
経済学部	-	FRA110	検定フランス語 B	1～4	1	
経済学部	-	GER207	検定ドイツ語 A	2～4	1	
経済学部	-	GER208	検定ドイツ語 B	2～4	1	
経済学部	-	GER209	時事ドイツ語 A	2～4	1	
経済学部	-	GER210	時事ドイツ語 B	2～4	1	
経済学部	-	FRA207	上級フランス語 A	2～4	1	
経済学部	-	FRA208	上級フランス語 B	2～4	1	
経済学部	-	CHI211	検定中国語 A	2～4	1	
経済学部	-	CHI212	検定中国語 B	2～4	1	
経済学部	-	CHI213	コミュニケーション中国語 A	2～4	1	
経済学部	-	CHI214	コミュニケーション中国語 B	2～4	1	
経済学部	経済学科	EDE203	経済哲学 A	2～4	2	
経済学部	経済学科	EDE204	経済哲学 B	2～4	2	
経済学部	経済学科	PPF301	医療経済学 A	3～4	2	
経済学部	経済学科	PPF302	医療経済学 B	3～4	2	
経済学部	経済学科	ECP305	人口経済学 A	3～4	2	
経済学部	経済学科	ECP306	人口経済学 B	3～4	2	
経済学部	経済学科	PPF307	政治経済学 A	3～4	2	
経済学部	経済学科	PPF308	政治経済学 B	3～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP202	日本経済論 A	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP203	日本経済論 B	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP312	ヨーロッパ経済論 A	1～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP313	ヨーロッパ経済論 B	1～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP105	海外経済研修 I	1～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP106	海外経済研修 II	1～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP107	海外経済研修 III	1～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECH301	西欧経済史 A	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECH302	西欧経済史 B	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	MOF305	国際金融論 A	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	MOF306	国際金融論 B	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP210	経済発展論 A	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP211	経済発展論 B	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	PPF311	国際公共経済 A	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	PPF312	国際公共経済 B	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECT401	上級国際経済学 A	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECT402	上級国際経済学 B	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	MOF204	アセット・マネジメント A	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	MOF205	アセット・マネジメント B	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	EDE101	社会経済思想史 A	1～4	2	

開講学部・学科		科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考
経済学部	総合政策学科	EDE102	社会経済思想史B	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP119	現代ビジネスの基礎	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	EPS102	環境リテラシーA	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	EPS103	環境リテラシーB	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	SPS101	健康科学	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS111	比較文化社会Ⅰ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS112	比較文化社会Ⅱ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS113	比較文化社会Ⅲ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS114	比較文化社会Ⅳ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS115	比較政策分析Ⅰ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS116	比較政策分析Ⅱ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS117	比較政策分析Ⅲ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS118	比較政策分析Ⅳ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	PFP201	社会政策A	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	PFP202	社会政策B	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	PFP203	地域分析	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP218	政策デザイン	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP120	総合政策特講Ⅰ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP121	総合政策特講Ⅱ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP122	総合政策特講Ⅲ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP123	総合政策特講Ⅳ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP219	総合政策特講Ⅴ	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP220	総合政策特講Ⅵ	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	PFP313	財政学	3～4	2	
経済学部	総合政策学科	PFP314	地方財政論	3～4	2	
経済学部	総合政策学科	PFP315	公共政策の経済学	3～4	2	
経済学部	総合政策学科	PFP316	公共選択	3～4	2	
経済学部	総合政策学科	MOF308	地域金融論	3～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP124	社会的企業	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP125	非営利組織	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP222	現代の産業と企業	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	PFP204	公民連携論	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	PFP205	行政システム	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	EPS201	環境経済学A	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	EPS202	環境経済学B	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	EPS203	エネルギー経済学A	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	EPS204	エネルギー経済学B	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP223	情報社会と企業	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP224	情報社会と産業	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP226	総合政策特講Ⅶ	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP227	総合政策特講Ⅷ	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP228	労働経済学A	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP229	労働経済学B	2～4	2	
経営学部	経営学科	MAN112	意思決定論	1～2	2	
経営学部	経営学科	MAN113	経営分析論	1～2	2	
経営学部	経営学科	MAN208	コーポレートガバナンス論	2	2	
経営学部	経営学科	MAN214	国際経営基礎論	2	2	
経営学部	経営学科	MOF206	経営財務論	2	2	
経営学部	経営学科	MAN312	国際経営論	3～4	2	
経営学部	経営学科	MAN316	企業評価論	3～4	2	
経営学部	経営学科	MOF309	投資決定論	3～4	2	
経営学部	経営学科	MAN317	コンプライアンス経営論	3～4	2	
経営学部	経営学科	GBC303	ビジネス・ネゴシエーションA	1～4	2	
経営学部	経営学科	GBC304	ビジネス・ネゴシエーションB	1～4	2	
経営学部	経営学科	GBC305	ビジネス・ニュース英語A	1～4	2	
経営学部	経営学科	GBC306	ビジネス・ニュース英語B	1～4	2	
経営学部	経営学科	MAN119	海外企業実地研修Ⅰ	1～4	2	
経営学部	経営学科	MAN120	海外企業実地研修Ⅱ	1～4	2	
経営学部	マーケティング学科	CME205	サービス・マーケティング論	2	2	
経営学部	マーケティング学科	CME217	リレーションシップ・マーケティング	2～4	2	
経営学部	マーケティング学科	CME207	ファッション・マーケティング論	2～4	2	
経営学部	マーケティング学科	CME208	現代のファッション・マーケティング	2～4	2	
経営学部	会計ファイナンス学科	MOF101	金融論	1	2	
経営学部	会計ファイナンス学科	MOF102	金融システム論	1	2	
経営学部	会計ファイナンス学科	MOF104	ファイナンス論	1	2	
経営学部	会計ファイナンス学科	MAN121	海外経営研修	1～4	2	
経営学部	会計ファイナンス学科	ACC211	経営監査論	2～4	2	
経営学部	会計ファイナンス学科	ACC212	会計監査論	2～4	2	

開講学部・学科		科目ナン バリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考
経営学部	会計ファイナンス学科	MOF311	証券投資論	2～4	2	
法学部	法律学科	LIN105	語学研修A	1～4	2	
法学部	法律学科	LIN106	語学研修B	1～4	2	
法学部	法律学科	LAW108	海外法学研修	1～4	2	
法学部	法律学科	POL201	政治学原論A	2～4	2	
法学部	法律学科	POL202	政治学原論B	2～4	2	
法学部	法律学科	FUL107	法哲学A	1～4	2	
法学部	法律学科	FUL108	法哲学B	1～4	2	
法学部	法律学科	FUL109	法思想史A	1～4	2	
法学部	法律学科	FUL110	法思想史B	1～4	2	
法学部	企業法学科	CRL103	刑法I(総論)A	1～4	2	
法学部	企業法学科	CRL104	刑法I(総論)B	1～4	2	
法学部	企業法学科	INR201	International Politics A	2～4	2	
法学部	企業法学科	INR202	International Politics B	2～4	2	
法学部	企業法学科	INR203	Peace Studies A	2～4	2	
法学部	企業法学科	INR204	Peace Studies B	2～4	2	
法学部	企業法学科	ILA203	International Law A	2～4	2	
法学部	企業法学科	ILA204	International Law B	2～4	2	
法学部	企業法学科	INR303	International Relations A	3～4	2	
法学部	企業法学科	INR304	International Relations B	3～4	2	
社会学部	社会学科	SOC207	家族社会学	1～4	2	
社会学部	社会学科	SOC208	地域社会学	1～4	2	
社会学部	社会学科	SOC210	環境社会学	1～4	2	
社会学部	社会学科	SOE202	教育社会学	1～4	2	
社会学部	社会学科	SOC213	国際社会学	1～4	2	
社会学部	社会学科	SOC320	Global Sociology	1～4	2	
社会学部	社会学科	GGR203	現在の風土と人間・社会	1～4	2	
社会学部	社会学科	GGR204	風土の変遷と人間・社会	1～4	2	
社会学部	社会学科	SOC215	犯罪社会学	1～4	2	
社会学部	社会学科	STS203	社会統計学I	2～4	2	
社会学部	メディアコミュニケーション学科	LIH116	情報学基礎論A	1～4	2	
社会学部	メディアコミュニケーション学科	LIH117	情報学基礎論B	1～4	2	
社会学部	メディアコミュニケーション学科	SOC117	マス・コミュニケーション学基礎論A	1～4	2	
社会学部	メディアコミュニケーション学科	SOC118	マス・コミュニケーション学基礎論B	1～4	2	
社会学部	メディアコミュニケーション学科	SOC124	社会情報学基礎論A(メディアと社会)	1～4	2	
社会学部	メディアコミュニケーション学科	SOC125	社会情報学基礎論B(インターネットと社会)	1～4	2	
社会学部	社会心理学科	SOP101	社会心理学概論A	1～4	2	
社会学部	社会心理学科	SOP102	社会心理学概論B	1～4	2	
社会学部	社会心理学科	CLI201	健康心理学	1～4	2	
社会学部	社会心理学科	CLI202	健康社会心理学	1～4	2	
社会学部	社会心理学科	SOP206	産業・組織心理学	1～4	2	
社会学部	国際社会学科	ARS209	日本社会文化論A	1～4	2	
社会学部	国際社会学科	ARS305	日本社会文化論B	1～4	2	
国際学部	国際地域学科	INR110	国際政治学I	1	2	
国際学部	国際地域学科	INR210	国際政治学II	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	INR305	国際政治学III	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	ECP135	農村地域開発論	1	2	
国際学部	国際地域学科	ECP239	開発経済論	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	ECP241	アジア経済論	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	CUA117	Participatory Development	1	2	
国際学部	国際地域学科	POL216	Politics and Society in Japan	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	ECP341	Southeast Asian Studies	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	ECP340	Japan and the World Economy	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	CUA116	文化人類学入門	1	2	
国際学部	国際地域学科	CUA206	宗教と社会	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	LIG204	比較芸術論	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	ARS311	アフリカ地域研究	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	JLE110	Volunteers for Cultural Exchange	1	2	
国際学部	国際地域学科	HUG105	Introduction to Geography	1	2	
国際学部	国際地域学科	MAN145	Japanese Economy and Business	1	2	
国際学部	国際地域学科	SOE111	International Student Mobility	1	2	
国際学部	国際地域学科	SOC283	Sociology of Islam	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	SOC284	Immigration and Cross-cultural Issues	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	SOC287	World Cultures and Communities	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	SOC286	NGO・NPO論	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	PFP325	社会政策論	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	SWS407	福祉社会論	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	HUG107	都市論	1	2	

開講学部・学科		科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考
国際学部	国際地域学科	TPA202	コミュニティ開発論	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	TPA203	都市計画	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	TPA206	まちづくり論	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	TPA303	都市住宅論	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	SWS140	An Introduction to Welfare Society	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	SOC288	Community Studies	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	TPA204	Housing the Poor in Asia	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	TPA301	Urban and Regional Planning in Asia	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	INN301	インターネット・情報技術実習	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	MUD301	データベース概論	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	CEP101	国際インフラ論入門	1	2	
国際学部	国際地域学科	CEP201	アジアの都市と交通	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	CEP301	交通まちづくりの計画と政策	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	CEP302	国土計画・地域計画	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	EPS209	環境社会論	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	CEE201	環境管理適正技術論	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	DEV201	環境システム論	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	ENE201	エネルギー・資源論	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	NDD101	災害と復興	1	2	
国際学部	国際地域学科	NDD102	自然災害と防災	1	2	
国際学部	国際地域学科	EPS104	Introduction to Environmental Studies	1	2	
国際学部	国際地域学科	CEE101	Japanese Experiences on Environmental Management	1	2	
国際学部	国際地域学科	TPA201	Urban Development History of Tokyo	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	CEP202	Cities and Transport in Asia	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	NDD201	Natural Disasters and Disaster Risk Management	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	DEV202	Global Water Problems	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	EPS302	Environmental Issues in Asia	2～4	2	
国際学部	国際地域学科	INN501	Practice of Internet Technology	2～4	2	
総合情報学部	総合情報学科	HSS201	エクササイズ・トレーニングの技術とその指導	2	2	
総合情報学部	総合情報学科	HSS202	エクササイズ指導実習	2	1	
総合情報学部	総合情報学科	HSS301	スポーツパフォーマンス	3	2	

諸資格について





社会福祉主事

社会福祉主事は、福祉事務所の相談業務を担当する職員の資格ですが、下記の「社会福祉主事の資格に関する指定科目」のうちから「3科目以上を修得」した者に任用資格が認められています。しかし、地方公務員として採用されなければ、この資格を活かすことはできません。なお、この資格を基礎とし、実務経験を持てば、児童福祉司等に任用されます。また、民間福祉施設の職員採用条件として、社会福祉主事任用資格を有することを求められることが多いです。

(1) 資格

大学において、社会福祉に関する科目を修めて卒業した者（社会福祉法第19条第1号）。

(2) 修得すべき科目

次ページ以降の社会福祉主事の資格に関する指定科目のうちから3科目以上を修得すること。社会福祉主事の資格に関する指定科目における本学開講科目のうち、いずれか1科目修得することで、当該指定科目を修得したとみなされます。但し、]がついている科目はセットで履修、修得することで1科目としてみなされます。

社会福祉主事に関する科目（第1部学生対象）

社会福祉主事の資格に関する指定科目	本学開講科目	社会福祉主事の資格に関する指定科目	本学開講科目
社会福祉概論	社会福祉の原理と政策A] 社会福祉の原理と政策B]	行政法	行政法ⅠA] 行政法ⅠB] 行政法ⅡA] 行政法ⅡB]
社会福祉事業史	社会福祉発達史] 欧米の社会福祉史]	経済学	経済学A] 経済学B] 経済学入門A] 経済学入門B] 国際公共経済A] 国際公共経済B] 経済学(マクロ)] 経済学(ミクロ)] 応用マクロ経済学] 応用ミクロ経済学] 経済原論A] 経済原論B] ミクロ経済学入門] マクロ経済学入門]
社会福祉援助技術論	ソーシャルワークの基礎と専門職A] ソーシャルワークの基礎と専門職B] ソーシャルワークの理論と方法A] ソーシャルワークの理論と方法B] ソーシャルワークの理論と方法C] ソーシャルワークの理論と方法D]	社会政策	社会政策論] 社会政策A] 社会政策B]
社会福祉調査論	社会福祉調査の基礎] 社会調査法]	経済政策	経済政策A] 経済政策B]
社会保障論	社会保障論] 社会保障論A] 社会保障論B]	心理学	心理学概論] 心理学A] 心理学B]
公的扶助論	貧困に対する支援]	社会学	社会学A] 社会学B] 社会学概論A] 社会学概論B]
児童福祉論	児童・家庭福祉]	教育学	教育基礎論] 教育学概論]
身体障害者福祉論	障害者福祉]	倫理学	倫理学基礎論A] 倫理学基礎論B] 応用倫理学A] 応用倫理学B] 倫理学概説A] 倫理学概説B] 倫理学概論A] 倫理学概論B]
老人福祉論	高齢者福祉]	医学一般	医学概論]
医療社会事業論	医療ソーシャルワーク論]	介護概論	介護福祉概論]
地域福祉論	地域福祉論] 地域福祉と包括的支援体制A] 地域福祉と包括的支援体制B]		
法学	法学A] 法学B]		
民法	民法A] 民法B] 民法Ⅰ(総則)A] 民法Ⅰ(総則)B] 民法Ⅱ(物権)A] 民法Ⅱ(物権)B] 民法Ⅲ(債権総論)A] 民法Ⅲ(債権総論)B] 民法Ⅳ(債権各論)A] 民法Ⅳ(債権各論)B] 民法Ⅴ(親族・相続)A] 民法Ⅴ(親族・相続)B]		

(注1) []の科目は国際観光学部教育課程表内の開講科目です。

(注2) 学科教育課程表および専門開放科目(他学部他学科開放科目)に掲載されていない本学開講科目は自由科目で履修してください。

(注3)]がついている科目はセットで履修、修得することで1科目としてみなされます。

国際観光学部 学生支援プログラム





国際観光学部

海外研修／学部長期留学プログラム

◆◆ 海外国際観光学研修（短期研修） ◆◆

国際観光学部では、海外国際観光学研修を実施しています。この研修は、海外諸国の都市・地域に赴き、社会や文化に深く関わる観光資源および観光開発について理解を深め、語学力の向上と共に国際的な視野を養うことを目的とした学部独自のプログラムです。また、長期留学並びにインターンシップ参加への準備も担います。

研修の期間や目的、成果により履修科目や認定科目が設定されています。海外国際観光学研修に参加する場合は、事前学習として「国際観光学研修Ⅰ」を受講のうえ、各コース独自の事前研修にも参加してください。

※各研修プログラムは過去の実績および今後の計画に基づき記載されていますが、研修先および当学部の研修運営上の事情、研修先の治安あるいは最小催行人数に満たない等の場合には中止となることもあります。

※年度によって実施する研修コースは異なります。詳しくは4月のガイダンスで発表します。

※研修費は目安です。実施時期の為替レート等により変動します。

※東洋大学独自の海外留学促進奨学金があります。詳細は本学国際教育センター Web サイトを参照してください。

研修参加に当たっての注意事項



説明会

研修に興味のある人や参加を希望する人は4月のガイダンスやコースごとに開催される説明会に参加してください。研修の具体的な内容の説明や、過年度の参加者の体験談などを紹介します。

※説明会の日程は、ToyoNet-ACE、掲示等でお知らせします。

オリエンテーション、事前・事後学習

出発までの渡航準備、現地での生活についてのオリエンテーションならびに事前学習を行います。また、帰国後は報告書作成などの事後学習や報告会を行います。

事前履修科目

研修参加希望者は、原則「国際観光学研修Ⅰ」（2単位）を履修（各自で Web 履修登録）してください。

事後履修科目および単位認定

■事後履修科目

研修参加者は、研修参加直後のセメスタに「国際観光学研修Ⅱ」（2単位）を履修することができます。研修中および事前・事後学習の状況等を元に評価された成績が付与されます。

■単位認定科目

研修コースによっては、「外国語系教育科目」から、下記科目を単位認定により修得することができます。所定手続きを行い、教授会で承認された成績評価（T：Transfer）が付与されます。

科目名	単位数
Hospitality English	1単位
Test Leader	1単位
Academic Writing I	1単位
Academic Writing II	1単位
Cultural Studies	1単位
Business English	1単位
World Affairs	1単位
一括認定単位（選択科目）	1または2単位※1

※1 研修期間によって異なります。

※2 英語の科目の単位認定は研修先での主たる使用言語が英語の場合に限ります。

※3 単位認定科目に変更が生じた場合は、別途掲示等でお知らせします。

■事後履修および単位認定科目の申請方法

- 1) ToyoNet-G から「事後履修科目申請書兼単位認定申請書」をプリントアウトし、必要事項を記入してください。
- 2) 事後履修科目および単位認定希望科目以外の Web 履修登録を終えた後、「履修登録確認表」をプリントアウトしてください。なお、その際の当該学期の履修単位数はこれらの申請科目を含め、履修上限単位数を超えないものとします。
- 3) 「事後履修科目申請書兼単位認定申請書」および「履修登録確認表」を申請学期の正規履修登録期間内に教務課に提出してください。（提出方法は ToyoNet-G でお知らせします。）
なお、「事後履修科目」は参加直後の学期のみ、「単位認定科目」は研修参加後、4 セメスタ以内の申請が認められます。

研修概要

研修コースや開講時期は年度によって変わる場合があります。

研修コースやプログラム内容の詳細は、4月のガイダンスやコースごとに開催される説明会でお知らせします。

<研修例>

義守大学（台湾）	
研修の目的	台湾南部では最大の総合大学である義守大学で、中国語を集中して学ぶと同時に、台湾の観光学の基礎を学ぶことを目的とする。
プログラムの内容（例）	月～木 午前・午後とも中国語授業に加え、文化の授業（台湾のお茶の文化など）。 金曜日と週末は見学と現地の人々との交流。
宿泊場所	学生寮
研修期間	2週間
研修費予定	250,000円
ミュンヘン大学（ドイツ）	
研修の目的	ミュンヘン大学付設のプログラムに参加することで語学力の向上を目指す。またホームステイを通じてドイツ人の生活に触れ、ヨーロッパ文化を異文化として受容する素地を得ることを目的とする。
プログラムの内容（例）	月～金：午前：ドイツ語研修 午後：ドイツ事情と観光に関連した講義と見学 週末：エクスカーション
宿泊場所	ホームステイ
研修期間	3週間
研修費予定	400,000円
カリフォルニア州立工科大学ポモナ校（アメリカ）	
研修の目的	アメリカの観光学科を持つ大学で就業体験をすること、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的とする。
プログラムの内容（例）	午前：専門ワークショップ等への参加、キャンパス内のホテル・レストランで就業体験 午後：英語授業受講 週末：エクスカーション
宿泊場所	キャンパス内ホテル
研修期間	3週間
研修費予定	560,000円
ハワイ大学マノア校（アメリカ）	
研修の目的	世界有数の観光地であるハワイの視察を行い、ハワイの歴史と文化を学習し、一流ホテル見学およびマネージャークラスの講演会の拝聴し、実践的語学力を向上させることを目的とする。
プログラムの内容（例）	月～金：午前にハワイの文化や移民の歴史等のレクチャーを聴き、午後に英語によるアカデミック・リサーチの手法を学び、成果物としてプレゼンテーションなどを行う。週末：観光地の視察や一流ホテル見学を行う。
宿泊場所	キャンパス内またはキャンパス近郊の寮
研修期間	3週間
研修費予定	500,000円

国際観光学部主催

◆学部長期留学プログラム（学部協定校交換留学）◆

国際観光学部では、学部独自で海外大学との協定を締結しています。この協定校へは、全学の交換留学とは別に、国際観光学部の学生のみ交換留学が可能です。

協定校へは、東洋大学を休学することなく1学期間または1年間留学でき、留学先大学では正規課程の科目を履修及び修得することを目的とします。

単位認定については、P.82～85を参照してください。

<協定校>

2021年4月1日現在

文藻外語大学	
名称	文藻外語大学 Wenzao Ursuline University of Languages
所在地	台湾 高雄市
周囲の環境	台湾南部の湾岸都市に位置します。自然に恵まれ、台北とは異なる独自の文化がある街です。
特徴	語学教育で著名な大学で、実用的な中国語を身につけることができます。
香港理工大学	
名称	香港理工大学 The Hong Kong Polytechnic University
所在地	香港特別行政区
周囲の環境	香港の中心街に位置する都市型キャンパスです。
特徴	ホスピタリティ教育の分野で世界の最先端とも評価される大学です。

※年度によって募集が行われない場合もあります。詳細については、説明会に出席して確認してください。

テンブル大学ジャパンキャンパス学生交換プログラム

国際観光学部はテンブル大学ジャパンキャンパスと学生交換協定を締結しています。この制度により、条件を満たしている国際観光学部生はテンブル大学ジャパンキャンパスで科目を履修し、修得した単位を東洋大学の単位として認定することができます。

テンブル大学ジャパンキャンパスは本校をアメリカ・ペンシルベニア州にもつ総合大学で、文部科学省より「外国大学の日本校」と指定されており、授業はすべて英語で行われます。国際観光学部ではテンブル大学ジャパンキャンパスでの科目履修を「国内留学」として位置付け、奨励しています。

1. 履修資格

下記「a」「b」両方の条件を満たす者

- a. TOEFL PBTスコア550 相当以上または TOEFL iBTスコア79 または IELTSスコア6.0 相当以上
- b. 2年生以上、かつ、テンブル大学の計算式により算出された前年度までの GPA が 2.0 以上

- ・上記2つの条件を満たしていても、GPAの換算方法などの違いや前提科目（履修に必要な基礎分野科目）の関係で履修が認められない場合もあるので留意してください。
- ・上記条件を満たしていない方を対象とした Bridge Program もあります。

2. 履修学期（テンブル大学学年暦）

- 1) 夏学期：5月下旬～7月下旬（12週）
- 2) 秋学期：8月下旬～12月下旬（15週）
- 3) 春学期：1月中旬～4月下旬（15週）

3. 出願期間・方法

募集要項を確認すること。

詳細は学内掲示および ToyoNet-ACE にてご案内します。

4. 履修単位

テンブル大学での履修単位数と本学での同学期履修単位数の合計が、本学の指定する履修上限単位数を超えないようにしてください。

5. 単位認定

テンブル大学での履修学期終了後に発行される成績表をもとに単位認定を行います。単位が認定された際の成績評価は「T」となります。

6. その他

- ・各学期の時間割は、募集要項と同時に ToyoNet-ACE 等を通じて公開します。
- ・テンブル大学での授業料はかかりませんが、通学に伴う交通費やテキスト代等は自己負担となります。
- ・記載内容は 2021 年 4 月時点の情報であり、変更となる場合があります。詳しくは掲示板および ToyoNet-ACE を確認してください。

東洋大学と東京外国語大学の単位互換制度について

東洋大学では語学科目を中心とした多様な学習機会を拡充することを目的として、2018年度より、東京外国語大学との間において単位互換協定を締結しました。これに伴い、東京外国語大学の授業の一部を履修することが可能になりました。

ここでは、東京外国語大学の科目を履修するにあたっての条件、履修方法などを規定しています。詳細は、東京外国語大学の履修要覧・シラバスを参照するとともに、所属学部教務担当課までお問合せください。

●● 関連 URL <https://gakumu-web1.tufs.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx> ●●

◆履修申請要領等◆

対象学生

学部2年次以上（ただし、原則、卒業予定の学期の履修はできません。）

履修可能単位数

学期の履修単位数の制限内かつ、卒業までに東洋大学以外の大学等で取得可能な単位数上限は60単位（入学前の単位認定も含む）。

学籍の取扱い

東京外国語大学では「特別聴講学生」として在籍することになります。

開講キャンパス

東京外国語大学府中キャンパス（所在地：〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1）

履修可能科目

所属学部教務担当課で確認してください。ただし、都合によって履修可能科目が変更になることがあります。また、本学と東京外国語大学双方の曜日時限が重複する科目や移動時間も含めて授業開始時刻に間に合わない科目を履修することはできません。

履修手続

- ①「特別聴講学生願書」を所属学部教務担当課窓口で受け取り、所定の期間内に所属学部教務担当課窓口へ提出してください。
- ②提出された「特別聴講学生願書」をもとに、東京外国語大学が受講の可否を決定します。
- ③第1回目の講義に出席し、東京外国語大学の授業担当教員へ東洋大学の学生であり、聴講申請手続き中である旨、申し出てください。
- ④受講の正式な可否については、ToyoNet-Gにてお知らせを配信しますので、確認のうえ、受講可の学生は東京外国語大学で所定の手続を行ってください。

試験

東京外国語大学の制度によります。追・再試験は原則行いません。

単位認定

東京外国語大学からの成績到着後、当該科目の単位の認定を希望する場合は、所属学部教務担当課窓口まで、「単位認定申請書」を提出してください。単位認定の可否については、教授会での審議を経て決定されます。申請が認められる場合は「T」評価として認定します。※「T」はGPA制度の対象にはなりません。



東京外国語大学入構時には本学の「学生証」を必ず携帯し、東洋大学の学生であることを示すこと。その他、東京外国語大学の学則に従い、規律ある行動をとること。

課外特別講座

◆学部統一英語試験◆

国際観光学部では、総合的な英語教育の一環として、学部の1・2年生に対し「学部統一英語試験」(TOEIC-IP)の受験を義務づけています。各人が現在の英語力を知り、目標達成に向かって努力する際の指針として役立ててもらおうことが目的で、受験料は大学が負担します。

【実施時期と回数：①入学時 ②第1学年終了時 ③第2学年終了時の計3回】

なお、この試験を受験しなかった学生については、必修英語科目の単位が認定されない場合や、新学年での必修英語科目の履修が認められない場合があります。詳細は各試験の実施前に、ToyoNet-ACE等を通じてお知らせします。

◆旅行業務取扱管理者講座◆

国内・総合旅行業務取扱管理者資格とは旅行業界唯一の国家資格のことです。旅行会社の支店・営業所の責任者として旅行業務を取り扱うため必要な国家資格です。

5月～8月の週1回程度、および8月の夏季休暇、9月(総合のみ)を利用して集中的に学習します(講座の実施曜日、時間帯は別途発表)。なお、講座は演習問題+解答・解説の形式で行います。受講希望者は、事前学習を行うか、以下の授業の履修を推奨します。

《国内》
 ・旅行業法論
 ・旅行契約と保護
 ・国内観光資源
 ・国内運賃・料金

《総合及び国内・総合》
 ・旅行業法論
 ・旅行契約と保護
 ・国内運賃・料金
 ・国際航空運賃
 ・海外旅行実務
 ・海外観光資源

国家試験は年1回行われ、国内旅行業務取扱管理者試験(主催:社団法人全国旅行業協会)は9月、総合旅行業務取扱管理者試験(主催:社団法人日本旅行業協会)は10月に実施される予定です。(2021年4月1日現在)

スケジュール(予定)

《国内》15～20日間 1回2時間(但し、夏季休暇時は異なる)
 《総合》18～20日間 1回2時間(但し、夏季休暇時は異なる)
 《国内・総合》30～35日間 1回2時間(但し、夏季休暇時は異なる)
 ※《国内》、《総合》とも上記の他に模擬試験および解答・解説を行います。

受講料(予定)

《国内》15,000円程度
 《総合》15,000円程度
 《国内・総合》20,000円程度
 ※上記受講料(模擬試験料含む)はこれまでの実績です。受講予定者数によって受講料が異なります(各年変動)。

定員

別途告知します。なお、本講座は最低施行人数を下回った場合、実施いたしません。

申し込み

申込方法・講座内容等の詳細はToyoNet-ACEにて周知します。受講希望者は必ず確認してください。

語学単位認定制度

◆留学生日本語単位認定制度◆

対象学生

国際観光学部 2021 年度入学生

制度の趣旨

既に勉強してきた日本語能力を最大限に伸ばし、さらに上級の日本語を学ぶ機会を増やすことを目的として日本語能力試験 N1 取得を支援し、単位認定します。

単位認定基準

試験の種類	日本語能力試験
認定基準	N1
認定科目	日本語総合演習 A
単位数	1 単位

資格の取得期日

大学入学前及び在学期間中

提出書類

- (a) 語学科目認定申請書
- (b) 検定試験の結果通知書のコピー

申請期間

各学期の履修登録手続期間

- ※ 単位認定希望科目の Web 履修登録は行わないでください。
- また、当該学期の履修単位数が単位認定希望科目を含め上限単位数を超えないものとします。
(登録の上限が 22 単位で 1 単位を申請する場合、Web 登録できるのは 21 単位まで。)

申請先

ToyoNet-G または ToyoNet-ACE にて通知します。

成績評価

国際観光学部教授会の承認を得て、「S」とします。

単位認定までの流れ

- ①申請 資格の認定日が有効期限内であることを確認のうえ、必要書類をそろえて申請してください。
- ②単位認定 国際観光学部教授会で審議された後、結果を ToyoNet-G または ToyoNet-ACE にて通知します。
- ③成績確認 成績発表時に認定された科目に正しく評価が記載されているかを確認してください。



語学学習の奨励について

◆外部検定試験による単位認定制度◆

対象学生

各語学資格保持者（下記参照）

制度の趣旨

入学時にすでに基礎力を持っている学生に対して中上級科目の履修を認め、在学中の早い段階での高度な言語運用能力を身に着けることを目的としています。さらに、複数の言語の運用能力を持つ人材を輩出することによって、社会的要請に応えることを期待しています。

単位認定基準

語学名	認定基準
中国語	中国語検定4級またはHSK 3級
ドイツ語	ドイツ語検定4級またはゲーテドイツ語検定A 1
フランス語	フランス語検定4級またはフランス語能力試験(TCF)100点以上
スペイン語	スペイン語検定5級またはDELE A 1
韓国語	ハングル能力検定4級または韓国語能力試験1級

上記の資格を保持していないが、同等程度の語学力を有する者については、初習外国語担当の教員に相談をすること。

なお、各言語の母国語話者には適用しません。

認定対象科目

各言語Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb（計4単位）

単位付与該当者に対する1年次からの中上級クラス履修について

上記単位認定制度に該当する学生に対し、1年次より以下の選択科目の履修を認めます。

中国語：「中国語Ⅲ」「中国語Ⅳ」

ドイツ語：「観光のドイツ語」

フランス語：「観光のフランス語」

スペイン語：「観光のスペイン語」

韓国語：「観光の韓国語」

資格の取得期日

大学入学前

提出書類

- (a) 語学科目認定申請書
- (b) 検定試験の結果通知書のコピー

申請期間

1年次の履修登録手続期間

※単位認定希望科目の履修登録は行わないでください。

また、当該学期の履修単位数が単位認定希望科目を含め上限単位数を超えないものとします。

申請方法については、Toyonet-Ace等のお知らせを確認してください。

成績評価

国際観光学部教授会の承認を得て、「S」とします。

資格取得学生の顕彰制度について

国際観光学部では、資格を取得し、本学部の教育に対する社会的評価を高めることに貢献した本学部の学生に対して顕彰する制度を導入しています。本制度の概要は以下のとおりですので、希望する学生は下記の事項をよく読んで所定の手続きをしてください。

対象学生

国際観光学科に在学かつ通学している学生

対象資格

詳細は、ToyoNet-ACE 等で配信いたします。

提出書類

1. 資格取得に対する顕彰申請書
2. 資格認定書等のコピー（国際観光学部学生表彰検討委員会が定める期間に取得したものに限り）

申請期間

国際観光学部学生表彰検討委員会が定める期間

顕彰内容

顕彰は、記念品の贈呈により実施します。また、あわせて賞状の授与も実施できるものとします。賞状及び記念品の授与は、所定の日における配付形式で実施します。当該配付日の通知は、事前に ToyoNet-ACE 等で行います。

申請先

教務課窓口（6号館1階）



上記内容は、2021年4月1日時点のものです。内容に変更が生じる場合がありますので、最新の情報は、ToyoNet-ACE もしくは ToyoNet-G をご確認ください。

大学院開講科目先行履修制度

国際観光学部では、大学院国際観光学研究科との連携を強め、大学院への進学を希望する学生に対して学部の中から専門的な学修の継続を図ることを目的として、国際観光学部4年生が大学院開講科目を履修できる「大学院開講科目先行履修制度」を導入しています。本制度の概要は以下のとおりですので、希望する学生は下記の事項をよく読んで必要な手続きをしてください。

◆◆制度の概要◆◆

1. 本制度は、国際観光学部4年生が本学大学院国際観光学研究科の開講科目を履修できる制度です。
2. 本制度により修得した単位は、本学大学院国際観光学研究科博士前期課程に入学時に、所定の手続きを行うことにより、大学院の単位として認定されます。
3. 本制度を利用できるのは下記の項目を満たす者としてします。
 - (1) 国際観光学部4年次に在学していること。
 - (2) 国際観光学部卒業後、国際観光学研究科博士前期課程に進学する意志があること。
 - (3) 第7セメスタ（4年次春学期）において履修する場合は、卒業に要する単位102単位以上を修得済みであること。第8セメスタ（4年次秋学期）において履修する場合は、卒業に要する単位数120単位以上を修得済みであること。
 - (4) 指導教員の推薦があること。
 - (5) 受講科目担当教員の承諾を得ていること。
4. 本制度で履修できる大学院の科目は、当該セメスタに国際観光学研究科博士前期課程で開講されている講義および演習科目とする。
5. 本制度により履修する科目は、学部では自由科目として取り扱い、卒業要件単位数には含めない。また、年間履修単位数の制限外で履修する。
6. 本制度で履修することのできる科目数は、4年次在学中に10単位以内とする。
7. 本制度により履修した科目の評価は、学部の成績原簿、成績表、成績証明書に記載する。学生は国際観光学研究科入学時に、その記録を添えて単位認定の申請ができる。

◆◆申し込み手続きについて◆◆

「大学院開講科目先行履修制度」申し込み用紙に必要事項を記入の上、当該セメスタの履修登録期間内に教務課にて手続きを行ってください。手続き方法の詳細は、ToyoNet-G等でお知らせします。

国際交流・国際教育プログラム

国際交流・国際教育プログラムの内容や募集に関する情報は、国際教育センター Web サイトで確認してください。

URL:<https://www.toyo.ac.jp/international-exchange/>



Toyo Global Leader (TGL) プログラム

TGL プログラムは、東洋大学生が国内外で活躍できるグローバル人材となるために「異文化環境における英語運用表現能力」、「多文化共生社会における価値創造能力」、「異文化環境における課題解決能力」の3要素を強化することを目的としています。これらの目的に沿って、「Gold」「Silver」「Bronze」のランクごとに7つの認定要件を定め、各要件を満たした学生を Toyo Global Leader として認定します。

国際観光学部では、ゲストスピーカーによる講義や、クラス外活動、1年生海外研修を通じて、TGL プログラムに参加する機会を与えています。

◆認定要件◆

下記のとおり、ランクごとに認定要件が設定されています。

認定要件	TGL Gold	TGL Silver	TGL Bronze
(1) 英語能力 (TOEIC® L&R)	730 点	590 点	—
(2) 外国語による授業科目の修得	40 単位	20 単位	10 単位
(3) 外国語による論文等執筆	必須	—	—
(4) 海外留学・インターンシップ	必須	どちらかを 必須	—
(5) 海外アクティビティ	必須		—
(6) 東洋グローバルリーダー(TGL)キャンプ	必須(運営)	必須(参加)	必須(参加)
(7) Toyo Global(TG)ポイント	30 ポイント	20 ポイント	10 ポイント

◆認定要件について◆

- (1) 英語能力
英語資格試験のスコアにより認定します。TOEIC® L&R(公開テストおよび IP テスト)のほか、TOEFL iBT®、TOEFL ITP®、IELTS™ のスコアを TOEIC® L&R スコアに換算します。なお、スコアは在学中に受験したものに限りします。
- (2) 外国語による授業科目の修得
基盤教育の語学科目や開講言語が外国語の授業科目および英語特別教育科目の修得単位数を加算していきます。また、海外留学や海外インターンシップ等により認定された科目の単位数も加算できます。さらに、卒業論文等を外国語で執筆した場合、卒業論文科目の単位数も加算します。
- (3) 外国語による論文等執筆
下記 a.b.c. のいずれかに当てはまる論文等を執筆し、a.b. については、指導教員の確認書と共に提出することで認定されます。
 - a. 言語を問わず執筆した卒業論文等の英文要旨もしくは英語で執筆した卒業論文等
 - b. 授業内で各言語(日本語を除く)により作成し提出された論文等
※外国人留学生については日本語(ネイティブ言語以外)での執筆も認める。
 - c. 国際教育センターで設定したテーマに基づいた英語の課題論文
- (4) 海外留学・インターンシップ
海外での活動が連続で3週間(現地入国から出国までが21日間)以上^(*)の留学やインターンシップを対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。
※海外での活動が4週間(28日間)以上であれば[(5)海外アクティビティ]の要件と合わせて達成となります。

- (5) 海外アクティビティ
上記(4)に該当しない、海外での活動が連続で1週間(現地入国から出国までが7日間)以上の留学、研修、インターンシップ、ボランティア等の活動を対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。
- (6) 東洋グローバルリーダー (TGL) キャンプ
本学で実施する「東洋グローバルリーダー (TGL) キャンプ」への参加 (または運営チームとしての参加) により認められます。
- (7) Toyo Global(TG) ポイント
国内外の国際交流活動 (海外留学、インターンシップ、ボランティア、国際シンポジウム等) および課外語学講座等への参加がポイントの対象となります。ポイントは各活動期間に応じて付与します。

◆◆ TGL プログラムの仕組み ◆◆

一度の取り組みで複数の認定要件に当てはまる場合があります。

<例>

東洋グローバルリーダー (TGL) キャンプに参加した。

認定要件	結果
(6) 東洋グローバルリーダー (TGL) キャンプ	⇒認定 (参加)
(7)Toyo Global (TG) ポイント	⇒1 ポイント付与 (半日のプログラム) ⇒2 ポイント付与 (1日のプログラム)

<例>

交換留学で1年間海外渡航 (TOEFL ITP® 550点を保有)。

留学先で英語による専門科目5科目を修得、東洋大学で5科目×2単位=10単位が認定された。また、留学中1週間のボランティア活動に従事し、「短期海外実習I」(1単位)が認定された。

認定要件	結果
(1) 英語能力	⇒認定 (TOEIC® L&R730点に換算)
(2) 外国語による授業科目の修得	⇒11単位加算
(4) 海外留学・インターンシップ	⇒要件クリア
(5) 海外アクティビティ	⇒要件クリア
(7)Toyo Global (TG) ポイント	⇒35ポイント付与

プログラムの詳細は ToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS (国際交流情報)」
コース内、「東洋グローバルリーダー (TGL) プログラム」を確認してください。
https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1324577



- ・ TGL プログラム問い合わせ先
国際部 [国際教育センター] (白山キャンパス 8号館 1階)
Tel : 03-3945-8536
Email : ml-tgl@toyo.jp

海外留学・研修プログラム

◆海外留学・研修プログラムの概要◆

本学では、休学することなく参加できる海外留学・研修プログラムを豊富に用意しています。

プログラム名	① 交換留学	② 認定留学	③ 協定校 語学留学	④ 語学セミナー	⑤ 海外インターンシップ・ ボランティア	⑥ 国連ユース ボランティア・ ワシントンセンター	⑦ Diversity Voyage
留学形態	学部留学*1		語学留学*2		—	—	—
期間	1 学期または 1 年*3		3～6ヶ月	3～4 週間	2～6 週間	3～5 ヶ月	約 10 日間
出発時期	第Ⅰ期：2～3月 第Ⅱ期：8～9月	留学先大学により 異なる	春学期：2～5月 秋学期：8～10月	夏季および 春季休暇中		8～9月	夏季および 春季休暇中
語学条件	あり		なし		あり		なし
単位	単位認定申請可*4				履修登録対象*5	単位認定申請可*4	履修登録対象*5
東洋大学留学 奨学金(給付型)	あり			なし			
東洋大学海外留学 促進奨学金(給付型)	トップ大学型 グローバルリーダー型	アクティブ型	チャレンジ型	アクティブ型	なし		

プログラムの内容等は変更になる場合があります。

*1 学部留学…現地で正規課程の科目を履修及び修得することを目的とする留学

*2 語学留学…海外の大学附属の語学学校で語学を集中的に学ぶ留学

*3 1年……留学先機関によって学期制度や学期の日程が異なるため、トータルで1年間の留学期間を指す言葉として使用しています。

*4 単位認定申請可…留学先大学等で修得した単位に関し、本学開講科目の単位として認定を申請できます。

*5 履修登録対象……該当する本学の開講科目を履修登録できます。

◆各種海外留学・研修プログラムの詳細◆

① 交換留学

本学が学生交換協定を締結している協定校あるいは海外学生交換コンソーシアム (ISEP・UMAP 等) に加盟する大学へ、1 学期間または 1 年間留学するプログラムです。留学先の大学では正規課程の科目を履修及び修得することを目的とします。東洋大学を休学することなく留学できます。原則、留学先大学の授業料は免除となり、留学期間に応じて奨学金が給付されます。

② 認定留学

本学協定校の他、学位授与権のある大学へ 1 学期間または 1 年間留学するプログラムで、留学先の大学では正規課程の科目を履修及び修得することを目的とします。国や地域は問いません。東洋大学を休学することなく留学できます。原則留学先の授業料は自己負担となりますが、留学期間に応じて奨学金が給付されます。

大学への出願・入学手続きは原則各自で行うため、留学に先立って自ら十分な情報を収集し、綿密な計画を立てることが重要です。

③ 協定校語学留学

本学の海外協定校附属の語学学校へ、3ヶ月から6ヶ月間留学するプログラムです。語学力の向上を目的とし、語学を学びながら様々なアクティビティやホームステイ等を通じた異文化体験をします。原則、留学先の授業料は自己負担となりますが、条件を満たした場合、奨学金が給付されます。また、東洋大学を休学することなく留学できます。

④ 語学セミナー

夏季および春季休暇を利用した短期語学研修プログラムです。語学研修、アクティビティ、ホームステイ等を通じて語学力の向上と異文化理解を目的としています。

⑤ 海外インターンシップ・ボランティア

グローバル社会で活躍するために必要となる英語力・異文化理解力・社会人マナーなどの社会人基礎力を育成し、世界に羽ばたく学生を育てることを目的としたプログラムです。夏季および春季休暇を利用し、2～6週間研修を行います。語学力の向上に加え、各国の経済状況や文化風習の違いを“働く”という社会生活を通じて体験し、今後の学生生活とキャリア形成に生かすことができます。

※学部主催プログラムについてはP.43を参照してください。

⑥ 国連ユースボランティア (UNYV) ・ ワシントンセンター (TWC)

・ 国連ユースボランティア (UNYV)

国連ボランティア計画 (UNV) のコーディネートの下、開発途上国の国連事務所や政府機関でユースボランティアとして、約5ヶ月間働く長期インターンシップです。現地国連スタッフと共に広報活動やフィールドワーク等の業務に携わりながら、高度なキャリア意識やリーダーシップを養うプログラムです。

本プログラムは2021年度派遣にて終了予定です。

・ ワシントンセンター (TWC)

アメリカの首都であるワシントン DC 周辺の公的機関、NPO、企業などで15週間の就労体験と夜間に行われる授業を通じ国際的感覚を身につけ、将来のグローバルリーダーを育てるプログラムです。

⑦ Diversity Voyage

一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) が行う、夏季および春季休暇を利用した短期間の海外研修です。海外で現地学生等と英語でコミュニケーションを取りながら共創・協働することで、語学力のみならず「多様性適応力」を育みます。

○各プログラムの詳細は大学ホームページを確認してください。

国際交流「海外留学を希望する方へ」

<https://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/>



海外留学・研修プログラム向け 給付型奨学金

東洋大学では、多くの学生が海外留学・研修プログラムに参加できるよう、充実した奨学金を用意しています（プログラムや語学スコアに応じ7～300万円を給付）。

－東洋大学留学奨学金

－東洋大学海外留学促進奨学金

その他、民間団体などによる奨学金もあります。

各奨学金の要件や金額は変更になる可能性があります。

詳細や最新情報は国際教育センターホームページで確認してください。

<https://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/scholarship/>



◆留学に伴う単位認定・履修について◆

留学に伴う、東洋大学での単位認定・履修については、参加する留学プログラムによって取扱いが異なります。必ず、渡航前に、学部が主催する出発前オリエンテーションに参加し、事前説明を受け、必要な手続きを確認してください。

①交換留学 ②認定留学 ③協定校語学留学 (学部協定校交換留学含む)

～教務課での事前相談について～

交換留学、認定留学、協定校語学留学に出願する学生は、留学終了（帰国）後に最短で卒業および諸資格取得を可能にするため、不明な点がある場合は必ず留学出願前に教務課窓口で相談してください。また、帰国後の履修手続きについて注意すべき点（継続履修および学年進行に関わる科目、帰国後の授業科目の履修・成績（卒業要件、資格取得要件等））がありますので、留学決定後にも必ずすみやかに教務課窓口で相談してください。

1. 単位認定対象科目

所定の手続きを行うことで、大学又は短期大学への留学により修得した単位を、本学の単位として認定申請することができます。ただし、認定される単位は次の全てを満たすものに限りです。

- (1) 海外の大学又は短期大学の正規課程で単位を修得した場合
- (2) 本学部が、教育上有益と認めた場合
- (3) 本学部が、修得した単位の授業内容および授業時間数が本学科教育課程内科目と同等以上であると認めた場合

学科課程にない科目や授業内容・授業時間数が同等レベルと認められない科目、既修得科目については、留学先で修得しても単位認定の対象外です。また、正規課程以外の附属語学学校での学修についても、原則単位認定の対象外ですが、所定の手続きをすることで、単位を修得できる場合があります。

2. 単位認定手順

単位認定は、学生からの申請に基づき、科目の適合性・授業時間数の適合性や成績評価等を確認のうえ、次の手順で行います。

(1) 単位認定の方法

留学先で修得した科目の授業内容・授業時間数が、本学科教育課程内科目と同等以上であることを確認し、原則「個別認定」による単位認定を行います（**合格基準を満たさなかった科目は、認定対象外**です）。

「個別認定」とは、修得した単位認定対象科目の単位が、東洋大学で所属する学科課程表のどの科目に相応するかを個別に確認し、単位認定する方法です。

また、単位認定対象科目のうち、個別認定ができない場合には、科目領域別の単位として一括認定とする場合があります。

(2) 単位認定基準

◎交換留学・認定留学の場合

下記の表に基づき、単位認定数を決定します。

国／地域	東洋大学			UCTS※1	アジア	米国	欧州	英国
換算単位	講義演習	外国語	実験実技	1UCTS	1単位	1単位	1.5ECTS	3単位
	1単位	0.5単位	0.3単位					
学習量	45時間	22.5時間	15時間	38-48時間	38-48時間	45時間	37.5-45時間	ECTSから換算
授業時間数	15時間			13-16時間	13-16時間	15時間	—	—

※1 UCTS (UMAP Credit Transfer Scheme) とは、欧州諸国の学生交流事業 (ERASMUS) における欧州単位互換制度 (ECTS) をモデルにしたもので、1999年より UMAP 事業の下、アジア太平洋諸国間の学生交流を促進するために奨励してきた単位互換のための換算方式です。

※2 留学先大学の単位制度により、互換方式が適用できない場合には授業時間数により、計算を行います。

◎協定校語学留学の場合

留学先での授業時間数を東洋大学の1単位あたりの授業時間数に換算し、単位認定数を決定します。東洋大学で単位付与をするにあたって、最低限必要な授業時間数の基準は次の通りです。

基準 講義科目：675分＝1単位 外国語科目：1,350分＝1単位 実習・実技科目：2,025分＝1単位



「留学先で付与される単位数＝東洋大学での認定単位数」ではありません。

(3) 単位認定申請のフロー

<留学前> ※協定校語学留学の場合は、履修計画書の提出は不要です。

- ① 留学先大学の科目リスト・シラバス等を参考に履修計画を立て、長期留学「履修計画書」を作成する。
- ② 指導教員より、留学先での履修科目および東洋大学での単位認定科目・単位数について事前指導を受ける。
- ③ 指導を受けた後、教務課に「履修計画書」を提出する。

<留学終了後>

- ① 「単位認定願」に、留学先での成果（履修科目・成績）を記入し、成績証明書・成績基準がわかる書類・シラバス等を添えて指導教員に提出する。
- ※教科書・ノート等の提出を求められた場合は、指導教員の指示に従うこと。
- ② 指導教員より単位認定科目・単位数について指導を受け、必要書類に署名・所見を記入してもらう。
- ③ 内容を確認のうえ、教務課に「単位認定願」、「成績証明書原本」、「成績基準がわかる書類」、「シラバス」等、単位認定に必要な書類をすべて提出する。

3. 単位認定上限単位数

留学に伴う単位認定の上限数は、**1学期間の留学につき17単位、1年間の留学につき34単位**です。
 ※なお、在学中の単位認定による総修得単位数が60単位を超えないものとします。この60単位には、留学以外の各種単位認定制度による修得単位数も含まれます。
 詳しくは教務課窓口で確認してください。

Column

～在籍中に単位認定できる上限単位数について～

各種様々な単位認定制度がありますが、在籍中に単位認定できる単位数は、学則第43条および第44条において、合計60単位が上限と定められています。

この合計60単位には、以下の制度が対象となります。

- ①交換留学 ②認定留学 ③協定校語学留学 ④語学セミナー ⑤海外国際観光学研修
 ⑥語学単位認定 ⑦テンプル大学ジャパンキャンパス学生交換プログラム
 ⑧東京外国語大学単位互換制度 ⑨休学中の留学による単位認定

〈2021年4月1日現在〉

4. 単位認定科目の成績評価

単位認定された科目は、「T (Transfer)」評価となります。なお、「T」評価はGPA算出式には含まれません。また、単位認定された科目は、認定された本学の科目名で留学帰国学期の成績として付与されます。なお、成績表への反映は、留学が終了する学期の本学成績発表日から約2ヵ月前までに申請があった場合は成績発表日、それ以降は申請日の約2ヵ月後を目安に行われます。ただし、申請に不備があった場合はこの限りではありません。詳細は、申請時に教務課に確認してください。

5. 留学中の本学での履修登録・単位付与

留学を行う学期中は、東洋大学で履修登録をすることは、原則認められません。

ただし、次に定める科目に限り、事前に申請書を提出し許可を得たうえで、留学中に履修登録をすることができます。なお、対象科目・申請条件等の詳細については、各種申請書を確認し、渡航前までに手続きを行なってください。

(1) 対象科目種別・申請書

対象科目種別	申請書名称	注意事項
国際観光研究 (ゼミ)	演習科目履修申請書	渡航前に提出すること。
卒業課題	卒業課題履修申請書	渡航前に提出すること。

(2) 単位付与・成績評価について

対象科目を履修登録した場合、次の条件を全て満たすことで、単位が付与されます。

成績評価については、通常履修時と同様、SABCDE* 評価となり、合格基準に達した (C 評価以上) 場合、履修登録した学期に成績が付与されます。

- ①担当教員に許可を得て、予め教務課に申請書を提出していること。
- ②申請した、本学部で開講される科目について、履修登録期間中に、学生自身で履修登録していること。
 ※留学中の場合、留学先より ToyoNet-G にて Web 履修登録をすること。
- ③担当教員より、留学中の遠隔指導および留学前後で対面指導を受けていること。
 ※留学中の指導方法 (例: ACE による遠隔指導等)、課題提出方法等は、留学前に担当教員に確認し、指示に従うこと。

原則、ToyoNet-ACE 経由での「マンスリーレポート」の提出は必須です。

マンスリーレポート	<ul style="list-style-type: none"> ・当該月終了後に留学先での学習状況のほか、正課外の交流活動の様子や振り返りなども含めてレポートを提出すること。 ・日本語の場合は原則 1,000 字以上、英語の場合は 500 単語以上で記入すること。 ・その他、別途課題を課された場合は、指導教員の指示に従うこと。
-----------	--

④帰国後に、留学先における学修成果を証明できること（成績証明書・修了証等）



履修登録を忘れた場合や、担当教員から指導を受けていない場合は、成績評価が不合格（DE*）となり、単位が付与されない場合があります。担当教員に事前に相談のうえ、学修計画を立てましょう。

④短期語学セミナー

最大 2 単位まで単位認定の申請をすることが可能です。なお、下表に記載の「一括認定単位」は、外国語系教育科目「選択科目」区分に換算されます。

2021 年度入学生

研修区分	科目区分	科目名	単位数
英語研修	語学 選択必修科目 B 群	Hospitality English	1 単位
		Test Leader	1 単位
		Academic Writing I	1 単位
		Academic Writing II	1 単位
		Cultural Studies	1 単位
		Business English	1 単位
		World Affairs	1 単位
		一括認定単位(選択科目)	1 または 2 単位
中国語研修	語学 選択必修科目 B 群	一括認定単位(選択科目)	1 または 2 単位

⑤海外インターンシップ・ボランティア

本プログラムは、基盤教育科目「海外研修」「海外実習」「短期海外研修」「短期海外実習」の履修登録対象プログラムです。詳細は学内掲示板、ToyoNet-G のお知らせを確認してください。

国際観光学部のインターンシッププログラム及びインターンシップに係る単位修得については、事前に担当教員に確認をしてください。

※学部主催プログラムについては P.43 を参照してください。

⑥国連ユースボランティア・ワシントンセンター

詳細は所属学部教務課窓口へお問い合わせください。

⑦ Diversity Voyage

本プログラムは、基盤教育科目「短期海外研修」の履修登録対象プログラムです。

詳細は学内掲示板、ToyoNet-G のお知らせを確認してください。

【海外留学・研修プログラムについての問い合わせ先】

国際部〔国際教育センター〕（8号館1階）

E-mail: mlryugaku@toyo.jp TEL: 03-3945-8593

【学籍・履修・単位についての問い合わせ先】

教務課窓口（6号館1階） E-mail: ml-itm-kyomu@toyo.jp

本学を休学して外国の大学等へ留学した場合の単位認定について

本学を休学して外国の大学等に留学した場合、留学先で修得した単位を本学の単位として認定することができます。単位認定を希望する場合は、事前に所定の手続きを行う必要があります。

◆◆ 単位認定の対象となる機関 ◆◆

学位授与権を持つ大学（学部学生のみ2年制大学及び附属語学学校を含む。）および附属学校。

◆◆ 留学期間 ◆◆

休学期間を超えない範囲とする。

※原則として連続する2セメスタ（1年間）を超えて休学することはできません。

◆◆ 必要な手続 ◆◆

休学手続きを行う前に、国際教育センターへ留学機関等に関する届出を行う必要があります。手続きの詳細については、本学ホームページを参照してください。

<https://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/kyugaku-ryugaku/>



英語特別教育科目 LEAP プログラム

LEAP (Learning English for Academic Purposes) プログラムは将来海外留学を目指す学生や、英語力を高めたいと希望する学生を対象とした学術英語プログラムです。留学に必要な IELTS™ のスコアアップに加えて、大学レベルの授業を英語で受けるのに対応できるだけの学習スキルの習得も目指します。LEAP の授業は英語で行われるため、内容を理解し、課題などをこなしていくためには基礎的な英語力が必要となります。修得した単位は卒業単位として認められます。

LEAP は、英語力に応じて IELTS I、IELTS II、PSA の3段階に分かれています。

IELTS I (中級) : IELTS™を受験したことがない学生 (TOEFL ITP® 400-470 点程度未満) に推奨

IELTS II (上級) : IELTS™ 4.5 点程度の学生が対象 (白山キャンパスでのみ開講)

PSA (留学準備コース) : IELTS™ 5.0 点程度以上の学生が対象 (白山キャンパスでのみ開講)

※上記の基準スコアは受講者数やスコア分布により変動する場合があります。

IELTS I と IELTS II には次の2つの科目が用意されています。1科目のみ、または両方履修することができます。

LS 科目 (週2回・2単位) … **Listening と Speaking** に特化した科目

RW 科目 (週2回・2単位) … **Reading と Writing** に特化した科目

PSA は次の2科目から成ります。

Pre-Study Abroad : Listening/Speaking (**PSA L/S**) … 留学してからの受講スキルを学習 (週2回・2単位)

Pre-Study Abroad : Writing (**PSA W**) … 英語で論文を書くための基礎を学習 (週1回・1単位)

<申込・お問合せ>

プログラムの詳細は ToyoNet-ACE 「LEAP」コースをご確認下さい。

(春学期履修の案内は前年11月頃、秋学期履修の案内は5～6月頃配信予定)

・ LEAP プログラムについての問い合わせ先

LEAP オフィス (白山キャンパス 8号館2階)

Tel : 03-3945-7341

Email : mlleapoffice@toyo.jp



他にも国際部 [国際教育センター] では、外国語資格試験の団体受験や受験料補助、全キャンパスにて英会話講座、語学試験対策講座及びランゲージセンターによる英語ライティング指導を実施しています。各プログラムの詳細は、ToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS (国際交流情報)」コースをご確認ください。

・ 外国語資格試験、ランゲージセンター、課外英語講座についての問い合わせ先

国際部 [国際教育センター] (白山キャンパス8号館1階)

Tel : 03-3945-8172

Email : ml_lc_global@toyo.jp



各種手続

学生生活を過ごすうえで重要な各種手続について説明します。
自らの学修活動に支障をきたすことがないように、履修要覧を熟読し、学生生活を実りあるものにしましょう。
不明な点があれば各種相談窓口へ問い合わせてください。

各種相談や事務取扱窓口について

大学では、皆さんがいつでも学修や大学生活について相談できる体制を整えています。授業や学生生活に関する悩みごとなどの相談、休学などの学籍異動に関する手続等については、以下の窓口にて相談してください。

窓口時間は学生の長期休暇、大学祭などにより変更となる場合があります。

掲示や大学ホームページなどでお知らせしますので、随時確認してください。

◆各種相談窓口◆

相談内容	担当	場所	窓口時間	参照ページ
授業に関する相談	教員	研究室等	オフィスアワー	p.20 「教員との連絡」を参照してください。
履修登録 成績 休学／復学／退学／転部・転科 ／再入学／各種証明書 その他教務全般	各学部 教務課	6号館1階	月～金 9:30～13:00 14:00～20:00※ 土 9:30～12:45	履修登録 …… p.15～16 成績 …… p.25～26 休学／復学 …… p.94～95 退学 …… p.96～97 転部・転科 …… p.100 各種証明書 …… p.101～102
奨学金に関すること サークル等課外活動に関する こと	学生支援課	6号館1階	月～金 9:30～13:00 14:00～19:45 土 9:30～12:45	
学生生活における悩みごとの 相談	学生サポート室	6号館1階	月～金 9:30～13:00 14:00～19:45 土 9:30～12:45	
学習方法などに関する相談・ 支援	ラーニングサポート センター	3号館1階 ナレッジ スクエア	詳細は Web サイト、掲示板 で確認してください。	p.24
病気・ケガなどの身体に関わ ること 健康診断等	保健管理室	6号館1階	月～金 9:30～19:45 土 9:30～12:45 ※医師診療時間については 「学生生活ハンドブック」 にて確認してください。	
就職に関する相談	就職・キャリア支援課	6号館1階	月 9:30～17:45 火～金 9:30～19:45	
障がい学生支援に関すること	ピアサポートルーム	6号館1階	月～金 10:00～13:00 14:00～18:30 土 9:30～12:45	
海外留学に関する相談	国際教育センター	8号館1階	月～金 9:30～18:00 土 9:30～13:00	
図書館資料に関すること	附属図書館	2号館1階	Web サイトにて確認してく ださい。	
納付金に関すること	財務課	9号館1階	Web サイトにて確認してく ださい。問い合わせはメー ルにてお願いします。 Email: mlgakuhi@toyo.jp	p.103～105

※国際観光学部教務課の窓口時間は下記のとおりです。

月～金：9:30～13:00、14:00～18:45

土：9:30～12:45

学籍情報

◆学籍番号◆

みなさんには、「学籍番号」という10桁の固有番号が付与されています。原則卒業まで変わることはありません。番号は以下のとおり、所属学部・学科、入学年度などを表しています。履修登録や試験の解答用紙の提出、各種届け出、証明書の申請にあたっては、学生本人を特定する番号となりますので正確に記入してください。

【学籍番号の例】

1	E	1	0	2	1	0	9	9	9
学部・学科コード(※1)				入学年度 (西暦下2桁)		学生区分 (※2)	番号(001～)		

※1 学部・学科コード

1 E 1 0	国際観光学部 国際観光学科
---------	---------------

※2 学生区分

0	通学課程
9	科目等履修生

◆学生証◆

本学の就学手続が完了した学生に学生証を交付します。学生証は本学学生としての身分を証明するものですので、常に携帯してください。また学長印、学生本人の写真、裏面シールの貼付が無いものは無効となります。学生証は他人に貸与、または譲渡することはできません。

Point

～学生証の携帯義務～

学生証は本学学生としての身分を証明するものであるため、常に携帯し、次の場合これを提示しなければなりません。

- 1) 本学の教職員の請求がある場合
- 2) 試験を受験する場合
- 3) 各種証明書や学生旅客運賃割引証明書(学割)等の交付を受ける場合
- 4) 通学定期乗車券や学生割引乗車券を購入する際と、それを利用して乗車船した際に係員の請求があった場合、等

学生証がないと各種証明書の発行が受けられません。また、図書館の利用、試験の受験、通学定期券の購入等ができませんので、紛失・汚損・破損のないよう十分注意してください。

<有効期限と更新手続>

入学時に交付を受けた学生証は卒業するまで使用しますが、学生証の有効期限は4月1日から次年度の4月15日までの約1年間です。毎年4月初旬の進級手続期間内に、学生証の裏面シールを貼りかえ、学生証の有効期限の更新を受けなければなりません。

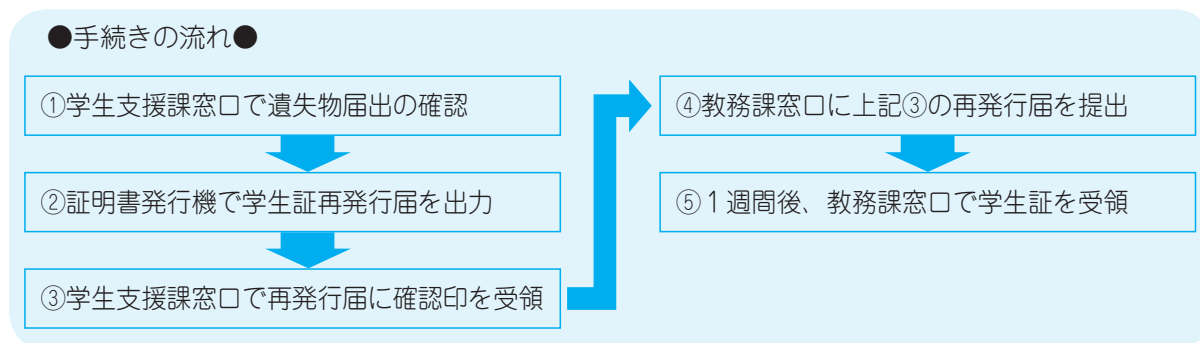
※進級手続の詳細は、ToyoNet-G等でお知らせします。

<返還>

卒業または退学・除籍等の理由で、本学に籍が無くなった場合は、学生証を本学に返還しなければなりません。

<再発行>

学生証を紛失もしくは破損・著しく汚損した場合は、直ちに本学へ届け出し、以下の手続に従って学生証の再発行をしなければなりません。



- ・ 学生証の再発行には1週間かかります。
- ・ 再発行手数料として2,000円がかかります。
- ・ 申込キャンセルによる手数料の返金はできません。
- ・ 郵送による再発行手続も可能です。詳細は大学 web サイトを確認してください。

<証明書発行機で使用する暗証番号>

第三者に不正使用されないために、4桁の数字の暗証番号が登録されています。オンライン入学手続時に届け出た暗証番号は、証明書発行機で証明書等を発行する際に必要です。メモなどを取り、必ず覚えておいてください。

◆学籍情報の変更◆

本学の入学手続時に届出した情報に変更が発生した場合は、教務課窓口で所定の用紙に変更箇所を記入し、速やかに届け出てください。なお、変更内容によっては、「ToyoNet-G」の「学生メニュー」>「個人情報管理」>「学生情報申請」を利用しても変更が可能です。

変更内容	変更方法		注意事項 (提出書類など)
	教務課窓口	ToyoNet-G	
本人氏名変更 (改姓・改名)	○	×	戸籍抄本または住民票を提出してください。
本人住所、連絡先変更	○	日本国籍学生…○ 外国籍学生… 住所変更は×	外国籍学生は在留カードの両面コピーを提出してください。
最寄駅変更	○	○	
保証人変更	○	×	変更届・誓約書(新しい保証人の署名が必要です)
保証人住所、連絡先、 勤務先変更	○	○	
緊急時連絡人変更	○	×	
緊急時連絡人住所、 連絡先変更	○	○	
本籍地変更	○	×	住民票(本籍の記載があるもの)、または戸籍抄本の提出が必要です。
在留資格・在留期間等変更 (外国籍学生対象)	×	×	TUGS社(8号館2階)にて所定の手続を行ってください。

休学および復学

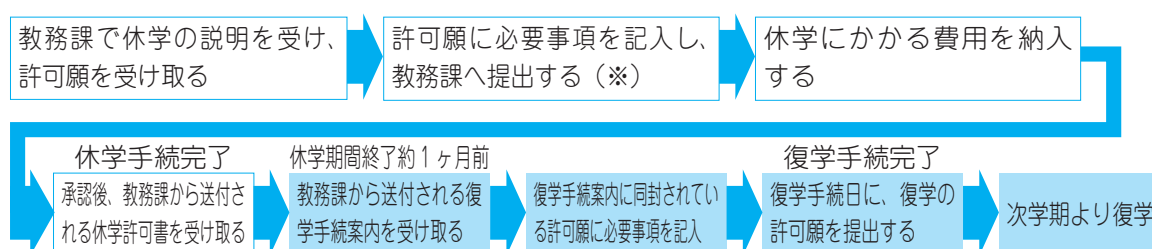
病気・家庭の事情・留学等の理由で3ヶ月以上本学に修学できない場合は、大学の許可を得てその学期を休学することができます。

休学希望者は、教務課で休学についての説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し、教務課に提出してください。なお、病気・怪我による場合には、許可願に併せて医師の診断書の提出が必要となります。

以下の項目は、学期初めからの休学について説明しています。学期途中の休学については下記「Notice」を確認のうえ、教務課窓口で詳細の説明を受けてください。

休学中に留学する場合の単位認定に係る手続きについては、p.86を確認してください。

◆休学および復学手続の流れ◆



手続きについては、学生本人が行ってください。やむを得ず本人が手続きできない場合は、事前に教務課へ相談してください。

※許可願には、学生本人および保証人自筆の連署が必要です。

また、原則、許可願提出の前に担任教員と面談をする必要があります。

◆休学の期間と許可願の提出期限◆

学期初めからの休学希望者は、定められた期限までに許可願を教務課に提出しなければなりません。

学期	休学期間	提出期限
春学期	4月1日～9月30日	5月31日(※)
秋学期	10月1日～3月31日	11月10日(※)

※大学の営業日にあわせて前後することがあります。

原則として連続する2学期を超えて休学することはできません。ただし特別な事情がある場合は大学の許可を得て休学することができます。休学の期間は通算して、8学期を超えることはできません。



休学希望者は休学する学期開始の2ヶ月前までを目安に教務課窓口にご相談してください。
2学期連続休学を希望する場合は、各学期ごとに手続が必要です。

Notice

～学期途中の休学について～

春学期途中に休学する場合、春学期最終日の3ヶ月前の6月末日まで、秋学期途中に休学する場合、秋学期最終日3ヶ月前の12月末日まで受付をします。ただし、学期途中での休学の場合、納付金の返還はできませんので注意してください。

◆各学期の休学にかかる費用◆

許可願提出後、各学期の納付金納入期限末日までに以下の納付金を納入することで、休学許可申請が完了します。

学費		その他の費用	
各学期の一般施設設備資金 の1/2	+	雨水会費	学生課外活動 育成会費

※秋学期休学の場合、「その他の費用」については春学期に徴収済のため、納付の必要はありません。納付金の詳細一覧がP.103にありますので、確認してください。



学期によって異なる部分があります。休学するためにかかる費用については教務課に必ず相談してください。

◆休学（復学）許可願の書き方◆

東洋大学長 殿

以下の事由により 年 月 日をもって

休学（年 月 日まで）
復学・退学・再入学 いただきます。

（※該当する事項を○で囲むこと）

許可できますよう、保証人連署のうえお願いいたします。

【休学・退学事由】（休から一つ選択し、○で囲むこと）

①就学意欲の低下 ②進路変更(就職) ③進路変更(他機関への入学・転学・編入学)
④進路再考 ⑤経済的困難 ⑥学力不足
⑦身体疾患 ⑧精神的理由 ⑨海外留学
⑩その他
(事由)

国外への留学等による休学・退学の場合は、以下に所在先を記入すること。

国・地域および郵便名:

留学等を行う施設名:

(注意)
1. 番号は西暦で記入すること。
2. 進学者は学号を記載すること。
3. 病気・怪我による休学・退学の場合は医師の診断書を添付すること。
4. 休学期間が終了し復学する場合は、後日指定の手続き案内に従い、指定された期間中に復学願を提出し手続をすること。
5. 休学に際し、自費で教員宿舎の滞り等は、その有効期限以内かつ滞り先の滞り先を必ず記入すること。
休学中も日本に留まる必要がある場合は、必ず休学前に入国管理局に相談してください。

大学採用欄一表本欄には、学生および保証人は記入しないこと。

所見欄

記入日) 年 月 日

記入者(氏名)

東洋大学長 学費課長 学務課長 学務課長 学務課長

許可願 (提出日) 年 月 日

学籍番号	学部	第 部	学科	年
本 人	姓	名	TEL ()	
住 所				
氏 名	年 月 日生(満 歳)			
保証 人	姓	名	TEL ()	
住 所				
氏 名	年 月 日生(満 歳)			

※ 保証人欄は、大学に届け出ている者が直筆で署名すること。

【奨学金の受給状況の確認】（はいもしくはいいえを○で囲むこと）

(1) 提出日時点で、奨学金を受給していますか。 (はい・いいえ)
(2) 受給している奨学金は日本学生支援機構(JASSO)の奨学金ですか。 (はい・いいえ)
(3) その他の学内外の奨学金を受給している方は、奨学金名・受給期間を記載してください。

奨学金名

受給期間 年 月 日 ~ 年 月 日

上記の確認事項に「はい」と回答された方は、所属キャンパスの学生生活担当窓口で説明を受けてください。

奨学金受給欄

春学期	休学	20●●年9月30日
秋学期	休学	20●●年3月31日

復学の場合は、復学を○で囲んでください。

学生本人が自筆すること。

保証人本人が自筆すること。

奨学金の受給状況等を確認のうえ、記入すること。

休学理由を詳しく記入すること。
※復学理由は「休学期間終了のため」と記入すること。
※フォーマットが変更となる可能性があります。

◆許可書の発送について◆

大学から許可されると保証人宛に休学許可書が送付されます。なお、外国人留学生の場合は、本人宛に休学許可書が送付されます。

◆許可願の受け取りについて◆

許可願は、原則として教務課窓口で説明を受けた後、受け取ってください。直接教務課に行くことが困難な場合は、ToyoNet-G からダウンロードすることもできます。

◆◆復学◆◆

休学期間を満了し、再び在学することを復学といいます。春学期休学の場合は10月1日付、秋学期休学の場合は次年度4月1日付で復学しなければなりません。

◆◆復学手続の流れ◆◆

復学日約1ヶ月前に大学から送付される**復学手続案内**を確認のうえ、同封の許可願に必要事項を記入し、指定の復学手続日に大学で手続を行ってください。その際、**許可願を必ず提出してください**。

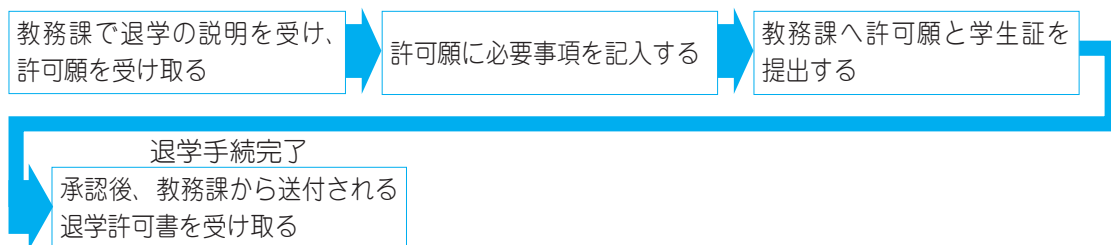
ただし、外国籍の方は、在留資格等の手続に日数がかかることから、通常の手続とは異なります。教務課の指示に従ってください。また、復学手続（在留資格等）については、本学 Web サイトで事前に必ず確認してください。

退学

事情により本学での修学が困難な場合は、大学の許可を得て退学することができます。

退学希望者は、教務課で退学についての説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し学生証を添えて教務課に提出してください。なお、病気・怪我による退学の場合には、許可願に併せて医師の診断書の提出が必要となります。

◆◆退学手続の流れ◆◆



手続については、学生本人が行ってください。やむを得ず本人が手続できない場合は、事前に教務課窓口へ相談してください。

※許可願には、学生本人および保証人自筆の連署が必要です。

また、原則、許可願提出の前に担任教員と面談をする必要があります。

除籍

除籍とは、本学の学則およびその施行のために定められた規則に基づく権利の一切を失うことです。次に該当する場合は、除籍の対象となります。

- ①指定された期間内に納付金を納入しなかった学生
- ②在学年限を超えた学生
- ③定められた休学期間を超えた学生
- ④新入生で指定された期間内に履修登録をしなかった学生
- ⑤その他本学において修学の意思がないと認められる学生
- ⑥外国人留学生で「留学」の在留資格の発給を拒否された学生

◆◆ 除籍日 ◆◆

在校生の除籍日は原則として9月30日又は3月31日となり、新入生で指定された期間内に履修登録をしなかった学生の除籍日は4月30日となります。

◆◆ 除籍となった場合 ◆◆

除籍となった場合、速やかに学生証を返却しなければなりません。なお、除籍通知書は保証人宛に送付します。

再入学

本学を退学した者、または除籍となった者が、再び本学への入学を希望する場合、大学の許可を得て再入学することができます。

再入学を希望する者は、下記の日程までに在籍していた教務課で手続きの説明を受け、許可願用紙に必要な事項を記入し、学生本人・保証人自筆の連署の上、教務課窓口へ提出してください。

	国籍	許可願提出期限	再入学日
春学期(4月)から再入学を希望する者	日本国籍	前年度 1 月末まで	翌年度 4 月 1 日付
	外国籍	前年度 10 月末まで	
秋学期(10月)から再入学を希望する者	日本国籍	当該年度 7 月末まで	当該年度 10 月 1 日付
	外国籍	当該年度 4 月末まで	

※再入学手続（在留資格等）についての詳細は教務課窓口にお問い合わせください。

※東洋大学に再入学するにあたっての再入学手続（在留資格等）については本学 WEB サイトで説明していますので、必ず事前に確認してください。その内容（許可願提出期限ほか）は変更する場合がありますので、必要に応じて本学 WEB サイトで必ず確認してください。



●● 関連 URL <https://www.toyo.ac.jp/academics/student-support/request/certificate03/> ●●



在学時と同じ学部・学科・専攻・コースへの再入学のみ希望することができます。



下記の条件により退学・除籍した者は再入学を希望することはできません。

退学者：在学年限が満期となる学期に退学した者
懲戒により退学となった者

除籍者：在学年限を超えて除籍となった者
休学期間を超えて除籍となった者

Notice

再入学する学年およびセメスタは、本学での最終学籍状況によって異なります。単位の修得状況によっては学年を繰り下げることがあります。また、学科教育課程表は当初の入学年度のものを適用しますが、学科教育課程表が大きく変わっている場合には、再入学する学年の学科教育課程表を適用することがあります。履修方法は、再入学手続き時に教務課窓口で説明をします。不明な点は、在籍していた教務課へ問い合わせてください。

その他の学籍異動

◆◆ 転部・転科 ◆◆

本学内で他の学部・学科への転部・転科を希望する学生に対し選考を実施します。

転部・転科先の学年は2年次または3年次となります。

11月配付予定の試験要項に基づいて手続をし、1月実施予定の試験を受験してください。また、合格発表は翌年3月下旬に行う予定です。試験要項と手続案内については学内掲示で確認してください。詳細は、教務課へ問い合わせてください。



スケジュールは年度により時期が前後する場合があります。
当該年度の掲示案内で確認してください。

◆◆ 懲戒による退学 ◆◆

本学の規則に反し、または学生の本分に反する行為があった学生は、大学の決定を受けて懲戒による退学となる場合があります。

◆◆ 編入学 ◆◆

本学または他大学を卒業後に編入学を希望する者に対して、編入学試験を実施しています。試験要項は、9月頃入試情報サイトに掲載予定です。

編入学する学年は、原則として3年次となります。また、学科教育課程表も編入学する学年のものを適用します。既修単位の取り扱いについては試験要項を確認してください。履修方法については、編入学の手続時に教務課で説明をします。不明点は、教務課へ問い合わせてください。



本学を卒業した者は、卒業した学部・学科への編入学はできません。

◆◆ 転入学 ◆◆

他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出る場合、本学の実施する転入学試験を受験する必要があります。試験要項は、9月頃入試情報サイトに掲載予定です。

転入学する学年は、原則として2年次または3年次となります。また、学科教育課程表も転入学する学年のものを適用します。既修単位の取り扱いについては試験要項を確認してください。履修方法については、転入学の手続時に教務課で説明をします。不明点は、教務課へ問い合わせてください。

◆◆ 科目等履修生 ◆◆

特定の授業科目を履修しようとする場合、科目等履修生として当該授業科目の履修をすることができます。

本学に在籍中は科目等履修生として授業科目を履修することはできません。

詳細は、教務課へ問い合わせてください。

各種証明書

2021年4月1日より一部の証明書を全国のコンビニエンスストアで発行することができます。
詳細は東洋大学 Web サイトをご確認ください。

◆在籍時に発行できる証明書等の種類◆

以下の証明書等が発行できます。

(2021年4月1日時点)

証明書の種類	金額	発行方法	発行期間	備考
・在学証明書 ・成績証明書 ・健康診断証明書 ・履修科目証明書 ・卒業見込証明書	200円	証明書発行機から直接	即日	・健康診断証明書は当該年度に大学が実施する定期健康診断を受診した学生のみ発行可能です ・卒業見込証明書は4年次の4月1日以降に発行可能です
・学割 ・情報システム利用通知書	無料	証明書発行機から直接	即日	・発行枚数に上限があります
・兄弟等の授業料減免に係わる証明書	200円	証明書発行機で申込書を購入(学生支援課窓口へ提出)	1週間	
・奨学金受給証明書 ・奨学生推薦書	200円	証明書発行機で申込書を購入(学生支援課窓口へ提出)	1週間	・英文を希望する場合は国際課へ提出してください
・人物証明書	200円	証明書発行機で申込書を購入(所属学部教務課窓口へ提出) ※購入前に教務課窓口にお問い合わせください。	窓口にお問い合わせください。	・原則として大学所定用紙に卒論担当教員が必要事項を記入後、証明手続きを行います ・記入済み所定用紙を教務課窓口を持参してください
・在籍証明書	200円	証明書発行機で申込書を購入(所属学部教務課窓口へ提出)	即日	・休学中の学生のみ発行可能です
・英文在学証明書 ・英文卒業見込証明書 ・英文在籍証明書	500円	証明書発行機で申込書を購入(所属学部教務課窓口へ提出)	1週間	・英文卒業見込証明書は4年次の4月1日以降に発行可能となります ・英文在籍証明書は休学中の学生のみ発行可能です
・英文成績証明書 ・英文履修科目証明書	1,000円	証明書発行機で申込書を購入(所属学部教務課窓口へ提出)	1週間	
・学生証再発行 (通学定期乗車券発行用証明書含む)	2,000円	証明書発行機で申込書を購入(学生支援課窓口→所属学部教務課窓口の順に提出)	1週間	・申込キャンセルによる手数料の返金はしません
・本学書式以外の証明書 (指定書式での証明書発行を含む)	200円	証明書発行機で申込書を購入	1週間	・必要な証明書については教務課または学生支援課に相談してください

※科目等履修生が和文の証明書を発行する場合は、一律300円かかります。
英文証明書及びその他の申込等は上記のとおりです。

◆卒業後に発行できる証明書の種類◆

以下の証明書が発行できます。証明書の申し込み方法は郵送と窓口受取のどちらでも受け付けています。電話・FAXでの申し込みはできません。

2021年4月1日より一部の証明書を全国のコンビニエンスストアで発行することができます。詳細は大学ホームページを確認してください。

●● 関連 URL <https://www.toyo.ac.jp/alumni/syoumeisyo/> ●●
(各種証明書発行ページ)

(2021年4月1日時点)

証明書の種類	金額	発行方法	発行期間	備考
・卒業証明書 ・成績証明書	500円	< 窓口 > 証明書発行機で申込書を購入 (担当窓口へ提出)	即日	
・単位修得証明書 ・学力に関する証明書 ・社会福祉主事単位修得証明書	500円		1週間	
・人物証明書	500円	< 郵送 > ホームページで確認してください	即日	・在籍時に人物調査書を提出した者のみ発行可能です ・卒業後3年以内まで発行可能です
・英文卒業証明書	500円		1週間	
・英文成績証明書	1,000円		1週間	
・本学書式以外の証明書 (指定書式での証明書発行を含む)	500円	証明書発行機で申込書を購入	1週間	・必要な証明書については教務課または学生支援課に相談してください

※科目等履修生が和文の証明書を発行する場合は一律300円かかります。
英文証明書は上記のとおりです。

◆証明書発行機◆

在学証明書や成績証明書、学割など、一部の証明書は証明書発行機より直接発行することができます。証明書発行機を使用する際には、学生証と、あらかじめ登録した暗証番号が必要となります。



- ・稼働時間は学生の長期休暇、大学祭などにより変更となる場合があります。
- ・稼働時間は掲示や大学ホームページなどでお知らせします。

証明書発行機設置場所	稼働時間
2号館1階 6号館1階 8号館4階	月～金 9:00～20:00 土 9:00～12:45

納付金

定められた期間に納付金を納入しなければ、本学の学生として、在籍することはできません。指定された期間に必ず納入してください。

◆◆納付金額◆◆

「学費」と「その他の費用」を合わせて「納付金」と称します。2 年次以降は、入学金を除く納付金の納入が毎年度必要になります。納付金の内訳は以下のとおりです。

【2021 年度入学生】

(単位：円)

学 部	第 1 部						第 2 部・ イブニングコース	全学部
	文・経済・経営・ 法・社会学部	文学部	社会学部			国際・ 国際観光 学部		
	(右記学科を除く)	教育学科 初等教育専攻	社会福祉学科	メディアコミュニ ケーション学科	社会心理学科 国際社会学科			
納 付 金	入 学 金	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	180,000
	授 業 料	710,000	820,000	710,000	710,000	710,000	780,000	430,000
	一 般 施 設 設 備 資 金	220,000	250,000	220,000	220,000	220,000	220,000	100,000
	教育充実料	—	—	25,000	10,000	15,000	—	—
そ の 他 の 費 用	甫 水 会 費	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	—
	学 生 課 外 活 動 育 成 会 費	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
合 計		1,190,000	1,330,000	1,215,000	1,200,000	1,205,000	1,260,000	715,000

◆◆納入期間◆◆

納付金は、第 1 期に 1 年間分を全額一括納入する方法と、授業料と一般施設設備資金・教育充実料を二期に分けて納入する方法を選択することができます。

第 1 期（春学期）納入期間 4 月 20 日～ 5 月 31 日
第 2 期（秋学期）納入期間 10 月 1 日～ 11 月 10 日

金融機関の営業日にあわせて前後することがあります。



各年度の曜日の関係により、納入期間が短縮される場合があります。

◆◆学籍異動における納付金の取扱◆◆

【休学】

学期始めに休学する場合は、納付金の納入期限までに休学許可願を教務課に提出してください。

＜第 1 期（春学期）の納入期限までに休学を願い出た場合＞

- ・ 休学日を 4 月 1 日付として扱い、納付金のうち、第 1 期（春学期）分の一般施設設備資金の半額とその他の費用を納入する必要があります。
- ・ 全額一括納入した場合は、第 1 期（春学期）分の授業料と一般施設設備資金の半額および第 2 期（秋学期）分の納付金を払い戻しいたします。

＜春学期中に休学する場合＞

- ・ 春学期の途中で休学する場合、第 1 期（春学期）の納付金は払い戻しをいたしません。
- ・ 全額一括納入した場合は、第 2 期（秋学期）分の納付金を払い戻しいたします。

＜第 2 期（秋学期）の納入期限までに休学を願い出た場合＞

- ・ 休学日を 10 月 1 日付として扱い、納付金のうち、第 2 期（秋学期）分の一般施設設備資金の半額とその他の費用を納入する必要があります。
- ・ 第 2 期（秋学期）分の納付金を納入した場合は、第 2 期（秋学期）分の授業料と一般施設設備資金の半額を払い戻しいたします。

＜秋学期中に休学する場合＞

秋学期の途中で休学する場合、第 2 期（秋学期）の納付金は払い戻しをいたしません。

＜2 セメスタ連続して休学する場合＞

連続休学する場合、次学期分の納付金のうち、一般施設設備資金の半額とその他の費用は納入しなければなりません。

【復学】

- ・ 休学者が復学する場合の納付金は、入学年度の額が適用されます。
- ・ 第 2 期（秋学期）に復学する場合は、復学時に 1 セメスタ（半期）分の納付金を納入することになります。
- ・ 1 セメスタ（半期）休学する場合、全額一括納入・分割納入の選択が可能な納入期は、第 1 期（春学期）とします。

【除籍】

所定の納期までに納付金を納入しない学生は、学則第 38 条 1 項により、除籍となります。

【退学】

修学の意思がない場合は、納付金の納入期限までに退学許可願を教務課に提出してください。

＜新学期の納入期限の末日までに退学を願い出た場合＞

退学日を前学期の末日付として扱い、当該年度・学期の納付金を納入する必要はありません。

＜春学期中に退学する場合＞

- ・ 春学期の途中で退学する場合は、第 1 期（春学期）分の納付金は払い戻しをいたしません。
- ・ 全額一括納入した場合は、第 2 期（秋学期）分の納付金は払い戻しいたします。

＜秋学期中に退学する場合＞

秋学期の途中で退学する場合は、第 2 期（秋学期）分の納付金は払い戻しをいたしません。

【再入学】

再入学する場合の納付金は、再入学する学年次の納付金を適用します。ただし、入学金は、再入学する年度の新生の半額となります。

【原級】

4 年次生で原級する場合の納付金は、当該年度正規 4 年次生の納付金を適用します。

【転部・転科】

納付金は転部・転科先の学年の納付金を適用します。ただし、入学金は、転部・転科先との不足分を納入することになります。

【編・転入学】

編・転入学する場合の納付金は、編・転入学する年度の新生の納付金を適用します。ただし、本学出身者が編入学する場合、入学金は、編入学する年度の新生の額の半額となります。

◆◆振込用紙の送付先◆◆

- ・ 振込用紙の送付先は、保証人宛て（ただし、外国人留学生は本人宛て）となります。
- ・ 振込用紙の送付先を変更したい場合は、財務課にて手続きをしてください。

◆◆納入方法◆◆

- ・ 本学所定の納入方法で、振り込んでください。大学窓口での受付および海外からの送金はできません。
- ・ 振込用紙を紛失した場合は、至急、財務課で再発行の手続きを行ってください。
- ・ 納付金に関する証明書の発行が必要な方は、財務課にて申請してください。
- ・ 納入された納付金は、超過納入が明らかな場合または学籍異動に伴い徴収の対象とならない場合を除き返還いたしません。

◆◆納入期間内に納入ができない場合◆◆

やむを得ない事情で納入期限までに納付金を納入できない場合は、**必ず納入期間内に**学生支援課に相談し、所定の手続きを行ってください。

2021年3月 印刷
2021年4月 発行

編集 発行 東洋大学国際観光学部

<https://www.toyo.ac.jp/academics/faculty/itm>
〒112-8606 東京都文京区白山5丁目28番20号

2021年度入学生 履修要覧 国際観光学部

学籍番号

【諸注意】

- この「履修要覧」は、2021年度入学生に適用されるものであり、2020年度以前の入学生には適用されません。
- この「履修要覧」は、卒業時まで使用します。再配付しませんので、大切に使用してください。講義内容に関しては、「シラバス（講義要項）」に掲載されています。
- 記載内容の変更等については、掲示・Webシステムにてお知らせいたします。